Ⅴ　教員の研究・調査活動

【凡例】

●基礎情報

①氏名（family name，first name）②所属・職名・役職・併任　③生年（任意）　④学歴・職歴　⑤最終学位
⑥専門分野　⑦主な研究テーマ　⑧所属学会　⑨研究目的・研究状況・メールアドレス（任意）

●主要業績（研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの）

・著書（単著・共著・編著・監修）
・論文
・調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
・展示図録・資料図録・映像・ＤＢ
・学会・外部研究会発表
・総研大リーフレット
・その他

●2020年度の研究教育活動（成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む）

一　研究業績（公開，発表，刊行済みのもの）

1　著書（単著・共著・編著・監修）
2　論文（査読あり，なしを明記）
3　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
5　学会・外部研究会発表
6　総研大リーフレット
7　その他（歴史系総合誌『歴博』，友の会ニュース，『本郷』など）

二　主な研究教育活動（共同研究，調査，展示，教育等）

1　主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）
　①　歴博（基幹・基盤・開発型，国内交流事業）
　②　他の機関
　③　機構（基幹研究プロジェクト）
2　外部資金による研究（科学研究費などの外部資金，各種補助金による研究，企業・自体体による研究）
3　国際交流事業（国際交流協定にもとづく事業，国際シンポジウム・集会など）
4　主な展示・資料活動（展示・資料・ＤＢなど）
5　教育（総研大シンポ，大学院セミナー担当，大学非常勤講師，学位審査の主査・副査・委員，博物館活動，教育プログラムなど）

三　社会活動等

1　館外における各種委員（学会，学術会議，文化庁・学振・自治体審議委員など）
2　講演・カルチャーセンターなど（友の会も含む）
3　マスコミ（テレビ，ラジオ，新聞，雑誌など）
4　社会連携（国内）
　①　刊行物（自治体など地方公共団体刊行のもの：市史，発掘調査報告書など）
　②　共同研究（自治体からの委託研究や産業界との共同研究）
　③　講演会・シンポジウム（自治体など地方公共団体主催のもの）
　④　デジタル・コンテンツ開発（自治体の経費で開発したもの）
5　国際連携（日本国内で行われたものも含む）
　①　JICA
　②　国際交流基金
　③　その他

四　活動報告

1　受賞歴

2　特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの（第四期の会，30年史編集委員会など）

3　研究・調査プロジェクト報告

4　その他（研究の目的，意義など）＊任意

西谷　大　NISHITANI Masaru　館長（2020.4～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2012～），生年：1959

【学歴】熊本大学文学部史学科（1984年卒業），熊本大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了（1986年単位取得退学），中華人民共和国中山大学人類学系（1989年まで留学）【職歴】国立歴史民俗博物館考古研究部助手（1989），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2012），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2012），博物館資源センター長併任（2013～2015），副館長併任（2017～2019）
【学位】文学修士（熊本大学）（1986年取得），文学博士（総合研究大学院大学）（2008年取得）
【専門分野】東アジア人類史【主な研究テーマ】東アジアの生業に関わる歴史　日本の地域研究（人と自然の関係史）
【所属学会】中国考古学会，東南アジア考古学会【研究目的・研究状況・メールアドレス】東アジアにおける生業の歴史を主な研究目的とする。中国海南省のリー族，中国雲南省紅河州の者米谷でフィールド調査を行ってきた。近年は，千葉県房総丘陵地域で，近世から現代までの人と自然の関係史を，様々な分野の研究者と共同でフィールド調査を行っている。

●主要業績

1．【編著】「［共同研究］東アジアにおける多用な自然利用―水田農耕民と焼畑農耕民」『国立歴史民俗博物館研究報告』第164集，国立歴史民俗博物館，Ａ４版，177頁，2011年３月
2．【単著】『多民族の住む谷間の民族誌―生業と市からみた環境利用と市場メカニズムの生起』角川学芸出版，Ａ５版，335頁，2011年９月
3．【論文】Nishitani Masaru and Nathan Badenoch「Why Periodic Markets Are Held : Considering Products, People, and Place in the Yunnan-Vietnam Border Area 」Vol 2. No 1. of Southeast Asian Studies, pp.171-192, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 2013年４月（査読有）
4．【論文】西谷 大・島立理子・大久保悟「共同研究［日本の中山間地域における人と自然の文化誌］中間報告―二号穴からみた水利用―」『国立歴史民俗博物館研究報告』第186集，pp.295-309，国立歴史民俗博物館，2014年３月（査読有）
5．【論文】西谷 大「豚便所―飼養形態からみた豚文化の特質」『国立歴史民俗博物館研究報告』第90集，pp.79-149，国立歴史民俗博物館，2001年３月（査読有）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

3　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
「２．食べ物・飲み物　モドキ食品　imitation food」野林厚志：著編集『世界の食文化百科事典』丸善出版，pp.98-99，2021年１月30日
設楽博己・西谷大「発掘調査地点と調査・整理・分析の方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』227　国立歴史民俗博物館，pp.43-48，2021年３月31日
「貝類」『国立歴史民俗博物館研究報告』227　国立歴史民俗博物館，pp.190-191，2021年３月31日
「貝採集活動の特徴」『国立歴史民俗博物館研究報告』227　国立歴史民俗博物館，pp.447-449，2021年３月31日
「狩猟活動の特徴」『国立歴史民俗博物館研究報告』227　国立歴史民俗博物館，pp.449-450，2021年３月31日
「貝・獣骨・魚骨の組成からみた荒海貝塚の生業の特徴」『国立歴史民俗博物館研究報告』227　国立歴史民俗博物館，pp.453-457，2021年３月31日

7　その他
「館長挨拶」『友の会ニュース』No.210，一般財団法人歴史民俗博物館振興会，2020年８月５日
「特集対談　歴史学はこういうときに，何ができるか　木下尚子×西谷大」『REKIHAKU』１，pp.8-25，国立歴史民俗博物館，文学通信，2020年10月26日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

①　歴博

機関拠点型基幹研究「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」, 研究代表, 2016年度～

③　機構

「アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開」（代表：野林 厚志）

4　主な展示・資料活動

総合展示第１室「大テーマ名 弥生」展示プロジェクト委員

三　社会活動等

1　館外における各種委員

日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会 委員，公益財団法人佐倉国際交流基金 評議員，公益財団法人味の素食の文化センター 評議員，大和郡山市 水木十五堂賞選考委員会委員，千葉県教育委員会 スーパーサイエンスハイスクール（千葉県立佐倉高等学校）運営指導協議員 日本郵便株式会社 郵便切手アドバイザリー・グループ委員，国立大学法人佐賀大学 佐賀大学研究センター評価委員，独立行政法人国立文化財機構 施設長推薦委員会委員

2　講演・カルチャーセンターなど

「ホンモノより価値のあるニセモノたち」2020年度 横浜歴博もりあげ隊 第14回歴史講演会，横浜市歴史博物館 講堂，2020年11月28日

3　マスコミ

「とらのもん往来」週刊文教ニュース p.45，文教ニュース社，2020年４月27日

「ひと」朝日新聞朝刊，朝日新聞社，2020年５月29日

「リーダーに聞く『西谷大　国立歴史民俗博物館新館長』」NIHU　Magazine vol.060，大学共同利用機関法人人間文化研究機構，2021年２月15日

四　活動報告

[研究部]（50音順）

青木　隆浩　AOKI Takahiro　准教授（2008.10～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2010～）

【学歴】法政大学文学部地理学科（1993年卒業），明治大学大学院文学研究科地理学専攻博士前期課程（1996年修了），東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士後期課程（2000年修了）

【職歴】国立歴史民俗博物館民俗研究部助手（2002），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2010）

【学位】学術博士（東京大学）（2000年取得）【専門分野】地理学，民俗学，産業史【主な研究テーマ】酒造業，化粧品・トイレタリー産業，商家経営，社会規範【所属学会】日本民俗学会，社会経済史学会，経営史学会，日本地理学会，東京地学協会，人文地理学会，歴史地理学会，環境科学会，酒史学会【研究目的・研究状況】主要な関心は，近現代の清酒製造業を事例として，中小零細企業の多い伝統的な産業が長く経営を維持してきた要因を，商家の組織や，技術継承の方法，組合や品評会，戦時統制などの政策の影響といった複合的な要因から明らかにすることである。また，近代の禁酒運動や未成年者喫煙禁止法をおもな対象として，社会規範の形成過程を追いかけている。他にも，近年は観光化を目的とした景観保護が，地域の生活や文化にどのような影響を与えているか，近代以降に人々の衛生観や美容観がどのように変化したかといった研究テーマに取り組んでいる。

●主要業績

1．【著書】青木隆浩『近代酒造業の地域的展開』258＋９頁，吉川弘文館，2003年12月
2．【概説書】国立歴史民俗博物館＋青木隆浩編『人と植物の文化史』180頁，古今書院，2017年３月
3．【研究報告特集号】青木隆浩編著『地域開発における文化の保存と利用』国立歴史民俗博物館研究報告第193集，303頁，2015年２月
4．【展示図録】青木隆浩編著『身体をめぐる商品史』国立歴史民俗博物館平成28年度企画展示図録，125頁，2016年12月
5．【映像】青木隆浩監督「平成の酒造り」製造編88分，継承・革新編88分，毎日映画社編集協力，2010年３月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
青木隆浩「石鹸とシャンプーの近現代史」『REKIHAKU』1，pp.98-99，国立歴史民俗博物館，文学通信，2020年10月26日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況
①　歴博
基幹研究「近代日本における産業・労働の展開とジェンダー」（研究代表者：横山百合子），2019～2021年度
基盤研究「歴博研究映像の制作・保存・活用―苧麻文化の映像記録化を中心に」（研究代表者：春日聡），2019～2021年度
基盤研究「日本植物文化史の分野横断的な検証と展示手法の再構築」（研究代表者：青木隆浩），2020～2022年度

2　外部資金による研究
日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）「醸造業による農村工業化と和食文化の形成に関する地域比較研究」（研究代表者：井奥成彦），2017～2021年度

4　主な展示・資料活動
第４展示室特集展示「石鹸・化粧品の近現代史」（展示代表者：青木隆浩），2019年12月３日（火）～2020年８月30日（日）
総合展示第５・６展示室リニューアル展示プロジェクト委員

三　社会活動等

1　館外における各種委員
歴史地理学会評議員
歴史地理学会編集委員

3　研究・調査プロジェクト報告
例年通り，醸造業と化粧品・トイレタリー産業の研究を進めた。とくに，化粧品・トイレタリー産業については，第４展示室特集展示「石鹸・化粧品の近現代史」（展示代表者：青木隆浩），新型コロナウイルスの影響によって第Ⅲ期の会期が延期されたことで，内容を充実化させることにした。

四　活動報告

荒木　和憲　ARAKI Kazunori　准教授（2015.7～）

生年：1978

【学歴】九州大学文学部史学科日本史学専攻（2001年卒業），九州大学大学院人文科学府歴史空間論専攻日本史学専修修士課程（2003年修了），九州大学大学院人文科学府歴史空間論専攻日本史学専修博士後期課程（2006年修了）
【職歴】独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館学芸部研究員（2008），文化庁文化財部美術学芸課文部科学技官（2009），独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館学芸部研究員（2012），同主任研究員（2013），大学共同

利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2015.7～）
【学位】博士（文学，九州大学）（2006年取得）【専門分野】日本中世史・東アジア交流史【主な研究テーマ】中世日本と東アジアとの交流史，日朝交流史【所属学会】史学会，九州史学研究会【研究目的・研究状況】https://researchmap.jp/araki-k

●主要業績

1．【著書】荒木和憲『中世対馬宗氏領国と朝鮮』（山川出版社，329頁，2007年）
2．【著書】荒木和憲『対馬宗氏の中世史』（吉川弘文館，289頁，2017年）
3．【論文】荒木和憲「中世日朝通交貿易の基本構造をめぐって」（『朝鮮史研究会論文集』51，pp.79-109，2013年
4．【論文】荒木和憲「中世前期の対馬と貿易陶磁」（『貿易陶磁研究』37，pp.3-26，2017年）
5．【論文】荒木和憲「己酉約条の締結・施行過程と対馬の「藩営」貿易」（韓日文化交流基金編『壬辰倭乱から朝鮮通信使の道へ』韓国・景仁文化社，pp.107-142，2019年３月）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
分担執筆「中世の「日本」はどんなカタチをしていたのか？」『REKIHAKU』２，pp.37-43，国立歴史民俗博物館，2021年２月26日
分担執筆「中世日本境界領域論」『増補改訂新版　日本中世史入門』pp.488-506，勉誠出版，2021年３月１日
編著『国立歴史民俗博物館研究報告』223（中世日本の国際交流における海上交通に関する研究），406頁，2021年３月15日

2　論文
「中世日朝通交貿易における船と航海」『国立歴史民俗博物館研究報告』223, pp.339-386，国立歴史民俗博物館，2021年３月15日（査読有）
「中世日本往復外交文書をめぐる様式論的検討」『国立歴史民俗博物館研究報告』224，pp.213-265，国立歴史民俗博物館，2021年３月24日（査読有）
「古琉球期王権論」『国立歴史民俗博物館研究報告』226, pp.251-286，国立歴史民俗博物館, 2021年３月31日（査読有）

3　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
編著『中世日本 東アジア交流史関係史料集成（稿）記録編』，科学研究費補助金研究成果報告書，620頁，2021年３月
編著『中世日本 東アジア交流史関係史料集成（稿）文書編』，科学研究費補助金研究成果報告書，653頁，2021年３月
編著『中世日本 東アジア交流史関係史料集成（稿）典籍編・銘文編』，科学研究費補助金研究成果報告書，537頁，2021年３月

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
「中世日本 東アジア交流史関係史料集成データベース」（https://khirin-ld.rekihaku.ac.jp/）

5　学会・外部研究会発表
「室町期北部九州の政治構造」日本史研究会例会，日本史研究会，2021年３月21日
「航海からみた中世日朝交流」九州大学韓国研究センター第95回定例研究会「日韓交流史における対馬海峡の交通」，2021年３月30日

7　その他
「対外関係（回顧と展望，日本（中世））」『史学雑誌』129-5，pp.90-93，史学会，2020年５月20日
「14世紀の「唐船」と京都の感染症」『Kokushi Email Newsletter』20，pp.1-3，公益財団法人渥美国際交流財団関口グローバル研究会，2020年８月20日
（翻訳）李明玉著「高麗時代の遺跡から出土する中国陶磁器の状況と特徴」『国立歴史民俗博物館研究報告』223，pp.313-338，国立歴史民俗博物館，2021年３月15日（査読有）
「古琉球の王権」企画展示図録『海の帝国琉球』p.70，国立歴史民俗博物館，2021年３月16日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

①　歴博

基盤研究「高精度同位体比分析法を用いた古代青銅原料の産地と採鉱に関する研究」(研究代表者:齋藤努，2018～20年度，共同研究員)

基盤研究「日本植物文化史の分野横断的な検証と展示手法の再構築」(研究代表者：青木隆浩，2020～22年度，共同研究員)

共同利用型共同研究「中世伊勢神宮領荘園の総合的研究」(研究代表者：永沼菜未，2020年度，館内担当教員)

②　他の機関

東京大学史料編纂所一般共同研究「史料編纂所所蔵明清中国公文書関係史料の比較研究」(研究代表者：東京大学 渡辺美季，2020年度，共同研究員)

東京大学史料編纂所一般共同研究「14～17世紀における奄美・琉球関係史料の学際的研究」(研究代表者：国立歴史民俗博物館 村木二郎，2020年度，共同研究員)

③　機構

機関拠点型基幹研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」(研究代表者：西谷大，2016～2021年度，共同研究員)

ネットワーク型基幹研究プロジェクト「ハーグ国立文書館所蔵平戸オランダ商館文書の調査研究・活用」(研究代表者：国際日本文化研究センター クレインス・フレデリック，2016～2021年度，共同研究員)

2　外部資金による研究

基盤研究（B)「中世日本の東アジア交流史に関する史料の集成的研究と研究資源化」(研究代表者，2016～2020年度)

基盤研究（A)「高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究」(研究代表者：齋藤努，2017～2020年度，研究分担者)

基盤研究（A)「琉球帝国からみた東アジア海域世界の流動的様態と国家」(研究代表者：村木二郎，2018～2021年度，研究分担者)

4　主な展示・資料活動

2020年度企画展示「海の帝国琉球」展示プロジェクト副代表

2021年度企画展示「中世武士団」展示プロジェクト副代表

館蔵中世古文書データベース（更新中）

三　社会活動等

1　館外における各種委員

九州史学研究会 編集委員（2012年度～）

福岡市史編集委員会中世専門部会 専門委員（2008年度～）

韓国・江原史学会 編集委員（2017年度～）

日本貿易陶磁研究会 世話人（2017年度～）

日本学術振興会科学研究費委員会審査委員（2018年度）

2　講演・カルチャーセンターなど

「中世日本の国際交流」朝日カルチャー千葉教室「今につながる日本文化の形成に迫る」2021年２月19日

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告

室町期北部九州の政治構造に関する包括的な把握を試み，日本史研究会例会（３月）で口頭報告を行った。新型コロナウィルスの感染拡大にともない，登壇予定の学会の延期・中止，またはオンライン開催への変更が生じたため，経費は主として書籍購入に充当した。

上野　祥史　UENO Yoshifumi　准教授（2009.10～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2010～）

【学歴】京都大学文学部史学科考古学専攻（1996年卒業），京都大学大学院文学研究科考古学専修修士課程（1999年修了），京都大学大学院文学研究科考古学専修博士後期課程（2000年中退）
【職歴】国立歴史民俗博物館考古研究部助手（2000），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2009），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2010）
【学位】文学修士（京都大学）（1999年取得）【専門分野】東アジア考古学【主な研究テーマ】漢三国六朝期の古代東アジア世界の展開Archaeological Study of Ancient East Asia【所属学会】史学研究会，考古学研究会，日本中国考古学会【研究目的・研究状況】漢三国六朝期，つまり弥生時代から古墳時代にかけての時期を対象に，東アジア世界各地の相互交渉を研究の目的の一つとしている。鏡や装身具などの金工具を検討し，価値・観念・製作技術という視点から，中国大陸と日本列島の社会動態を描き出すことに取組んでいる。

●主要業績

1．【論文】「３世紀の神獣鏡生産―画文帯神獣鏡と銘文帯神獣鏡―」『中国考古学』第７号，日本中国考古学会，pp.189-216，2007年
2．【共編著】『マロ塚古墳出土品を中心にした古墳時代中期武器武具の研究』国立歴史民俗博物館研究報告第173集，総624頁，2012年
3．【編著】『祇園大塚山古墳と５世紀という時代』六一書房，総136頁，2013年
4．【編著】『古代東アジアにおける倭世界の実態』国立歴史民俗博物館研究報告第211集，総512頁，2018年
5．【編著】『東アジアと倭の眼でみた古墳時代』国立歴史民俗博物館研究叢７，総192頁，2020年

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

２　論文
「文字資料と物質文化」『秦帝国の誕生―古代史研究のクロスロード―』pp.13-135，六一書房，2020年12月25日（査読無）
「金鈴塚古墳出土鏡と古墳時代後期の鏡」『金鈴塚古墳出土品再整理報告書』第２冊，pp.45-58，木更津市郷土博物館金のすず，2020年３月27日（査読無）（普及公開時期との関係による）
「金鈴塚古墳の埋葬プロセスと被葬者の評価」『金鈴塚古墳出土品再整理報告書』第２冊pp.159-182，木更津市郷土博物館金のすず，2020年３月27日（査読無）（同上記）

３　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
「第１節　装身具類（２～10項）」『金鈴塚古墳出土品再整理報告書』第１冊pp.70-89，木更津市郷土博物館金のすず，2020年３月27日（査読無）（同上記）
「第３節　鏡」『金鈴塚古墳出土品再整理報告書』第１冊pp.136-140，木更津市郷土博物館金のすず，2020年３月27日（査読無）（同上記）

４　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
『加耶―古代東アジアを生きた，ある王国の歴史―』（企画展示図録編集／展示延期のため印刷未了）

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況
①　歴博
基盤研究「近畿地方における弥生時代～古墳時代初頭の金属生産と社会」副代表（2019～2021年度）
基盤研究「古墳時代・三国時代の日朝関係における交渉経路と寄港地に関する日韓共同研究」副代表（2019～2021年度）

２　外部資金による研究
基盤研究（B）「器物の「伝世・長期保有」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持」研究分担者（2019～2022年度）

新学術領域研究（研究領域提案型）「心・身体・社会をつなぐアート／技術」研究分担者（2019～2023年度）

4　主な展示・資料活動

総合展示第１室「Ⅳ倭の登場」「Ⅴ倭の前方後円墳と東アジア」展示プロジェクト委員

企画展示「加耶―古代東アジアを生きた，ある王国の歴史―」展示副代表

5　教育

上智大学非常勤講師「隣接諸学Ⅳ　考古学概論」

女子美術大学非常勤講師「文化遺産学Ａ・Ｂ」「比較文化論」「芸術文化ゼミⅠ」

三　社会活動等

1　館外における各種委員

日本考古学会監査・日本中国考古学会幹事・木更津市史編集部会員

3　マスコミ

NHK-BS番組『邪馬台国サミット2021』（2021年１月１日放送）

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告

中国における秦漢時代から三国両晋南北朝時代の出土資料を集成し，器物の生産・流通および葬送観念を通じて物質文化論的視点から中国古代・中世社会の構造を検討すること，中国文物を通じた朝鮮半島・日本列島との交流について検討すること目的としている。当該年度の研究成果は，一部が『秦帝国の誕生』（六一書房）等で公開したが，各種論考を執筆し公開に向けた準備を進めてきた。

内田　順子　UCHIDA Junko　教授（2020.4～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2009～）

【学歴】東京芸術大学音楽学部楽理科（1990年卒業），東京芸術大学大学院音楽研究科音楽学専攻（1993年修了，総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻博士後期課程（1997年修了）

【職歴】国際日本文化研究センター中核的研究機関研究員（1997），日本学術振興会特別研究員（1997），国立歴史民俗博物館民俗研究部助手(1999),大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手(2004),大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館民俗研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2009），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館民俗研究部教授（2020），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2020）

【学位】学術博士（総合研究大学院大学）（1997年取得）【専門分野】音楽学，民俗学【主な研究テーマ】音楽の伝承過程についての研究／資料批判に基づいた映像研究【所属学会】東洋音楽学会，日本音楽学会，沖縄文化協会，日本民俗学会【研究目的・研究状況】ある社会において神聖なものの位地に置かれている音楽の伝承過程や伝承方法を明らかにするため，宮古島をフィールドとして調査研究を継続している。また，歴史的な映像を資料批判的研究に基づいて再解釈することをとおして，映像の歴史資料としての可能性と限界を考察する研究を実施している。

●主要業績

1．【著書】

内田順子（編）・国立歴史民俗博物館（監修）『映し出されたアイヌ文化―英国人医師マンローの伝えた映像』160頁，吉川弘文館，2020年

『宮古島狩俣の神歌―その継承と創成―』思文閣出版，2000年

2．【論文】

「与えられたことば―宮古島狩俣における神歌の継承―」，斎藤英喜編『呪術の知とテクネー―世界と主体の変容―』，森話社，pp.107-136，2003年

3．【調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など】

『国立歴史民俗博物館研究報告』第168集（「マンローコレクション研究―写真・映画・文書を中心に―」），299頁，2011年

4．【展示図録・資料図録・映像・ＤＢ】
民俗研究映像「AINU Past and Present―マンローのフィルムから見えてくるもの」（ビデオ，102分，監督：内田順子・鈴木由紀，制作：内田順子・岡田一男），2007年
5．【その他】
「平成17年度 国立歴史民俗博物館 民俗研究映像『AINU Past and Present―マンローのフィルムから見えてくるもの―』：映画フィルムの資料批判的研究に関連する研究ノート」，『国立歴史民俗博物館研究報告』150，国立歴史民俗博物館，pp.179-192，2009年

●2020年度の研究教育活動（成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む）

一　研究業績

1　著書
共編著『REKIHAKU：されど歴史』国立歴史民俗博物館，文学通信　2020年10月26日

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
展示図録:「「家庭」と「主婦」―おもに音楽との関わりから」，「石井筆子（1861-1944）と天使のピアノ」，「西洋音楽の手法で沖縄音楽の魅力を伝えた作曲家　金井喜久子（1906-1986）」，国立歴史民俗博物館展示図録『性差の日本史』，pp.232-233・p.234・p.235，2020年10月６日
映像：『第１部　天使のピアノの音色に親しむ　バッハ　ベートーヴェン　デュラン』，『第２部　北欧の女性作曲家　グレンダールとアンドレー』，『第３部　地域・ジェンダーを超えて　金井喜久子　バダジェフスカ聖歌』〈第113回歴博フォーラム「音楽と女性たち『天使のピアノ』とともに」にかえて〉（2020年10月13日YouTube公開）
映像：『ジェンダーを超えて―村木厚子さんに聞く』（短いバージョン），『ジェンダーを超えて―村木厚子さんに聞く』（長いバージョン），国立歴史民俗博物館展示『性差の日本史』（2020年10月20日YouTube公開）

7　その他
「市の楽しみ（第１回）」『REKIHAKU』１，pp.100-101，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日
「市の楽しみ（第２回）」『REKIHAKU』２，pp.102-104，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日
「アイヌ文化へのまなざし―N.G.マンローの写真コレクションを中心に」『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』No.212，pp.1-2，2020年12月５日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況
③　機構
機構基幹研究プロジェクト（広領域連携型基幹研究プロジェクト：日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築）「地域における歴史文化研究拠点の構築」（2016～2021年度）共同研究員

2　外部資金による研究
科研基盤研究B「文化の主体的継承のための民俗誌の構築―マルチメディアの活用と協働作業を通じて」（2018～2022年度）研究分担者
科研基盤研究A「『研究に真に使える』歴史資料情報基盤の構築―データ持続性研究と人文情報学の実践―」（2018～2020年度）研究分担者

4　主な展示・資料活動
総合展示第４室「『民俗』へのまなざし」展示プロジェクト委員
総合展示第５室「近代」展示プロジェクト委員
2020年度企画展示「性差の日本史」展示プロジェクト委員
総合展示第４室・特集展示「アイヌ文化へのまなざし―N.G.マンローの写真コレクションを中心に―」展示代表

5　教育
國學院大学非常勤講師「映像文化論」

三　社会活動等

2　講演・カルチャーセンターなど
講演:「1930年代の映画と写真資料より」（魅力満載！アイヌ文化･歴史を学ぶ）江東区豊洲シビックセンター，2020年10月30日

３　マスコミ
「来日の医師が見たアイヌ文化」朝日新聞，2021年１月21日
「イヨマンテ記録映画初公開」産経新聞，2021年２月22日

四　活動報告
３　研究・調査プロジェクト報告
今年度は，新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から，予定していた北海道での調査は実施できなかったが，特集展示「アイヌ文化へのまなざし―N.G.マンローの写真コレクションを中心に―」を開催し，N.G.マンロー撮影のアイヌ関係の映画についての研究成果を発信した。北海道調査にかえて，沖縄県宮古島出身の作曲家である金井喜久子に関連する写真・文書の調査とリスト化を開始した。

大久保　純一　OKUBO Jun'ichi　教授（2008.4～），副館長（2020.4～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2008～），生年：1959

【学歴】東京大学文学部第二類（史学）美術史学専修課程（1982年卒業），東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程（1984年修了）
【職歴】名古屋大学文学部助手（1985），東京国立博物館研究員（1987），跡見学園女子大学文学部助教授（1995），国立歴史民俗博物館情報資料研究部助教授（2000），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2001），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2008），博物館資源センター長併任（2009～2010，2016～2018），副館長併任（2012～2013，2020～），町田市立国際版画美術館館長（非常勤，2019～）
【学位】博士（文学）（東京大学）（2006年取得）【専門分野】日本近世絵画史【主な研究テーマ】浮世絵，江戸後期の風景表現【所属学会】美術史学会，国際浮世絵学会【研究目的・研究状況】浮世絵を江戸時代絵画史，出版文化史および江戸の都市史の中に位置づけて考察すること。

●主要業績
１．【著書】大久保純一『広重と浮世絵風景画』317頁，東京大学出版会，2007年４月
２．【著書】大久保純一『浮世絵出版論　大量生産・消費される〈美術〉』226頁，吉川弘文館，2013年４月
３．【概説書】大久保純一『千変万化に描く　北斎の冨嶽三十六景』127頁，小学館，2005年９月
４．【概説書】大久保純一『カラー版　浮世絵』（岩波新書），196頁，岩波書店，2008年11月
５．【概説書】大久保純一『カラー版　北斎』（岩波新書），194頁，岩波書店，2012年５月

●2020年度の研究教育活動
一　研究業績
２　論文
「錦絵に見る料理茶屋情報―「江戸高名会亭尽」を中心に―」『国立歴史民俗博物館研究報告』222，pp.81-100，国立歴史民俗博物館，2020年11月（査読有）
４　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
「広重･清親･巴水―三世代をつなぐもの―」および作品解説『浮世絵風景画　広重･清親･巴水　三世代の眼』，pp.6-10，183-190，町田市立国際版画美術館，2021年３月
７　その他（友の会ニュース，『本郷』など）
「描かれた都の熱狂　蝶々踊り図屏風」『REAKIHAKU』１，pp.76-79，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日
「遺跡を尋ねて　第Ⅳ期（第６回）品川台場　幕末の海上要塞」『学士会報』945，pp.95-101，学士会，2020年11月

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

①　歴博

「近世の普請における入札と実施システムの検討－幕府小普請方支配御屋根方棟梁鈴木家を起点に－」(代表：学習院女子大学・岩淵令治）副代表，2020年度

「棟梁鈴木家文書」図面類による建築物の復元的研究（代表：東京都公文書館・小粥祐子）副代表，2020年度

「幕府小普請方支配御屋根方棟梁の職掌と存立状況の研究」（代表：東京都公文書館・工藤航平）副代表，2020年度

③　機構

「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用―日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築―」，2016年度～

3　国際交流事業

イギリス・ウエールズ国立博物館における，日本の歴史展示構築のための調査研究（代表）

三　社会活動等

1　館外における各種委員

佐倉市美術館運営委員，太田記念美術館浮世絵研究助成選考委員，国際浮世絵学会理事長，平木浮世絵財団評議員，日本版画協会理事

2　講演・カルチャーセンターなど

「浮世絵と地域文化」藤澤浮世絵館，11月14日

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告

新型コロナ感染拡大の影響で予定していた関西方面の博物館や美術館の現地調査は十分行えなかったが，都内近県の施設を中心に，展示活動の調査をおこなった。また文献を通して，展示内容に関係する美術作品に関しての知見を深めた。

小倉　慈司　OGURA Shigeji　准教授（2010.4～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2010～）

【学歴】東京大学文学部国史学専修課程（1990年卒業），東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻修士課程（1992年修了），東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻博士課程（1995年単位修得退学）

【職歴】放送大学非常勤講師(1995)，日本学術振興会特別研究員(ＰＤ)(1996)，宮内庁書陵部編修課研究員(1996)，同主任研究官（2003)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2010)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2010)

【学位】博士（文学）（東京大学）(1999年取得)【専門分野】日本古代史，史料学【主な研究テーマ】古代神祇制度の研究，禁裏・公家文庫の研究，延喜式の研究，渡辺村史研究【所属学会】木簡学会，日本歴史学会，日本史研究会，大阪歴史学会，出雲古代史研究会，正倉院文書研究会，古代学協会，東方学会，史学会，日本古文書学会

●主要業績

1．【論文】「皮革生産賤視観の発生」(『日本史研究』第691号，pp.1-21，査読有，2020年３月）

2．【論文】「「高松宮家伝来禁裏本」の形成過程」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第178集, pp.353-404，査読有，2013年３月）

3．【概説書】小倉慈司『事典　日本の年号』432頁，吉川弘文館，2019年６月

4．【展示図録】小倉慈司編著『文字がつなぐ―古代の日本列島と朝鮮半島―』国立歴史民俗博物館平成26年度企画展図録，247頁，2014年10月

5．【科研】基盤研究（Ｂ）「史料学的検討を重視した『延喜式』の基礎的研究」16H03485，2016年４月～2020年３月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書

小口雅史：編「『延喜式』巻九・一〇の写本系統」『古代東アジア史料論』同成社　古代史選書34，pp.71-98，2020年６月30日

新古代史の会：編「『延喜式』」，『テーマで学ぶ日本古代史』社会・史料編，pp.231-240，吉川弘文館，2020年６月１日

2　論文

「前近代の年号―決定方法とその出典，意味」『日本語学』39-4，pp.22-31，明治書院，査読無，2020年12月10日

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発

延喜式関係論文目録ＤＢ　データ増補

春記　データ修正

5　学会・外部研究会発表

コメント「古代食の総合的復元と疾病との関係解明」シンポジウム，オンライン（東京医療保健大学），2020年９月13日

「旧フランス極東学院日本語資料中の典籍写本調査への期待（Expectations for the Research on the Manuscripts of EFFO Japanese Book Collection）」The International Conference “Ancient Japanese Book Collection of the Social Sciences Library - Issues and Potential”，ベトナム社会科学院附属社会科学情報研究所（オンライン），2020年10月14日（査読有）

7　その他

書評「矢野建一著『日本古代の宗教と社会』」『歴史評論』840，歴史科学協議会，pp.77-81，2020年４月１日

「特集展示　庫外正倉院文書と盤龍鏡某井上辰雄氏蒐集資料展」，『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』，歴博友の会，国立歴史民俗博物館，2020年４月５日

「『石母田正と戦後マルクス主義史学』をひもとく」『アリーナ』23，pp.764-770，中部大学，2020年11月29日

「EFEO旧蔵資料中の典籍写本調査への期待」『リテラシー史研究』14，pp.76-84，リテラシー史研究会，2021年１月31日

「改元はいつ行われるのか？」『REKIHAKU』２，pp.100-101，国立歴史民俗博物館，2021年２月26日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

①　歴博

「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」分担者（2016～2021年度）

「『広橋家旧蔵記録文書典籍類』を素材とする中世公家の家蔵史料群に関する研究」分担者（2020～2022年度）

②　他の機関

東京大学史料編纂所「中近世古文書の多面的分析にもとづく料紙の歴史的変遷の研究」分担者（2020年度）

③　機構

基幹研究プロジェクト「異分野融合による「総合書物学」の構築」ユニット「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」代表（2016～2021年度）

2　外部資金による研究

科学研究費基盤研究（Ｂ）「格・式研究を踏まえた日本古代社会像の再構築」研究代表者，2020～2022年度予定

科学研究費基盤研究（Ｓ）「天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展―知の体系の構造伝来の解明」研究分担者，2017～2021年度予定

科学研究費基盤研究（Ｃ）「出雲国造北島家文書の総合的研究」研究分担者，2018～2020年度予定

科学研究費基盤研究（Ａ）「人権と差別をめぐる比較宗教史」研究分担者，2019～2021年度予定

科学研究費基盤研究（Ａ）「「国際古文書料紙学」の確立」研究分担者，2019～2022年度予定

科学研究費基盤研究（Ａ）「東アジアにおける古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病」研究分担者，2020～2024年度予定

4　主な展示・資料活動

第１室特集展示「庫外正倉院文書と盤龍鏡」展展示代表

企画展示「集める・写す・伝える―蒐集と好古の文化史―（仮称）」展示プロジェクト委員

5　教育

法政大学大学院史学専攻非常勤講師（日本古代史演習Ⅰ～Ⅳ）

「『延喜式』とはなにか／『延喜式』の写本・版本」総研大文化科学研究科共通科目「総合書物論」，国文学研究資料館

三　社会活動等

1　館外における各種委員

日本歴史学会評議員・理事，同学会誌『日本歴史』編集代表，正倉院文書研究会委員，『史学雑誌』編集委員

2　講演・カルチャーセンターなど

「天皇と宗教の歴史」朝日カルチャーセンター新宿，2020年９月24日

「平安王朝文化と書物の世界」，講座「平安～桃山/今につながる日本文化の形成に迫る」，朝日カルチャーセンター千葉，2021年１月14日

四　活動報告

2　特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

第四期将来計画会議議長

3　研究・調査プロジェクト報告

前近代の文字資料（古記録，典籍，書誌学等）の調査および研究，渡辺村史についての調査研究をおこなった。その成果は論文・書評等として公表した。

川村　清志　KAWAMURA Kiyoshi　准教授（2012.4～）

併任：総合研究大学院大学日本歴史研究専攻准教授（2014.4～）生年：1968

【学歴】大阪大学文学部（1992年３月卒業）京都大学人間・環境学研究科大学院（修士）（1996年３月修了）京都大学人間・環境学研究科大学院（博士）（1999年３月単位取得退学）

【職歴】神戸学院大学人文学部地域研究センターP.D.（2002），札幌大学文化学部日本語・日本文化学科助（准）教授（2005），同教授（2009）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2012），総合研究大学院大学日本歴史研究専攻准教授併任（2014）

【学位】学術博士（京都大学人間･環境学研究科）（2003年取得）【専門分野】文化人類学，民俗学【主な研究テーマ】口頭伝承の近代的展開，祭礼芸能の実践と習得過程の探求，メディアによる民俗文化の再表象過程，現代日本のサブカルチャーと伝統文化など【所属学会】日本文化人類学会，日本民俗学会，日本口承文芸学会，京都民俗学会

●主要業績

1．【単著】『クリスチャン女性の生活史―「琴」が歩んだ日本の近・現代』青弓社，292頁，2011年１月

2．【論文】「近代における民謡の成立―富山県五箇山地方「こきりこ」を中心に」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第165集，pp.175-204，2011年３月）（査読有）

3．【論文】「祭りの習得と実践：子どもによる準備過程を中心に（『比較文化論叢：札幌大学文化学部紀要』25，pp.7-54，2010年12月）

4．【論文】芸能への参入と習得―兵庫県明石市大蔵谷獅子舞の事例から」（後藤静夫編『日本伝統音楽研究センター研究報告５「近代日本における音楽･芸能の再検討」』pp.187-199，京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター，2010年３月）

5．【論文】「移動する身体と故郷の物語の行方―移動によって見いだされた故郷と移動のなかで変容する故郷」（『歴博研究報告［共同研究］人の移動とその動態に関する民俗学的研究』199集，pp.143-170，2015年12月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書

『気仙沼のカミと妖怪』80頁，国立歴史民俗博物館，2020年８月20日

川村清志．倉本啓之：共著『輪島市皆月日吉神社山王祭―フォトエスノグラフィー 祭日編』136頁，国立歴史民俗博物館，2020年３月31日
「民俗誌映画が語る地域の文化力―『明日に向かって曳け　石川県輪島市皆月山王祭の現在』から―」日高真吾：編『継承される地域文化―災害復興から地域創発へ』，pp.54-78，臨川書店，2021年３月31日（査読有）

２　論文
「民俗文化の表象批判からその実践へ―ビジュアル・メディアの可能性と課題」比較日本文化研究20，pp.57-71，風響社，2020年10月20日（査読有）

４　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
「七ヶ浜の紙芝居」「映像のなかの地域文化―石川県輪島市皆月のくらしと祭り」国立民族学博物館特別展『復興を支える地域文化―3.11から10年』，pp.107-114・pp.130-132，2021年３月２日
映像：「2016（平成28）年の春祭り」・「2017（平成29）年の春祭り」・「2018（平成30）年の春祭り」・「春祭りを振り返って」・「2020年のじゃんがら」国立民族学博物館特別展『復興を支える地域文化―3.11から10年』モバイル展示，2021年３月３日
「震災の記憶をつなぐ―七ヶ浜町「あの日の僕，七ヶ浜の3.11」」，国立民族学博物館特別展『復興を支える地域文化―3.11から10年』2021年３月３日
「駅伝の誕生と展開」国立歴史民俗博物館特集展示『東アジアを駆け抜けた身体―スポーツの近代―』pp.22-23，国立歴史民俗博物館，2021年１月26日

５　学会・外部研究会発表
「文字と声による民俗文化の再構築―気仙沼市小々汐尾形家のオシラサマを巡って」日本民俗学会，オンライン，2020年10月３日

７　その他
「曳山に集いて，明日を見つめて―輪島市門前町皆月山王祭」『REKIHAKU　特集・されど歴史』１，pp.70-75，国立歴史民俗博物館編，2020年10月26日
「曳山に集いて，明日を見つめて―皆月のアマメハギ」『REKIHAKU　特集・いまこそ，東アジア交流史』２，pp.7-75，国立歴史民俗博物館編，2021年２月26日

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況
③　機構
「地域における歴史文化研究拠点の構築」（研究代表者：小池淳一），研究副代表（2016年度～2021年度）

２　外部資金による研究
科学研究費基盤研究（Ｂ）「文化の主体的継承のための民俗誌の構築―マルチメディアの活用と協働作業を通じて」研究代表（2018年度～2022年度）
科学研究費基盤研究（B）「日本語敬語形成モデルの構築―生成・運用・伝播に注目して―」（研究代表者，中井靖一　富山大学教授），研究分担者（2019年度～2021年度）

４　主な展示・資料活動
「特別展 復興を支える地域の文化-3.11から10年」国立大阪民族学博物館，会期：2021年３月４日～５月18日

三　社会活動等

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告
日本におけるフォーク・カルチャーとサブ・カルチャーについての統合的な文化研究（カルチュラル・スタディーズ）に向けた研究を遂行するために，主に国内でのフィールドワークと資料調査を行った。フォークカルチャーについては，祭礼芸能の現代的展開として主に近畿地方の調査を行う。サブカルチャー研究として北海道，熊本地方，また，関東周辺地域の調査を行い，関連資料を購入した。

小池　淳一　KOIKE Jun'ichi　教授（2011～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2011～），生年：1963

【学歴】東京学芸大学教育学部（1987年卒業）筑波大学大学院博士課程歴史人類学研究科（一貫制）（1992年単位取得退学）
【職歴】弘前大学人文学部講師（1992），弘前大学人文学部助教授（1994），愛知県立大学文学部助教授（2001），国立歴史民俗博物館民俗研究部助教授（2003），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2006），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2011），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2011），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長（2014-15）
【学位】博士（文学）（総合研究大学院大学）【専門分野】民俗学（民俗信仰，口承文芸，民俗学史），伝承史【主な研究テーマ】民俗における文字文化の研究，陰陽道の展開過程の研究，地域史における民俗の研究など【所属学会】日本民俗学会，日本宗教学会（理事），日本昔話学会，日本口承文芸学会，日本文化人類学会，地方史研究協議会，日本史研究会，日本民具学会，儀礼文化学会，青森県民俗の会，福島県民俗学会ほか

●主要業績

1．【著書】『季節のなかの神々―歳時民俗考―』220頁，春秋社，2015年10月
2．【著書】『陰陽道の歴史民俗学的研究』442頁，角川学芸出版，2011年２月
3．【論文】「読書と民俗」（若尾政希編『シリーズ〈本の文化史〉３・書籍文化とその基底』，平凡社，pp.265-289，2015年10月）
4．【論文】「結節点としての万年筆―筆記具の民俗学へむけて―」『民具マンスリー』51（４），pp.1-11，2018年７月10日
5．【展示図録】歴博企画展示図録『万年筆の生活誌―筆記の近代―』，国立歴史民俗博物館，2016年３月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

２　論文
「仏教民俗学と文化史学」『日本宗教史６・日本宗教史研究の軌跡』，吉川弘文館，2020年10月１日
「日韓比較龍宮論覚書―『朝鮮民譚集』を起点として―」『国立歴史民俗博物館研究報告』221，国立歴史民俗博物館，2020年10月（査読有）
「漆をめぐる民俗学的諸問題」『国立歴史民俗博物館研究報告』225，国立歴史民俗博物館，2021年３月（査読有）

７　その他
「地域に眠る「お宝」を活かし，新たな地域像を学問的に裏づけて発信する―南会津只見町・書物の郷の研究拠点―」『REKIHAKU』２，pp.80-84，国立歴史民俗博物館編，2021年２月26日
「万年筆からみた吉村昭」『万年筆の旅』Vol.16, p.2，吉村昭記念文学館，2021年３月

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況
①　歴博
基幹研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」（2016～2021年度）代表
基盤研究「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道の史料基盤形成」（2018～2020年度）副代表
③　機構
人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」（2016～2021年度）共同代表

２　外部資金による研究
科学研究費基盤研究B「「知識」の再配置と実践―東北の巫者と寺院をめぐって―」（弘前大学，2020～2022年度）研究分担者

５　教育

成城大学大学院文学研究科非常勤講師（日本民俗学研究）
東邦大学薬学部非常勤講師（民俗学）
＊学位審査　筑波大学，國學院大學

三　社会活動等

１　館外における各種委員
日本宗教学会理事
八千代市文化財審議会委員
第40回日本民俗学会研究奨励賞審査委員会（委員長）

２　講演・カルチャーセンターなど
八戸市博物館市民講座「文化財レスキューから民俗展示へ―国立歴史民俗博物館の取り組み―」2021年１月９日（八戸市博物館・ZOOMによる開催）

３　マスコミ
「手書き復権」『Wendy』376，p.12，合人社グループ出版局，2020年９月16日

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告
近代日本列島史のなかで，「民俗」がどのように意識され，学問研究の対象として浮上してきたのか，民俗学史と地誌，文芸資料，考証随筆などを対象に検討を進めた。併せて，文字記録を生み出す環境や認識構造の変動についても調査を行なった。刊行された成果としては「仏教民俗学と文化史学」（佐藤文子・吉田一彦編『日本宗教史６・日本宗教史研究の軌跡』（2020年10月，吉川弘文館，122-141頁），「日韓比較龍宮論覚書―『朝鮮民譚集』を起点として―」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第221集，2020年10月，111-122頁）など。

小島　道裕　KOJIMA Michihiro　教授（2008～）

併任：総研大日本文化歴史専攻教授（2008～），生年：1956

【学歴】京都大学文学部（国史学）（1980年卒業）京都大学大学院文学研究科博士課程（国史学）（1985年単位取得退学）
【職歴】京都大学研修員（1985），京都大学文学部助手（1986）国立歴史民俗博物館歴史研究部助手（1989），同助教授（1994），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（1999）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2008），博物館資源センター長（2011～2013），総研大日本歴史研究専攻・専攻長（2008～2010），総研大文化科学研究科・研究科長（2015～2017）
【学位】文学博士（京都大学）（2006年取得）【専門分野】日本中世史，博物館教育【主な研究テーマ】日本中近世の都市と社会，洛中洛外図屏風，古文書様式，歴史展示と教育プログラム【所属学会】日本史研究会，史学研究会，古文書学会，比較都市史研究会，家具道具室内史学会【研究目的・研究状況】日本の中世から近世について，具体的な歴史資料の分析によって，社会のさまざまな側面を明らかにする。洛中洛外図屏風や古文書などを，共同研究や展示で扱いながら，研究を進めると共に，成果を発信し，コンテンツを提供している。http：//www.rekihaku.ac.jp/kenkyuu/ kenkyuusya /kojima/index.html

●主要業績

１．【単著】『洛中洛外図屏風―つくられた<京都>を読み解く―』231頁，吉川弘文館，2016年４月
２．【単著】『戦国・織豊期の都市と地域』362頁，青史出版，2005年11月
３．【単著】『イギリスの博物館で―博物館教育の現場から―（歴博ブックレット16）』87頁，歴史民俗博物館振興会，2000年10月
４．【単著】『城と城下―近江戦国誌―』246頁，新人物往来社，1997年５月（再刊：吉川弘文館，2018年10月）
５．【展示図録】国立歴史民俗博物館企画展示図録『日本の中世文書―機能と形と国際比較―』314頁，2018年11月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書

共著：岩永てるみ，阪野智啓，髙岸輝，小島道裕『「月次祭礼図屏風」の復元と研究　よみがえる室町京都のかがやき』144頁，思文閣出版，2020年５月18日

編著：『中世文書の様式と機能および国際比較と活用に関する研究』『国立歴史民俗博物館研究報告』224，311頁，国立歴史民俗博物館，2021年３月24日

2　論文

「「月次祭礼図屏風」に描かれた幕府と神社」『「月次祭礼図屏風」の復元と研究　よみがえる室町京都のかがやき』pp.124-131．思文閣出版，2020年５月18日（査読無）

「印判状に見られる日付上押印について」編著『中世文書の様式と機能および国際比較と活用に関する研究』『国立歴史民俗博物館研究報告』224，pp.129-148，国立歴史民俗博物館，2021年３月（査読有）

「調査研究活動報告：絵画資料に描かれた中世の船―『日本絵巻大成』に見える船の画像一覧―」『国立歴史民俗博物館研究報告』223，pp.243-252（査読有）

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発

「後家尼」企画展示図録『性差の日本史』pp.120-121，2020年10月６日

橋本雄太，小島道裕：共編「日本の中世文書WEB」（追加）国立歴史民俗博物館

7　その他

「地誌としての歴史―在宅勤務で考えたこと―」『千葉史学』77，pp.1-3，千葉史学会，2020年11月30日

「書評：矢田俊文編『戦国期文書論』」『日本歴史』871，pp.105-107，日本歴史学会，2020年12月23日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

③　機構

国際日本文化研究センター共同研究「『かのように』という原理上で変遷してきた文通―『文書』概念や，その様式，記号，表象，意図性の認識を論ず」，2018年度～

4　主な展示・資料活動

総合展示第２室「東国と西国」「印刷文化」「大名と一揆」「民衆の生活と文化」「大航海時代の中の日本」展示プロジェクト委員

2020年度企画展示「性差の日本史」展示プロジェクト委員（副代表）

5　教育

「日本中世の女性の地位は低下したのか？―「性差（ジェンダー）の日本史」展によせて―」総研大文化フォーラム2020，国際日本文化研究センター，2020年12月５・６日

愛知県立芸術大学非常勤講師（美術特別研究）

三　社会活動等

1　館外における各種委員

佐倉市市民文化資産運用委員会委員（委員長）千葉市立郷土博物館協議会委員（副委員長）

東京都江戸東京博物館外５施設指定管理者評価委員会委員　日本学術振興会研究部会委員

3　マスコミ

「見て楽しむ中世の古文書　紙の使い方と種類」『kotoba』40，pp.196-199，集英社，2020年６月６日

「見て楽しむ中世の古文書　移動する文書―文書は誰の物か」『kotoba』41，pp.196-199，集英社，2020年９月４日

「見て楽しむ中世の古文書　伝来―文書の残り方」『kotoba』42，pp.200-203，集英社，2020年12月４日

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告

橋本助教と共に開発し，昨年度公開したサイト「日本の中世文書WEB」は，テキストと音声（読み方），および両者を同期させた表示を提供する初の試みとして，大きな反響があった。今年度は，引き続き増強をはかり，館蔵の中世文書20通分についてデータを作成した。

４　その他

資料研究は歴史研究の基礎であり，またそこに具体的な社会像を見いだすことができるため，社会史研究の一環としても大きな意味を持つ。

古文書研究においては，様式に注目することで，国内における発達や変化を追えるばかりでなく，歴史的に関連の深い東アジアにおける比較研究を行なうことができる。これについて，今回共同研究の成果報告書を出すことができた。また，一般への普及のために，中世文書の学習ツールとして，読み上げ音声付きのコンテンツを昨年から提供しているが，これについても拡充すると共に，全体の総論をまとめることで，文書史的な展望を示したい。

絵画資料研究については，ジェンダーに関する企画展示の中で，洛中洛外図屏風などの個別画像を取り上げ，特定の切り口で風俗画を読み解くことの可能性を示すことができた。さらに他の対象，例えば「年中行事」などにおいても，今後新たな検討を行ないたい。

小瀬戸　恵美　Koseto-Horyu, Emi　准教授（2010.1～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2013～）

【学歴】東京大学理学部化学科（1995年卒業），東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻博士後期課程（2000年中途退学）【職歴】アメリカ合衆国ゲティ保存研究所グラジュエイトインターン（1999）
国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（2000），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2010），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授（2013～）
【学位】文化財修士（東京藝術大学）（1998年取得）【専門分野】保存科学，文化財保存学【主な研究テーマ】博物館施設における資料劣化原因・過程に関する研究，展示評価の手法と検討【所属学会】文化財保存修復学会，日本文化財科学会，国際博物館会議（International Committee of Museum，ICOM），International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works（IIC）【研究目的・研究状況】文化財を対象に自然科学的手法による分析・調査を行い，他分野との協業によって文化財構成物質の流通や人の文化的交流について考察を目的としている。また，研究成果を展示に反映させたときに，閲覧者に与える影響について，非接触・非言語による評価手法を検討している。

●主要業績

１．【論文】「常呂川河口遺跡墓壙出土ガラスの自然科学的分析」（『常呂川河口遺跡』８，pp.297-303, 2008年３月）
２．【論文】「２．連携研究機関における生物被害対策の現状と課題　国立歴史民俗博物館の生物生息調査」（『有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成』pp.125-132，2008年２月）
３．【論文】「ラマンイメージング装置による伊勢市版歌川派錦絵および版木の色材分析」（共著／坂本 章，落合周吉，東山尚光，増谷浩二，木村淳一）（『国立歴史民俗博物館研究報告』第153集，pp.1-19，2009年３月）（査読付き）
４．【論文】「Raman studies of Japanese art objects by a portable Raman spectrometer using liquid crystal tunable filters」（共著 Akira Sakamoto，Shukichi Ochiai，Hisamitsu Higashiyama，Koji Masutani，Jun-ichi Kimura，Mitsuo Tasumi）（『Journal of Raman Spectroscopy』，Vol.43，pp.787-792，2012年 6 月，published online on October 27）
５．【論文】「A Pilot Study on the Museum Visitors' Interest by using Eye Tracking System」The Eighth Conference of Japanese Association for Digital Humanities（JADH2018）proceeding，pp.129-131，2018年９月９日（査読有）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

４　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発

「父・小瀬戸俊昭」特集展示図録『東アジアを駆け抜けた身体』，pp.90-91，国立歴史民俗博物館，2021年１月26日

二　主な研究教育活動

２　外部資金による研究
令和元年度博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業連携活動
「展示効果の高度化とその検証」代表・西谷大

三　社会活動等

四　活動報告

２　特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの
人間文化研究機構男女参画委員

３　研究・調査プロジェクト報告
博物館資料を基とした教育的コンテンツがその被験者にどのような影響を与えているかを評価することを目的として，前年度までに取得した，3641の視線検出と206139の視線検出ポイントのデータ解析を行ったが，被験者別での有意な解析結果を得ることが出来なかった。これは，被験者に意識させないことに重きをおき，意図的な要素を排除して一般化しようとした結果とみられるが，今後はより細分化した被験者情報を基として，有効なデータと統計を行う必要がある。

後藤　真　GOTO Makoto　准教授（2015.9～）

生年：1976

【学歴】岡山大学文学部歴史文化学科（2000年卒業），大阪市立大学大学院文学研究科哲学歴史学専攻前期博士課程（2002年修了），大阪市立大学大学院文学研究科哲学歴史学専攻後期博士課程（2007年修了）
【職歴】日本学術振興会特別研究員（PD）（2007.4～2008.3），花園大学文学部文化遺産学科　専任講師（2009.4～2014.9），大学共同利用機関法人人間文化研究機構本部特任助教（2014.9～2015.8），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2019.4～）
【学位】博士（文学）（大阪市立大学）（2007年取得）【専門分野】人文情報学・総合資料学・日本古代史【主な研究テーマ】歴史資料の情報化による高度活用【所属学会】日本史研究会・正倉院文書研究会・木簡学会・情報処理学会・Alliance of Digital Humanities Organizations（ADHO），Japanese Association for Digital Humanities,

●主要業績

１．【著書】『歴史情報学の教科書』後藤真・橋本雄太（共編著），文学通信，208頁，2019年３月
２．【著書】『情報歴史学入門』後藤真，田中正流，師茂樹，金壽堂出版，184頁，2009年３月
３．【著書】（分担執筆）『歴史研究と〈総合資料学〉』後藤真「日本における人文情報学の全体像と総合資料学」208頁，2018年２月
４．【論文】「アーカイブズからデジタル・アーカイブへ―「デジタルアーカイブ」とアーカイブズの邂逅―」後藤真（『アーカイブのつくりかた』NPO知的資源イニシアティブ編，勉誠出版，2012年11月）
５．【学会・外部研究会発表】
2015年７月２日，“Digitalization of Shosoin Monjo and Extraction of Knowledge”，Makoto GOTO，Motomu NAITO，（Annual international conference of the Alliance of Digital Humanities Organizations（ADHO），University of Western Sydney, Australia）（査読有）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

１　著書
分担執筆「Japanese and Asian Historical Resources in the Digital Age」，（「Constructing Data Infrastructure for Diversity of Local Resources and Local Culture」を担当）ミシガン大学出版局fulcrum, 2021年３月（英語）（査読有）アメリカ合衆国

２　論文
白井 圭佑，森 信介，後藤 真「人名辞典からの知識抽出」pp.11-16，情報処理学会,「じんもんこん2020論文集」

2020年12月５日（査読有）
亀田尭宙，後藤真「地域歴史資料情報基盤のデータモデル構築：保存・発見・活用の高度化にむけて」情報処理学会，pp.165-170,「じんもんこん2020論文集」2020年12月５日（査読有）
堀井 美里，小川 歩美，寺尾 承子，堀井 洋，高橋 和孝，野坂 晃平，川邊 咲子，後藤 真「コロナ禍における地域資料の調査と情報共有・公開 ―岩手県奥州市を事例として―」pp.477-480，情報知識学会「情報知識学会誌」30-4，2021年１月９日
小川歩美，堀井美里，堀井洋，川邊咲子，後藤真，高田良宏「コロナ禍における研究集会「学術野営 2020 in 奥州市」オンライン巡見に関する報告」pp.463-466，情報知識学会，「情報知識学会誌」30－4，2021年１月９日

3　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
「都市におけるデジタルアーカイブ」（『都市科学事典』2021年３月，春風社）

5　学会・外部研究会発表
「歴博・総合資料学から公開の新アーカイブ」UTDHアンカンファレンス１，オンライン，2020年４月26日
「地域歴史資料と人文情報学からパブリック・ヒストリーを考える」第６回パブリックヒストリー研究会，オンライン，2020年６月７日
「モノ資料調査の可能性　奥州市の調査の経験から」学術野営2020in奥州市関連オンラインイベント「新型コロナウイルスの感染が懸念される状況下での歴史・文化資料調査のためのガイドラインを考える」，国立歴史民俗博物館，オンライン，2020年８月27日
「人文社会科学研究を公正に評価するシステム」日本学術会議，オンライン，2020年８月29日
「多様な歴史的資料消失の状況と課題」I-URICフロンティアコロキウム勉強会「分野横断型研究を目指したアーカイブのオープンサイエンス基盤を考える」オンライン，2020年11月26日
「大学における研究評価の現状と問題点―人文系の評価を中心に」摂南大学･研究評価セミナー，オンライン，2020年12月１日
亀田 尭宙，後藤 真「地域歴史資料情報基盤のデータモデル構築：保存・発見・活用の高度化にむけて」，じんもんこん2020　人文科学とコンピュータシンポジウム「オープンデータからオープンナレッジへ―新時代の研究様式が導く学術情報基盤」オンライン，2020年12月12日
Yuta Hashimoto, Akihiro Kameda, Makoto Goto「Citizen Collaboration for the Preservation and Transcription of Historical Materials in the National Museum of Japanese History」C2DH　Making History Togerther：Public Participation in Museums，ルクセンブルク，オンライン，2020年12月15日，英語，（査読有）
「「分野横断型研究を目指したアーカイブのオープンサイエンス基盤を考える」研究成果報告」I-URICフロンティアコロキウム勉強会シンポジウム，オンライン，2021年１月27日
「2020年度の総合資料学プロジェクト」2020年度全体集会，オンライン，2021年３月７日
Sakiko Kawabe, Akihiro Kameda & Makoto Goto「Documentation of Ethnographical Object Biography using CIDOC CRM」49th joint meeting of the CIDOC CRM SIG, 42nd FRBR SIG and ISO/TC46/SC4/WG9，オンライン，スイス連邦，英語，2021年３月11日
「日本の歴史的な知識に対して総合的に寄与する人名知識ベースの構築」人間文化研究機構資源共有化研究会，オンライン，2021年３月12日（査読有）
Akihiro Kameda, Makoto Goto「Digitization of Japanese Historical Resources and Establishment of Data Infrastructure」CRM SYMPOSIUM 2021，オンライン，インドネシア，英語，2021年３月23日（査読有）
Masashi Amano, Makoto Goto「Constructing international university network to preserve local historical resources.」AAS2021，オンライン，アメリカ合衆国，英語，2021年３月26日（査読有）

7　その他
「V. さまざまな分野におけるデータの管理・利活用　（１）人文学におけるデータの管理・利活用」，pp.20-21，内閣府・研究データ基盤整備と国際展開ワーキング・グループ『研究データ基盤整備と国際展開ワーキング・グループ第２フェーズ報告書』，内閣府，2021年３月

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況
①　歴博

「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成」2018年度～2020年度

③　機構

人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の構築」，2016～2021年度

人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史に関する研究資源の共同利用基盤構築」，副代表，2016～2021年度（2020年度より研究代表者）

2　外部資金による研究（科学研究費などの外部資金，各種補助金による研究，企業・自治体による研究）

「「研究に真に使える」歴史資料情報基盤の構築―データ持続性研究と人文情報学の実践―」科学研究費補助金（基盤研究（A）），（代表者：後藤真）研究代表者，2017～2020年度

「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」科学研究費補助金（特別推進研究），（代表者：奥村弘）研究分担者，2019～2023年度

「「国際古文書料紙学」の確立」科学研究費補助金（基盤研究（A）），（代表者：渋谷綾子）研究分担者，2019～2023年度

「日本語コーパスに対する情報付与を核としたオープンサイエンス推進環境の構築」科学研究費補助金（挑戦的研究（開拓）），（代表者：小木曽智信）研究分担者，2019～2021年度

「統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出」科学研究費補助金（基盤研究（A））（代表者：山田太造）研究分担者，2018～2022年度

「多面的な時空間範囲の同定と記述法の開発―緯度・経度／年月日からの脱却」科学研究費補助金（基盤研究（A））（代表者：関野樹）研究分担者，2020～2023年度

「中世日本の東アジア交流史に関する史料の集成的研究と研究資源化」科学研究費補助金（基盤研究（B））（代表者：荒木和憲）研究分担者，2016～2020年度

5　教育

千葉大学普遍教育科目「博物館から歴史を読み解く」

國學院大学非常勤講師

長崎大学大学院多文化社会学研究科　非常勤講師（総合資料学）

「近代科学資料アーカイブ構築のための課題分析」総研大文化フォーラム2020「文化のレジリエンスとは？〈異〉をつなぎ，未来へ」オンライン，2020年12月6日

「2020年度　科学技術社会分野方法論S1 」東京工業大学環境・社会理工学院社会・人間科学コース，オンライン，2020年6月23日

三　社会活動等

1　館外における各種委員

内閣府知的財産戦略本部　デジタルアーカイブジャパン推進実務者検討委員，Japanese Association for Digital Humanities（JADH）理事，情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会　幹事，情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム2020　プログラム委員，京都国立博物館　客員研究員，文化庁　国立近現代建築資料館　有識者会議委員

4　社会連携

②　共同研究

産学連携共同研究「清潔と洗浄をめぐる総合的歴史文化研究」（花王株式会社）研究代表：関沢まゆみ，2017年～2020年度

③　講演会・シンポジウム

「産官学三社覚書及びkhirinについて」「地域史研究講座2021　第2回　奥州市記録資料調査事業報告会」オンライン，えさし郷土文化館，2021年2月28日

「研究者と自治体連携に関する勉強会」自治体データ連携（仮）勉強会　第1回，オンライン，2021年1月18日

四　活動報告

2　特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

メタ資料学研究センター　副センター長

3　研究・調査プロジェクト報告

新型コロナウイルス蔓延状況下での制限された研究活動であったが，そのような状況の中でオンライン環境を

充実させ，データを社会的に展開する基盤の構築を行った。広くデジタルアーカイブを，社会全体で利用可能な形とし，ゲーム等も含めた高度展開を実施した。これらの成果をさらに地域の研究などへと結びつけていくことが期待される。

齋藤　努　SAITO Tsutomu　教授（2009.4～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2009～），生年：1961

【学歴】東京大学理学部化学科（1983年卒業），東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程（1988年修了）
【職歴】東京大学教養学部非常勤講師（1988），国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（1988），同助教授（1999），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2002），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2009），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2009），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長併任（2010～2011），広報連携センター長併任（2013～2015，2018～2019）
【学位】理学博士（東京大学）（1988年取得）【専門分野】文化財科学【主な研究テーマ】歴史資料の自然科学的手法による分析（材質，技法，産地）【所属学会】日本文化財科学会，文化財保存修復学会【研究目的・研究状況】美術品・工芸品・考古遺物などの歴史資料を対象として自然科学的な手法を用いて調査を行い，人文科学的な研究結果とあわせることによって，原料の流通や人の交流，使用されていた技術などについて考察を加える。また，伝統技術に関する実地調査や再現実験なども実施している。

●主要業績

1．【単著】
『金属が語る日本史―銭貨・日本刀・鉄炮―』歴史文化ライブラリー355，吉川弘文館（単著），205頁，2012年11月

2．【論文】
齋藤努，土生田純之，亀田修一，福尾正彦，鄭仁盛，高田寛太，風間栄一，藤尾慎一郎，柳昌煥，趙榮濟「鉛同位体比分析による古代朝鮮半島・日本出土青銅器などの原料産地と流通に関する研究 ―韓国嶺南地域出土・東京大学所蔵楽浪土城出土・宮内庁所蔵の資料などを中心に―」『考古学と自然科学』59，pp.57-81，2009年６月（査読有）

3．【論文】
「刀匠の継承する伝統技術の自然科学的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第177集，pp.127-178，2012年11月（査読有）

4．【論文】
齋藤努，坂本稔，高塚秀治「大鍛冶の炉内反応に関する検証と実験的再現」『国立歴史民俗博物館研究報告』第177集，pp.179-229，2012年11月（査読有）

5．【論文】
単著「江戸期小判などの色揚げに関する自然科学的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第183集（開館三〇周年記念論文集Ⅱ），pp.1-51，2014年３月（査読有）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

3　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
「喜界町手久津久地区川尻遺跡出土青銅製鋤先の鉛同位体比分析結果」『喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書(17)川尻遺跡』喜界町教育委員会，p.155，2021年３月16日
齋藤努，今岡照喜，永嶌真理子，森福洋二，齊藤大輔，青島啓，田中晋作「史跡周防鋳銭司跡出土資料の鉛同位体比分析結果」『山口大学山口学研究センター研究プロジェクト　古代テクノポリス山口　―その解明と地域資産創出を目指して―　研究報告書』山口大学山口学研究センター・山口大学人文学部，pp.27-34，2021年３月31日，218頁

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
「琉球王国の銭貨」特集展示図録「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世」p.69，国立歴史民俗博物館，2021年３月16日
5　学会・外部研究会発表
齋藤努，竹下聡史，反保元伸，土居内翔伍，橋本亜紀子，梅垣いづみ，二宮和彦，三宅康博「負ミュオンを用いた非破壊による丁銀の深さ方向分析」日本文化財科学会第37回大会，pp.40-41，別府大学，オンライン，2020年９月５日
齋藤努，青島啓，齊藤大輔，森福洋二，永嶌真理子，今岡照喜，田中晋作「周防鋳銭司跡出土資料の自然科学的調査結果」日本文化財科学会第37回大会，pp.182-183，別府大学，オンライン，2020年９月５日
「負ミュオンによる歴史資料の内部分析と深さ方向分析 」第３回文理融合シンポジウム「量子ビームで歴史を探る―加速器が紡ぐ文理融合の地平―」，オンライン，2020年９月25日
「負ミュオンによる丁銀の深さ方向分析」第４回文理融合シンポジウム「量子ビームで歴史を探る－加速器が紡ぐ文理融合の地平―」オンライン，2021年１月29日
「負ミュオンによる文化財の完全非破壊調査 ―内部分析と深さ方向分析―」2020年度量子ビームサイエンスフェス，オンライン，2021年３月10日
7　その他
貨幣の「色付」技術の進化，青銅製品の原料のルーツを知りたい」『J-PARC季刊誌』16，p.4，2021年３月

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況
①　歴博
基盤研究「高精度同位体比分析法を用いた古代青銅原料の産地と採鉱に関する研究」（研究代表者　齋藤努）2018～2020年度
2　外部資金による研究
科学研究費補助金・基盤研究（A）「高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究」（研究代表　齋藤努）2017～2020年度
科学研究費補助金・基盤研究（A）「琉球帝国からみた東アジア海域世界の流動的様態と国家」（研究大表　村木二郎）研究分担者，2018～2021年度
機構間連携・異分野連携研究プロジェクト「負ミュオンによる歴史資料の非破壊内部元素組成分析」（研究代表　齋藤努）高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所との共同研究，2018～2021年度

三　社会活動等

1　館外における各種委員
国立文化財機構外部評価委員
2　講演・カルチャーセンターなど
「科学の眼でみる火縄銃の銃身」企画展「蔵の扉を開いてみれば―堺鉄砲鍛冶屋敷 井上関右衛門家」講演会，大阪府堺市さかい利晶の杜，2020年９月14日
「負ミュオンで歴史資料の中を観る―夢の完全非破壊内部分析―」千葉市科学館「大人が楽しむ科学教室」，2021年２月23日
4　社会連携
①　刊行物
「喜界町手久津久地区川尻遺跡出土青銅製鋤先の鉛同位体比分析結果 」『喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（17）川尻遺跡』，喜界町教育委員会，2021年２月23日

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告
古代に採掘が行われていた山口県内鉱山や周辺の製錬関連遺跡から出土した遺物，滑石製石鍋などを対象とし，濃度の異なる硝酸と塩酸を使うことによって，資料中のストロンチウムと鉛をきれいに単離し，同位体比分析を行うことができるようになった。その結果に基づいて，各資料の原料の産地を推定した。

坂本　稔　SAKAMOTO Minoru　教授（2013～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2013～）

【学歴】東京大学理学部化学科（1989年卒業），東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士課程（1991年修了），東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程（1994年修了）
【職歴】国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（1994），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2013），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2013），総合研究大学院大学文化学研究科日本歴史研究専攻長（2016-2018）
【学位】博士（理学）（東京大学）（1994年取得）【専門分野】文化財科学【主な研究テーマ】同位体分析に基づく年代測定【所属学会】日本文化財科学会，文化財保存修復学会，日本AMS研究協会【研究目的・研究状況】炭素14年代法を中心に，数値年代の獲得と精度向上に研究の重点を置く。

●主要業績

1．【著書】国立歴史民俗博物館・坂本稔・中尾七重編『築何年？炭素で調べる古建築の年代研究』188頁，吉川弘文館，2015年３月
2．【研究ノート】坂本 稔「表計算ソフトによる炭素14年代較正プログラムRHCバージョン４」国立歴史民俗博物館研究報告176，pp.169-176，2012.
3．【共同研究】坂本 稔編『歴史資料研究における年代測定の活用法に関する総合的研究』国立歴史民俗博物館研究報告176，178頁，2012年12月
4．【外部資金】2018～2021年度科学研究費補助金（基盤Ａ）「単年輪^{14}C測定による較正曲線の地域効果・微細構造の解明」研究代表者

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
坂本稔，横山操：共編著『樹木・木材と年代研究』国立歴史民俗博物館研究叢書８，160頁，朝倉書店，2021年３月１日

2　論文
坂本稔・中塚武「炭素14年代法のための日本版較正曲線「J-Cal」と酸素同位体比年輪年代法」『気候変動から読みなおす日本史　３先史・古代の気候と社会変化』臨川書院，pp.61-66，2020，査読なし
坂本稔「炭素14年代法による高精度年代測定」『気候変動から読みなおす日本史　２古気候の復元と年代論の構築』臨川書院，pp.267-278，2021，査読なし
坂本稔「日本産樹木年輪の炭素14年代測定の取り組み」『樹木・木材と年代研究』朝倉書店，pp.1-28，2021，査読なし
坂本稔「建造物古材による木材科学的資料研究　研究目的と経緯」『樹木・木材と年代研究』朝倉書店，pp.105-108，2021，査読なし
坂本稔「建造物古材による木材科学的資料研究　建造物古材の炭素14年代測定」『樹木・木材と年代研究』朝倉書店，pp.126-131，2021，査読なし

3　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
坂本稔「神領10号墳出土土器付着炭化物の炭素14年代測定」『大隅大崎 神領10号墳 II』鹿児島大学総合研究博物館研究報告15，pp.99-100，2021.

5　学会・外部研究会発表
ポスター：SAKAMOTO Minoru, KINOSHITA Naoko, TAKIGAMI Mai, FUJIO Shin'ichiro「Radiocarbon dating of shell accumulations of the Late Shell Midden Period」JpGU-AGU Joint Meeting 2020，Web開催，2020年７月12－16日
ポスター：坂本稔，箱崎真隆，横山操，門叶冬樹，光谷拓実「日本産樹木年輪の単年輪^{14}C測定―AD1158～1436」日本文化財科学会第37回大会，web開催，2020年９月５－13日
口頭発表：坂本稔「IntCal20較正曲線改訂のポイント」日本文化財科学会第37回大会，web開催，2020年９月

６日
口頭発表：坂本稔「アップデートする炭素14年代法」第４回文理融合研究シンポジウム，高エネルギー加速器研究機構　物質構造科学研究所（web開催），2021年１月28・29日

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況

①　歴博
基盤研究（課題設定型）「高精度同位体比分析法を用いた古代青銅原料の産地と採鉱に関する研究」（研究代表者：齋藤努）共同研究者，2018～2020年度

②　他の機関
機構間連携・異分野連携研究プロジェクト「日本列島における人間・文化の起源とその発展に関する総合的研究」（研究代表者：斎藤成也）共同研究者，2018～2021年度

③　機構
ネットワーク型機関研究プロジェクト（北東アジア地域研究推進事業）「自然環境と文化･文明の構造」（代表：池谷和信）事業分担者，2016～2021年度

２　外部資金による研究
科学研究費補助金（基盤Ａ）「単年輪14C測定による較正曲線の地域効果・微細構造の解明」研究代表者，2018～2021年度
科学研究費補助金（基盤Ａ）「「研究に真に使える」歴史資料情報基盤の構築―データ持続性研究と人文情報学の実践―」（研究代表者：後藤真）研究分担者，2017年度～2020年度
科学研究費補助金（基盤Ａ）「高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究」（研究代表者：齋藤努）研究分担者，2017年度～2020年度
科学研究費補助金（基盤Ａ）「考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築」（研究代表者：山田康弘）研究分担者，2018年度～2021年度
科学研究費補助金（基盤Ａ）「ヘルレン川流域を中心とした匈奴国家中枢地の研究」（研究代表者：臼杵勲）研究分担者，2018年度～2022年度
科学研究費補助金（基盤Ａ）「過去３万年の極端気候・極端災害史の精密編年に向けた新しい年輪年代法の基盤研究」（研究代表者：箱崎真隆）研究分担者，2020年度～2024年度
科学研究費補助金（基盤Ｂ）「東アジア新石器文化の実年代体系化による環境変動と生業･社会変化過程の解明」（研究代表者：小林謙一）研究分担者，2018年度～2022年度
科学研究費補助金（基盤Ｂ）「高精度14C年代測定にもとづく先史時代の人類活動と古環境の総合的研究」（研究代表者：工藤雄一郎）研究分担者，2018年度～2021年度
科学研究費補助金（萌芽）「エジプト遺跡出土織物資料データベース構築－京都モデルの提案」（研究代表者：横山操）研究分担者，2019年度～2021年度

５　教育
千葉大学非常勤講師（博物館資料保存論）
武蔵大学人文学部専門科目「文化財科学」講師

三　社会活動等

１　館外における各種委員
日本AMS研究協会運営委員（2017年度～）
「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」（独立行政法人日本芸術文化振興会）企画選定委員（2021年度）

３　マスコミ
「C14年代測定新段階に」毎日新聞夕刊，2020年９月23日
「（科学の扉）精度増す，歴史の物差し」朝日新聞朝刊，2020年12月28日

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告

賀名生・堀家総合調査研究会の第１回研究報告会（五條市歴史民俗資料館）に出席し，炭素14年代測定の成果について報告した。また，京都大学総合博物館所蔵の青銅製品に付着した炭化物の炭素14年代測定を試みた。

澤田　和人　SAWADA Kazuto　准教授（2009.10～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2013～）

【学歴】大阪大学文学部美学科（1996年卒業），大阪大学大学院文学研究科芸術史学専攻博士前期課程（1998年修了）
【職歴】財団法人大和文華館学芸部（1998），国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（2002），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2009），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2013）
【学位】文学修士（大阪大学）（1998年取得）【専門分野】染織史，服飾史，絵画史（絵巻）【主な研究テーマ】中世を中心とする染織および服飾・衣装風俗に関する研究【所属学会】美術史学会

●主要業績

１．【論文】「十徳の変遷―中世を中心に」（『美術史』147号，pp.36-53，1999年，11月）
２．【編著】『［染］と［織］の肖像―日本と韓国・守り伝えられた染織品』（国立歴史民俗博物館平成20年度企画展示図録，208頁，2008年10月）
３．【編著】『紅板締め―江戸から明治のランジェリー』（国立歴史民俗博物館平成23年度企画展示図録，164頁，2011年７月）
４．【編著】『野村コレクション　服飾Ⅰ』（国立歴史民俗博物館資料図録９，348頁，2013年３月）
５．【編著】『野村コレクション　服飾Ⅱ』（国立歴史民俗博物館資料図録10,356頁，2014年３月）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

２　論文
「「留守模様」と「御所解」」『大和文華』137，pp.15-30，大和文華館，2020年８月31日（査読有）
「近代の着物―生地と技法」，東京国立博物館特別展展示図録『きもの』，pp.319-322，朝日新聞社・テレビ朝日，2020年４月14日
「ハインリッヒ・コレクションの木綿製品に見る近代化」，日高薫・ベッティーナ・ツォルン責任編集『異文化を伝えた人々Ⅱ』，pp.123-135，臨川書店，2021年３月31日（査読有）

４　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
第３展示室特集展示『桜の意匠』展示解説シート

７　その他
「中国服と近代日本」『REKIHAKU』２，pp.15-17，国立歴史民俗博物館，2021年２月26日
「ハインリッヒ・コレクションの染織品―木綿製品にあらわれた明治時代」『明治の日本―ハインリッヒ・シーボルトの収集品から（論考編）』，pp.47-49，国立歴史民俗博物館，2020年10月８日
「シーボルト・コレクションの長崎くんち衣裳」『ヨーロッパにおける19世紀日本在外関係資料調査研究・活用NEWS LETTER』５，pp.4-5，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況
①　歴博
基盤研究「歴博研究映像の制作・保存・活用―苧麻文化の映像記録化を中心に」（研究代表：春日　聡）共同研究者（2019年度～2021年度）
基盤研究「日本植物文化史の分野横断的な検証と展示手法の再構築」（研究代表：青木隆浩）研究副代表（2020年度～2022年度）
③　機構
基幹研究プロジェクト「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用」（研究代表：日高　薫）

共同研究者（2016～2021年度）
2　外部資金による研究
科学研究費基盤研究B「17～19世紀の在外日本コレクション形成に関する基礎的研究」（研究代表：日高　薫）研究分担者（2017～2020年度）
3　国際交流事業
国際シンポジウム「Exhibiting“Japan”Overseas　海外で《日本》を展示すること：海外のコンテクストと日本のコンテクスト」，於国立歴史民俗博物館（オンライン），2021年３月29日，代表
4　主な展示・資料活動
くらしの植物苑特別企画「季節の伝統植物」展示プロジェクト副代表
第３室特集展示「桜の意匠」（2021年３月16日～４月11日）展示プロジェクト代表
5　教育
学習院女子大学非常勤講師

三　社会活動等
1　館外における各種委員
東日本伝統工芸展鑑審査委員
4　社会連携
③　講演会・シンポジウム
講演「江戸文化の華―小袖の歴史と美」，於千葉県立中央博物館大多喜城分館，2020年11月７日

四　活動報告
3　研究・調査プロジェクト報告
野村正治郎研究の一環として，東京国立博物館の特別展「きもの　KIMONO」（会期６月30日～８月23日）の図録において，「近代の着物―生地と技法」と題する論考を発表した。

柴崎　茂光　SHIBASAKI，Shigemitsu　准教授（2010.10～2021.3）
併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2011.4～）

【学歴】東京大学農学部（1996年卒業），東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程（1998年修了），マンチェスター大学経済学部開発経済学修士課程（2000年修了），東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程（2002年退学）
【職歴】東京大学大学院農学生命科学研究科助手（2002），岩手大学農学部助教授（2006），同准教授（2007）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2010），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2011）
【学位】博士（農学）（東京大学）（2006年取得），修士（経済学）（マンチェスター大学）（2000年取得）
【専門分野】林政学／民俗学
【主な研究テーマ】開発行為や規制政策が地域社会に及ぼす影響
【所属学会】林業経済学会，日本森林学会，日本観光研究学会，環境社会学会
【研究目的・研究状況】shibaアットrekihaku.ac.jp（アットを@に置き換えてください）

●主要業績
1．【論文：共著・筆頭】柴崎茂光・佐藤武志・金美沙子・皆上 伸・八巻一成「多様なレクリエーション機会の提供という視点からみた自然公園管理のあり方―十和田八幡平国立公園八幡平地区を事例としたROS手法の適用―」『林業経済』66（９）：pp.1-17，2013年９月
2．【論文：単著】「観光地「屋久島」イメージの変化について」『国立歴史民俗博物館研究報告』215，pp.69-90，2019年２月
3．【論文：伊藤幸男らと共著，２番目】「宮城県大崎市鬼首地区の開発と契約講による資源管理の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告』215，pp.119-150，2019年２月
4．【論文：単著】「森林が有する文化的な価値の歴史的変遷」『林業経済研究』65（１）：pp.3-14，2019年３月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

２　論文

共著（４人中４番目）:「農家による集団林権制度改革の主観的評価と森林経営のインセンティブに関する研究―中国江西省井崗山市を事例として」『林業経済』林業経済研究所，2020年12月18日（査読有）

「林業遺産の保全・資源化・活用の可能性―台湾から学ぶ―」『森林レクリエーション』400，pp.4-7，全国森林レクリエーション協会，2020年９月１日

７　その他

書評「DVDブック甦る民俗映像―渋沢敬三と宮本馨太郎が撮った1930年代の日本・アジア―ライブラリー版」『林業経済』73-５，pp.22-26，林業経済研究所，2020年８月１日

「実は開発されていた「手つかずの大自然」」『REKIHAKU』１，国立歴史民俗博物館，2020年10月30日

「日本における山岳信仰」・「林業遺産」・「自然・景観を楽しむ場所」（一社）日本森林学会編『森林学の百科事典』，pp.436-437・p.440・pp.532-533，丸善書店，2021年１月30日

「屋久島における近代林業の証」『土木学会誌』106-2，pp.18-19，土木学会，2021年２月15日

二　主な研究教育活動

２　外部資金による研究

基盤研究「文化の主体的継承のための民俗誌の構築―マルチメディアの活用と協働作業を通じて」（研究代表者：川村清志）2018～2022年度（研究分担者）

三　社会活動等

１　館外における各種委員

『林業経済』編集委員，『林業経済学会』評議員及び総務担当理事，『日本森林学会』林業遺産選定委員，『屋久島世界遺産地域科学委員会』委員，『屋久島世界自然遺産・国立公園における山岳利用のあり方検討会』委員

四　活動報告

１　受賞歴

林業経済学会学術賞（2021年３月）

島津　美子　Shimadzu Yoshiko　准教授（2018.4～）

【学歴】金沢大学理学部卒（1999），東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻（システム保存学）修士課程修了（2001）

【職歴】東京文化財研究所修復技術部研究補佐員（2001），オランダ文化遺産研究所（Instituut Collectie Nederland）プロジェクト研究員（2004），独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所特別研究員（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2013.7），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2018）

【最終学位】Ph.D.（アムステルダム大学）（2015年２月取得）

【専門分野】保存科学【主な研究テーマ】歴史資料の彩色技法材料の調査研究【所属学会】文化財保存修復学会，国際文化財保存学会，国際博物館会議保存国際委員会【研究目的・研究状況・メールアドレス】彩色材料およびその製造方法，彩色技法等を明らかにし，資料の帰属する時代や地域における技術レベルや素材の流通などを探る。現在は，国内の近世から近代にかけての彩色材料についての調査分析を実施中。

●主要業績

１．【論文】島津美子，岡田 靖. 研究ノート「近世・近代の木彫仏像に施された彩色の技法材料―山形県龍泉寺，塩田行屋，法来寺の事例―」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第206集，pp.61-87，2017年３月）

２．【論文】研究ノート「幕末明治期の錦絵に用いられた色材調査―赤色，黄色，緑色について―」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第200集，pp.83-96，2016年１月）

３．【調査報告】「第２窟壁画の材料および製作技法の調査」（東京文化財研究所編『アジャンター壁画の保存修復

に関する調査研究―第２窟，第９窟壁画の保存修復と自然科学調査（2009～2011年）―』，pp.97-120，東京文化財研究所，2014年３月）

４．【調査報告】「中央アジア地域にみられる壁画の技法材料について―自然科学的調査の理論および実践の諸相について―」（『《色彩に関する領域横断シンポジウム》報告　きらめく色彩とその技法　工房の実践プラクティスを問う―東西調査報告からみる色彩研究の最前線―』大阪大谷大学文化財学科，pp.20-31，2013年３月）

５．【報告書】Chemical and optical aspects of appearance changes in oil paintings from the 19th and early 20th century，Molart Reports 15. University of Amsterdam，02/2015.

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

１　著書

SHIMADZU, Yoshiko; Chapter ８; Painting Materials and Techniques of the Ajanta Wall Paintings. In: Aoki S. et al.（eds）Conservation and Painting Techniques of Wall Paintings on the Ancient Silk Road. Cultural Heritage Science. Springer, Singapore. pp.137-156, 2021.02.

５　学会・外部研究会発表

島津美子，大和あすか「狂歌師鶴廼屋乎佐丸収集「摺りもの帖」に見られる彩色材料」文化財保存修復学会第42回大会研究発表集，2020年８月

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況

①　歴博

基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化形成」（研究代表者：松木武彦），共同研究者，2019年度～2021年度

２　外部資金による研究

科研基盤（B）自然科学的調査手法を用いた黄檗様彫刻の国内受容と変容に関する総合的研究（研究代表者：長谷洋一（関西大学）），研究分担者，2019年度～2021年度

科研基盤（A）伊能図の成立過程に関する学際的研究―忠敬没後200年目の地図学史的検証―（研究代表者：平井松午（徳島大学）），研究分担者（2019年度～），2018年度～2021年度

５　教育

東京成徳大学非常勤講師（博物館資料保存論）

三　社会活動等

１　館外における各種委員

文化財保存修復学会理事

四　活動報告

鈴木　卓治　SUZUKI Takuzi　教授（2017.1～），博物館資源センター長（2019～）

併任：総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授（2017～），生年：1965

【学歴】電気通信大学電気通信学部情報数理工学科（1988年卒業），電気通信大学大学院電気通信学研究科情報工学専攻博士後期課程（1994年単位取得退学），千葉大学大学院融合科学研究科情報科学専攻博士後期課程（2015年修了）
【職歴】国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（1994），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），国立大学法人総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2016），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2017），国立大学法人総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2017），博物館資源センター長併任（2019～）
【学位】博士（学術）（千葉大学）（2015年取得）【専門分野】ソフトウェア学，色彩と画像の数理【主な研究テーマ】

博物館における研究・展示・広報を支援するシステムの研究，とくにネットワーク，データベース，色彩と画像の情報処理【所属学会】情報処理学会，日本ソフトウェア科学会，日本色彩学会，情報知識学会

●主要業績

1．【論文】鈴木卓治・安達文夫・大久保純一・小林光夫：「錦絵資料の測色画像データベースの構築と色彩分析の試み」，『人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん2004）論文集』，IPSJ Symposium Series, Vol.2004，No.17，pp.75-82（2004―12）．（平成17年度情報処理学会山下記念研究賞（人文科学とコンピュータ研究会推薦）受賞対象論文）

2．【論文】Takuzi Suzuki, Misaki Kan'no, Noriko Yata, Yoshitsugu Manabe : Detection of transition of red colours on Nishiki-e printings from colour-corrected digital images, Journal of the International Color Association, Vol.14, pp.57-66（2015-04-27）

3．【論文】鈴木卓治：「蒔絵万年筆資料のマルチアングル画像撮影ならびに展開図作成のための技術開発」，『国立歴史民俗博物館研究報告』206号，pp.39-59，2017年３月

4．【展示】歴博常設展示の第３，第６，第４室各室のリニューアルならびに数多くの企画展示における情報端末の設置ならびに情報コンテンツの提供に関する業務に従事

5．【展示】2016年度企画展示「デジタルで楽しむ歴史資料」，国立歴史民俗博物館，展示プロジェクト代表，2017年３月14日～５月７日

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発

鈴木卓治，横山百合子：花容女職人鑑（はながたちおんなしょくにんかがみ），「さわらずめくり」による非接触型めくりコンテンツ，企画展示「性差の日本史」，国立歴史民俗博物館，2020年10月６日～12月６日

鈴木卓治，横山百合子：梅本記（うめもとき）より遊女豊平の「日記写」および遊女桜木の自筆日記「おぼへ長」，「さわらずめくり」による非接触型めくりコンテンツ，企画展示「性差の日本史」，国立歴史民俗博物館，2020年10月６日～12月６日

鈴木卓治，川村清志：尾形栄一日記，「さわらずめくり」による非接触型めくりコンテンツ，特別展「復興を支える地域の文化―3.11から10年」，国立民族学博物館，2021年３月４日～５月18日

5　学会・外部研究会発表

本山花帆，眞鍋佳嗣，矢田紀子，鈴木卓治「ジェスチャー操作による展示品の回転を利用した展示手法の提案」映像情報メディア学会創立70周年記念大会講演予稿集，オンライン，2020年12月22日

皆木星斗，鈴木卓治，眞鍋佳嗣，矢田紀子「錦絵画像におけるモチーフタグの自動生成」映像情報メディア学会創立70周年記念大会講演予稿集，オンライン，2020年12月23日

「非接触型めくり展示解説「さわらずめくり」の製作と企画展示への応用」画像電子学会第１回デジタルミュージアム・人文学研究会講演予稿集，オンライン（大阪工業大学），2021年３月11日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

①　歴博

開発型共同研究「歴史災害研究のオープンサイエンス化に向けた研究」（2018～2020年度）（研究代表者　橋本雄太），研究分担者

③　機構

機関拠点型基幹研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」（研究代表者　西谷大），地域連携・教育ユニット，研究分担者

広領域連携型基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の構築」（主導機関：国文学研究資料館）「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」（2016～2021年度）（研究代表者　小倉慈司），研究分担者

ネットワーク型基幹研究プロジェクト日本関連在外資料調査研究・活用「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用―日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築―」（2016～2021年度）（プロジェクト代表者　日高　薫），研究分担者

2　外部資金による研究

「博物館展示の要素を取り入れた歴史資料画像Web閲覧の新手法の構築(18K12006)」，科学研究費基盤研究(C)（2018～2020年度）（研究代表者　鈴木卓治），研究代表者

4　主な展示・資料活動

［総合展示］第１室，第３室，第４室，第５・６室各展示プロジェクト委員（情報端末）

三　社会活動等

1　館外における各種委員

人間文化研究機構総合情報発信センター情報部門会議委員（2016年４月より継続中）

人間文化研究機構総合情報発信センター高度連携情報技術委員会委員（資源共有化事業委員会から改称，2013年４月より継続中）

人間文化研究機構情報セキュリティ委員会委員（2016年４月より継続中）

一般社団法人日本色彩学会代議員（関東支部選出，2011年５月より2020年５月まで）

一般社団法人日本色彩学会画像色彩研究会主査（2014年４月より継続中）

一般社団法人日本色彩学会学会誌編集委員会委員（副委員長）（2016年７月より2020年６月まで）

一般社団法人日本色彩学会学会誌広報委員会委員（2016年７月より継続中）

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告

本年度は，資料固定・回転用治具の制御基板の制作に必要となる工作器具（小型旋盤，小型フライス盤）を購入した．来年度は，治具の試作を行う予定である．

関沢まゆみ　SEKIZAWA Mayumi　教授（2011～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2011～），生年：1964

【学歴】東京女子大学文理学部史学科（1986年卒業），筑波大学大学院地域研究研究科日本文化研究コース修士課程（1988年修了）

【職歴】帝京大学文学部非常勤講師（1993），早稲田大学オープンカレッジ非常勤講師（1993），東京家政学院大学人文学部非常勤講師（1994），東京学芸大学教育学部非常勤講師（1994），筑波大学第二学群非常勤講師（1996），国立歴史民俗博物館民俗研究部助手（1998），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2005），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2011），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2011），研究推進センター長併任（2013～2014，2017～2019）

【学位】文学博士（筑波大学）（2001年取得）【専門分野】民俗学【主な研究テーマ】社会・信仰・儀礼に関する民俗学的研究，高度経済成長と民俗の変化【所属学会】日本民俗学会，日本文化人類学会，比較家族史学会【研究目的・研究状況】高度経済成長と民俗の変化に関する共同研究による，資料情報の蓄積と論文作成，また戦後民俗学でやや等閑視されてきた比較研究法の有効性を再確認する実践例を示す試みなどが中心的課題となっている。

●主要業績

1．【単著】『宮座と老人の民俗』266頁，吉川弘文館　2001年２月

2．【単著】『隠居と定年―老いの民俗学的考察―』196頁，臨川書店　2003年３月

3．【単著】『宮座と墓制の歴史民俗』305頁，吉川弘文館　2005年２月

4．【単著】『現代「女の一生」―人生儀礼から読み解く―』244頁，NHK出版　2008年６月

5．【単編著】『民俗学が読み解く葬儀と墓の変化』（国立歴史民俗博物館研究叢書２），160頁，朝倉書店，2017年３月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書

「高度経済成長と民俗学」小川直之・新谷尚紀編『講座日本民俗学１　方法と課題』pp.113-124，朝倉書店，2020年11月１日

2　論文

「若狭のニソの杜の祭地と水源」『國學院雑誌』121-8，pp.1-13，2020年８月15日（査読有）

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発

解説小冊子『第４展示室特集展示　日本の食の風景―「そとたべ」の伝統―』国立歴史民俗博物館，24頁，2020年９月15日

5　学会・外部研究会発表

「葬儀と墓の変化―民俗学の視点から事例差と地域差に注目して―」基盤A「少子化に揺れる東アジアの父系理念：祖先祭祀実践と世界観の再創造に関する比較研究」（代表：植野弘子）研究会（オンライン），2020年11月８日

7　その他

「餅と赤飯」『月刊みんぱく』p.4，国立民族学博物館，2021年１月１日

「近現代の食文化」『REKIHAKU』１，pp.41-43，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日

「特集展示「日本の食の風景―「そとたべ」の伝統―」『友の会ニュース』210，p.3，2020年８月５日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

①　歴博

基幹研究「水をめぐる生活世界―実用と信仰の視点から―」代表，2020～2022年度

「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化形成」(松木武彦研究代表)副代表，2019～2021年度

基盤研究「高度経済成長と食生活の変化」（宮内貴久研究代表）副代表，2018～2020年度

4　主な展示・資料活動

第４展示室特集展示「日本の食の風景―「そとたべ」の伝統―」国立歴史民俗博物館，2020年９月15日～11月29日

総合展示第６室「高度経済成長と生活の変貌」担当

5　教育

東京女子大学国際教養学部非常勤講師（民俗学）

國學院大学大学院文学研究科兼任講師（民俗学特論）

三　社会活動等

1　館外における各種委員

島根県古代文化センター企画運営委員，栃木県重要文化財保護審議委員，新宿区文化財保護審議会委員，川崎市文化財審議会委員，千葉県博物館協議会委員，昭和館運営専門委員会委員，文化審議会専門委員（文化財分科会），文化財保存活用専門委員会専門委員，日本民俗学会理事

3　マスコミ

「正月の米飯と餅」『TASC MONTHLY』539，p.1，公益財団法人たばこ総合研究センター，2020年11月１日

「蕎麦の思い出」『季刊新そば』168，pp.30-31，北白川書房，2021年３月

4　社会連携

②　共同研究

産学連携共同研究「清潔と洗浄をめぐる総合的歴史文化研究」（花王株式会社），研究代表，2017～2020年度

③　講演会・シンポジウム

「お盆の話」益子町歴史講座，栃木県益子町中央公民館，2020年８月29日

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告

高度経済成長期と民俗伝承の変化について，「高度経済成長と民俗学」（『講座日本民俗学』１　方法と課題，朝倉書店，2020年，pp.113-124，を執筆した。

高田　貫太　TAKATA Kanta　教授（2021.1～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授併任（2021.1～）生年：1975

【学歴】岡山大学文学部史学科（1997年卒業），岡山大学大学院文学研究科史学専攻修士課程（1999年修了），大韓民国慶北大学校大学院考古人類学科博士課程（2004年修了）
【職歴】大韓民国慶北大学校考古人類学科非常勤講師（2003），岡山大学埋蔵文化財センター助手（2004），奈良文化財研究所都城発掘調査部研究員（2006），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2010），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2011），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2021.1），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2021.1）
【学位】文学博士（大韓民国慶北大学）（2005年取得）【専門分野】考古学【主な研究テーマ】古墳時代における日本列島と朝鮮半島の交流史【所属学会】韓国嶺南考古学会，韓国考古学会【研究目的・研究状況】近年は，朝鮮半島栄山江流域と倭の交流史について日朝双方の視点からその特色を浮き彫りにすることに努めている。

●主要業績

1．【単著】『古墳時代の日朝関係』吉川弘文館，363頁，2014年３月
2．【単著】『海の向こうから見た倭国』講談社，304頁，2017年２月
3．【単著】『「異形」の古墳　朝鮮半島の前方後円墳』KADOKAWA，286頁，2019年９月
4．【論文】「栄山江流域における前方後円墳築造の歴史的背景」（『古墳時代の研究７―内外の交流と時代の潮流―』pp.85-102，同成社，2012年10月）
5．【論文】「古墳出土龍文透彫製品の分類と編年」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第173集，pp.121-141，2013年３月）（査読付き）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
共編著：『REKIHAKU特集：いまこそ，東アジア交流史』国立歴史民俗博物館，文学通信，2021年２月26日
2　論文
「６世紀後半の東日本地域と朝鮮半島」『国宝決定記念　第101回企画展綿貫観音山古墳のすべて』pp.190-197，群馬県立歴史博物館，2020年７月18日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況
①　歴博
基盤研究「古墳時代・三国時代の日朝関係における交渉経路と寄港地に関する日韓共同研究」（2019～2021年度）研究代表者
③　機構
人間文化研究機構　基幹研究プロジェクト地域研究推進事業「北東アジア地域研究」（拠点　国立民族学博物館）
3　国際交流事業
「国立文化財研究所との相互交流事業」（研究代表者：大久保純一，相手機関：韓国国立文化財研究所，2015～2020年度）※2015年３月に学術交流協定を延長
「先史～中世における日韓葬送儀礼の比較研究Ⅱ」（研究代表者：高田貫太，相手機関：韓国国立中央博物館，2019～2021年度）※2016年４月に学術交流協定を延長
4　主な展示・資料活動
総合展示第１室展示プロジェクト委員

国際企画展示『加耶―東アジアを生きた，ある王国の歴史―』展示プロジェクト委員代表

５　教育

東洋大学文学部非常勤講師

三　社会活動等

１　館外における各種委員

群馬県立歴史博物館企画展示「綿貫観音山古墳のすべて」展示プロジェクト委員

韓国考古学会会誌『韓国考古学報』編集委員

韓国嶺南考古学会誌『嶺南考古学』編集委員

韓国湖南考古学会誌『湖南考古学』編集委員

韓国中央文化財研究院発行専門雑誌『中央考古』編集委員

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群特別研究事業　委託研究者

２　講演・カルチャーセンターなど

「考古学から見た新羅，百済，大加耶の対倭交渉」弘益財団主催　e-Conference call，韓国　弘益財団，大韓民国

「朝鮮半島から見た古墳時代」（第１回～第６回），講座「朝鮮半島から見た古墳時代」，ＮＨＫ文化センター横浜支社，2020年７月18日，８月８日，８月22日，９月19日

「遺跡・遺物からみた韓と倭のつながり」講座「加耶」，朝日カルチャーセンター千葉教室，2020年８月３日

「朝鮮半島栄山江流域における前方後円墳造営の歴史的背景」，「朝鮮半島の前方後円墳をめぐる諸問題―５～６世紀の日韓交流―」トンボの眼（市民講座団体），2020年10月４日

３　マスコミ

「朝鮮半島から見た古墳時代」（第１回～第13回），カルチャーラジオ歴史再発見「朝鮮半島から見た古墳時代」，NHKエデュケーショナル，2020年10月～12月

四　活動報告

２　特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

第四期将来計画委員会委員

国立人間文化研究機構将来構想検討委員会委員

３　研究・調査プロジェクト報告

国際企画展示「加耶」の開催に向けて，展示や図録の内容の充実に向けて，調査研究を行った。また，装身具をめぐる加耶をはじめとする朝鮮半島諸社会と倭の交渉史をめぐる論考を執筆した。ただし，展示自体はコロナ禍の影響のため，2022年度秋に延期となったために，展示内容の検証を実施することはできなかった。

４　その他

2021年４月に，基盤研究「古墳時代・三国時代の日朝関係における交渉経路と寄港地に関する日韓共同研究」に関する書籍を，吉川弘文館より刊行予定。

田中　大喜　TANAKA Hiroki，准教授（2014.4～）

併任：総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授（2014.10～），生年：1972

【学歴】学習院大学文学部史学科（1996年３月卒業），学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程（1999年３月修了），学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士後期課程（2005年３月修了）【職歴】学習院大学文学部助手（2005年４月～2006年３月），東京大学史料編纂所研究機関研究員（2005年４月～2006年３月），駒場東邦中学校・高等学校教諭（2006年４月～2014年３月），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2014年４月～），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2014年10月～）【学位】博士（史学，学習院大学）（2005年取得）【専門分野】日本中世史【主な研究テーマ】中世武士団･武家政権論，中世地域社会論【所属学会】歴史学研究会，日本史研究会，日本歴史学会，地方史研究協議会，鎌倉遺文研究会，学習院史学会【研究目的・研究状況】武士団・武家政権の研究を通して，およそ700年間にわたり武士の支配が継続した歴史を持つ日本社会の特質を追究することを目的とする。2019年度より，東国武士団の西遷・北遷に関する共同研究を実施している。【メールアドレス】daiki-t@rekihaku.ac.jp

●主要業績

1．【単著】『中世武士団構造の研究』376頁，校倉書房，2011年８月
2．【単著】『新田一族の中世　「武家の棟梁」への道』230頁，吉川弘文館，2015年９月
3．【共著】『熊谷市史通史編上巻　原始・古代・中世』765頁，熊谷市，2018年３月
4．【共編】小島道裕・田中大喜・荒木和憲『古文書の様式と国際比較』432頁，勉誠出版，2020年２月
5．【共編】秋山哲雄・田中大喜・野口華世『増補改訂新版　日本中世史入門　論文を書こう』612頁，勉誠出版，2021年３月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
秋山　哲雄・田中　大喜・野口　華世編『増補改訂新版　日本中世史入門　論文を書こう』612頁，勉誠出版，2021年３月１日

2　論文
「上野国新田領における都市の風景―世良田宿と金山城下―」『戦国都市の風景―シンポジウム報告―』pp.16-25，東国中世考古学研究会，2020年11月25日
「石見高津氏の出自と系譜」『日本歴史』873，pp.19-21，吉川弘文館，2021年２月１日（査読無）
「中世石見国高津川・益田川河口域港湾の基礎的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』223，pp.207-223，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日（査読有）
「中世武家の置文と譲状」『国立歴史民俗博物館研究報告』224，pp.53-73，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日（査読有）
「薩摩千竈氏再考」『国立歴史民俗博物館研究報告』226, pp.289-305，国立歴史民俗博物館, 2021年３月31日（査読有）

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
特集展示図録『海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―』121頁，国立歴史民俗博物館，2021年３月16日

5　学会・外部研究会発表
「『広橋家旧蔵記録文書典籍類』所収文書群の書誌学的考察」，オンライン研究集会「藤波家旧蔵史料調査の成果と課題」國學院大學，2021年３月27日

7　その他
書評「悪党研究会編『南北朝「内乱」』」『日本歴史』868，pp.90-93，吉川弘文館，2020年９月１日
資料紹介「A Letter by the King of Ryukyu Preserved in the Documents of the Echizen-Shimazu Family」，『REKIHAKU』２，pp.107-110，国立歴史民俗博物館，2021年２月26日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況
①　歴博
「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成」（代表：梅田千尋）共同研究員，2018～2020年度
「『広橋家旧蔵記録文書典籍類』を素材とする中世公家の家蔵史料群に関する研究」（代表：家永遵嗣）共同研究員（副代表），2020～2022年度
②　他の機関
東京大学史料編纂所一般共同研究「藤波家旧蔵史料の調査・研究」（代表：高橋秀樹）共同研究員，2020年度
東京大学史料編纂所一般共同研究「14～17世紀における奄美・琉球関係史料の学際的研究」（代表：村木二郎）共同研究員，2020年度

2　外部資金による研究
科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）「中世日本の東アジア交流史に関する史料の集成的研究と研究資源化」（代表：荒木和憲）連携研究者，2016～2020年度
科学研究費補助金基盤研究（Ａ）「琉球帝国からみた東アジア海域世界の流動的様態と国家」（代表：村木二郎）

研究分担者，2018～2021年度
科学研究費補助金基盤研究（B）「西遷・北遷東国武士の社会的権力化」研究代表者，2019～2022年度

4　主な展示・資料活動
2020年度新・特集展示「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―」（展示代表：村木二郎）展示プロジェクト委員
企画展示「中世武士団―地域に生きた武家の領主―」展示プロジェクト委員（展示代表）

5　教育
学習院大学文学部非常勤講師，「日本史特殊講義」担当
東京都立大学人文社会学部非常勤講師，「日本史学演習Ⅰ」担当
東邦大学理学部非常勤講師，「総合演習Ⅳ」担当
総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史専攻学位審査担当（主査）
筑波大学附属高等学校「総合的な探究の時間」評価講師

三　社会活動等

2　講演・カルチャーセンターなど
「東国における武士団の展開と荘園の成立」，「東国の中世はいつ始まったのか」朝日カルチャーセンター千葉教室，2020年８月１日
「都市鎌倉と武士の居館からみる中世社会」，歴博第２展示室提携講座「平安～桃山　今に繋がる日本文化の形成に迫る」朝日カルチャーセンター千葉教室，2021年２月５日

3　マスコミ
「鎌倉の本当の歩き方とは？」『所JAPAN』，フジテレビ系列，2020年４月27日

四　活動報告

2　特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの
国立歴史民俗博物館広報活動推進業務選定委員
准教授候補者選考委員会委員

3　研究・調査プロジェクト報告
山口市歴史民俗資料館所蔵の虫追政国軍忠状写２通と波多野義秀軍忠状写の調査・撮影を行い，石見国長野荘高津郷を本拠とした高津氏の系譜に関わる情報を収集した。また，石見国長野荘・益田荘故地および肥前国小城郡故地の現地調査を実施し，当該地域における中世武家領主の本拠空間復元に向けた情報を収集した。

4　その他
2019年度から開始した科学研究費補助金基盤研究（B）「西遷・北遷東国武士の社会的権力化」の今年度の研究経過・成果については，「外部資金による研究」の章を参照のこと。

仁藤　敦史　NITO Atsushi　教授（2008～）

併任　総合研究大学院大学日本歴史研究専攻教授（2008～）

【学歴】早稲田大学第一文学部日本史学専攻（1982年卒業），早稲田大学大学院文学研究科史学（日本史）専攻博士前期課程（1984年修了），早稲田大学大学院文学研究科史学（日本史）専攻博士後期課程（1989年満期退学）
【職歴】早稲田大学第一文学部助手（1989），国立歴史民俗博物館歴史研究部助手（1991），同助教授（1999），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2002），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授(2007)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任(2007)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2008），【役職】総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻専攻長（2012-13），広報連携センター長（2017-2018）【その他】国立歴史民俗博物館三十年史編纂委員長（2011-2014）【学位】博士（文学）（早稲田大学文学部1998取得）【専門分野】日本古代史【主な研究テーマ】都城制成立過程の研究／Establishment process of Japanese ancient capital cities，古代王権論／Theoretical study of ancient sovereignty，古代地域社会論／Ancient local societies【所属学会】歴史学研究会，木簡学会，史学会，日本史研究会，条里制・古代都市研究会

●主要業績

1．【著書】『卑弥呼と台与』山川出版社，90頁，2009年10月
2．【著書】『都はなぜ移るのか―遷都の古代史―』吉川弘文館，246頁，2011年12月
3．【著書】『さかのぼり日本史⑩奈良・飛鳥「都」がつくる古代国家』NHK出版，123頁，2012年６月
4．【著書】『古代王権と支配構造』吉川弘文館，361頁，2012年３月
5．【原著論文】「倭国の成立と東アジア」（『岩波講座　日本歴史』１原始・古代１，岩波書店，pp.137-167，2013年11月）（査読有）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
「複都制と難波宮官人」中尾芳治編『難波宮と古代都城』pp.161-171，同成社，2020年６月
「王宮と古代王権・官僚制」『講座・畿内の考古学Ⅲ王宮と王都』pp.22-40，雄山閣出版，2020年11月25日（査読有）

2　論文
「五世紀史解釈の方法論をめぐって」『歴史科学』242，pp.1-8，大阪歴史科学協議会2020年８月（査読有）
「白村江敗戦後の倭国と新羅･唐関係」『東西人文』14，pp.185-218，韓国慶北大学，大韓民国，2020年10月（査読有）
「「万世一系論」と女帝・皇太子」『歴史学研究』1004，pp.2-11，歴史学研究会，2021年１月15日（査読有）
「古代公文書の成立前史―漢字・暦・印・文書様式―」『国立歴史民俗博物館研究報告』224，pp.7-28，国立歴史民俗博物館，2021年３月（査読有）

3　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
『日本歴史　生活図鑑ビジュアルブック』東京書籍，飛鳥・奈良～平安時代監修，全112頁

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
「地方政治空間の男女－女子群像板絵」「男女の人形」企画展示図録「性差の日本史」，2020年10月，pp.44～49

5　学会・外部研究会発表
「白村江敗戦後の倭国と新羅・唐関係」慶北大学人文学術院ＨＫ+事業団　第11回専門家招請講演，慶北大学ZOOM参加，2020年９月17日
「「万世一系」論と女帝・皇太子―皇統意識の転換を中心に―」歴研シンポジウム「皇位継承再論―女帝・女系の可能性と皇太子―」オンライン開催，2020年９月26日
「天平期の疫病と風損―国家による対策と地域―」静岡県地域史研究会記念シンポジウム，静岡県地域史研究会，2020年９月22日

7　その他
コメント「古代王権論からみた天皇之位置づけ－」『民衆史研究』99，pp.51-58，2020年５月
「古代の郡と郷をさぐる―下総国印旛の事例を中心に―」『千葉史学』76，千葉史学会，pp.13-14，2020年５月10日
「古代王権の成立」『テーマで学ぶ日本古代史　政治・外交編』pp.2-11，吉川弘文館，2020年６月10日
「お札になった皇后―近代の女帝像―」『REKIHAKU』１，pp.64-65，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況
①　歴博
基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化形成」（研究代表者：松木武彦）分担者（2019～2021年度）
③　機構
基幹研究プロジェクト「異分野融合による「総合書物学」の構築」ユニット「古代の百科全書『延喜式』の多文野協働研究」分担者（2016～2021年度）
口頭発表「『延喜式』主税式下租帳式と浜名郡輸租帳」全体研究会報告，歴博，2020年９月５日

2　外部資金による研究
科学研究費基盤研究（Ｃ）「古代荘園と在地社会についての高度情報化研究」（研究代表者，2020年度～2022年

度）
科学研究費基盤研究（Ｂ）「格・式研究を踏まえた日本古代社会像の再構築」（研究分担者，2020年度～2022年度）
桜井市纏向学研究センター共同研究員（2013年度～）
４　主な展示・資料活動
2020年度企画展示「ジェンダーからみた日本の歴史」展示プロジェクト委員
企画展示「加耶」展示プロジェクト委員
正倉院文書複製事業（現本照合続々修12-11･13-4，８月，撮影続々修13-･13-8，10月，宮内庁正倉院事務所）
５　教育
明治大学大学大学院文学研究科兼任講師（日本史特論）通年
総研大学位審査副査（西山剛）
早稲田大学大学院文学研究科修士論文副査２名

三　社会活動等
１　館外における各種委員
条里制・古代都市研究会評議員
正倉院文書研究会委員
奈良県桜井市纏向学研究センター共同研究員
島根県古代文化センター企画運営委員
２　講演・カルチャーセンターなど
「七世紀の王権と外交」全５回，トンボの眼連続講座，2020年７月19日・８月９日・９月５日
「天皇の歴史―七世紀の王権と外交―」全５回，公益財団法人いきいき埼玉，埼玉県県民活動総合センター，2019年９月13日・20日・27日・10月４日
「邪馬台国論の現在」全５回，トンボの眼連続講座，2020年10月18日・11月22日・12月20日，2021年１月31日・２月14日
「大化改新論の現状と課題―東アジア情勢と倭国―」明治大学・博物館友の会「飛鳥・藤原を学ぶ会」，東京都北区北トピア，2020年11月５日
「「倭の五王」の時代を考える」全６回，早稲田大学イクステンションセンター，八丁堀校，2021年１月７日・28日・２月４日・18日・25日・３月４日
「歴史における女帝」全２回，朝日カルチャー新宿，新宿三井住友ビル，2021年１月21日・２月18日
「磐井の乱と国家形成―百済と比較した国家形成史―」トンボの眼講演＆対談「雄略・継体朝の対半島外交と九州勢力」，（和田清吾氏と対談），リモート開催，2020年09月21日
「聖武天皇と「彷徨五年」―大仏造営の目的―」トンボの眼講演＆対談，（佐藤信氏と対談），リモート開催，2020年12月12日
３　マスコミ
「日本史アップデート　大和朝廷」読売新聞夕刊インタビュー記事，2021年２月16日

四　活動報告
２　特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの
運営会議委員・人事委員
３　研究・調査プロジェクト報告
古代の王権および都城の研究をするため，関連学会への参加や書籍等の購入により最新の発掘情報および出土文字資料の情報収集をすることができた。

林部　均　HAYASHIBE Hitoshi　副館長･研究総主幹（2017～），教授（2013～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2013～），生年：1960

【学歴】関西大学文学部史学地理学科（1983年卒業）
【職歴】奈良県立橿原考古学研究所嘱託（1983），奈良県立橿原考古学研究所（奈良県教育委員会）技師（1985），

同主任研究員（1992），同総括研究員（2006），関西大学文学部非常勤講師（2002～2005），三重大学人文学部非常勤講師（2006），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2010），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2010），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2013～），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2013～），研究推進センター長（2014～2016），専修大学文学部非常勤講師（2013），早稲田大学大学院非常勤講師（2014），専修大学大学院非常勤講師（2015），東京大学大学院人文社会系研究科客員教授（2020）
【学位】博士（文学）（奈良女子大学）（2001年取得）【専門分野】日本考古学【主な研究テーマ】東アジアの王宮・王都の研究，考古学からみた地域社会の研究【所属学会】日本考古学協会・考古学研究会・日本史研究会・条里制古代都市研究会

●主要業績

1．【著書】『古代宮都形成過程の研究』378頁，青木書店，2001年３月
2．【著書】『飛鳥の宮と藤原京―よみがえる古代王宮―』259頁，歴史文化ライブラリー249，吉川弘文館，2008年３月
3．【論文】「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器」（『考古学雑誌』72-1，pp.31-71，日本考古学会，1986年９月）（査読付き）
4．【論文】「古代宮都と郡山遺跡･多賀城―古代宮都からみた地方官衙論序説―」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第163集，pp.99-131，2011年３月）（査読付き）
5．【調査報告書】編著『飛鳥京跡Ⅲ―内郭中枢の調査―』253頁，奈良県立橿原考古学研究所，2008年３月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

2　論文
「王宮・王都の形成―歴代遷宮と飛鳥・藤原京・平城京―」『テーマで学ぶ日本古代史　政治・外交編』pp.135-146，吉川弘文館，2020年５月28日（査読なし）
「多賀城・大宰府の成立と古代国家」『大宰府史跡指定100年と研究の歩み』（九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集　第２集），pp.195-202，九州国立博物館，2021年３月31日

7　その他
「飛鳥宮跡と苑池」『飛鳥の王宮と苑池』奈良県立橿原考古学研究所，pp.18-25，2020年11月３日
「飛鳥宮跡と苑池」『飛鳥の王宮と苑池』読売新聞社，pp.18-25，2020年11月15日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況
①　歴博
基幹研究プロジェクト（広領域型）「異分野融合による総合書物学の構築」（主導機関:国文学研究資料館）「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」（研究代表者　小倉 慈司）共同研究員，2016年度～2021年度
基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化形成」（研究代表者　松木武彦）共同研究員，2019年度～2021年度
②　他の機関
基幹研究プロジェクト「地域研究推進事業・北東アジア地域研究」国立民族学博物館（研究代表者：池谷和信）共同研究員，2016～2021年度

2　外部資金による研究
基盤研究（B）「官衙機構の動態からみた日本古代における境域の特質」（研究代表者：林部　均），2018年度～2020年度
基盤研究（A）「高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究」（研究代表者：斎藤努）研究分担者，2017年～2020年度

4　主な展示・資料活動
総合展示第１室「原始・古代」新構築プロジェクト委員

5　教育
東京大学大学院人文社会系研究科　客員教授（2020.4.1～2021.3.31），「考古学特殊講義ⅩⅦ・ⅩⅧ」「日本古代

の考古学１・２」

三　社会活動等

１　館外における各種委員

条里制・古代都市研究会評議委員，考古学研究会全国委員（関東），文化審議会専門委員（文化財分科会第一専門調査会），古墳壁画の保存活用に関する検討会委員（文化庁），日本学術会議連携会員，奈良県立橿原考古学研究所共同研究員，国立民族学博物館共同研究員，上野国府等調査委員会委員（前橋市教育委員会），総社古墳群調査検討委員会（前橋市教育委員会），松山市文化財保護審議会久米官衙遺跡群調査検討部会委員（松山市教育委員会），福原長者原遺跡調査指導委員会委員（行橋市教育委員会），粕屋町文化財調査指導委員会委員（阿恵遺跡調査指導委員会・粕屋町教育委員会），史跡鋳銭司跡調査検討委員会委員（山口市教育委員会），史跡秋田城跡環境整備指導委員会委員（秋田市教育委員会）

２　講演・カルチャーセンターなど

「飛鳥宮跡と苑池」『飛鳥の王宮と苑池』（第40回奈良県立橿原考古学研究所公開講演会），奈良県産業会館，2020年11月３日

「飛鳥宮跡と苑池」『飛鳥の王宮と苑池』（第10回奈良県立橿原考古学研究所東京公開講演会），よみうり大手町ホール，2020年11月15日

４　社会連携

①　刊行物

「多賀城・大宰府の成立過程からみた古代国家の地域支配」『律令国家と大宰府史跡』pp.42-51，福岡県教育委員会，2021年３月６日

「多賀城と大宰府―古代国家の東と西―」『大宰府と多賀城』pp.38-42，福岡県教育委員会，2020年10月１日

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告

列島の各地は，多様な自然環境，歴史的条件に規制され，様々な地域文化を形成してきた。地域文化形成の要因はどこにあるのか，また，歴史的条件は何かということを明らかにすべく研究を実施した。本年は，新潟県上越市直江津，石川県金沢市，福井県敦賀市・小浜市において日本海海運，兵庫県赤穂市で瀬戸内海水運と製塩，長野県上田市において信濃川舟運にかかわるモノ資料や古文書，遺跡の調査等を実施し，それぞれの地域のもつ多様性の把握につとめた。多様となる要因は，それぞれの地域によって様々であり，それが何であるのかを検討した。また，それらが，前近代から現代へと，どのように展開したのかという現代までを視野に入れた研究を進めた。そして，現代にも残る地域社会の多様性について検討した。

原山　浩介　HARAYAMA Kosuke　准教授（2011.4～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2011～），生年：1972

【学歴】横浜市立大学商学部経済学科（1997年卒業），京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻修士課程（1999年修了），京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻博士課程（2004年修了）

【職歴】龍谷大学非常勤講師（2002～2005），佛教大学通信教育部非常勤講師（2002～2011），佛教大学非常勤講師（2003～2005），近畿大学非常勤講師（2003～2005），国立歴史民俗博物館非常勤研究員（2004～2005），慶應義塾大学非常勤講師（2005～2006，2008～2010），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2005），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），敬愛大学非常勤講師（2007～），白梅学園大学非常勤講師（2008～2010），農業者大学校非常勤講師（2010），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2011～），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2011～）

【学位】博士（農学）（京都大学）（2004年取得）【専門分野】日本現代史【主な研究テーマ】日本における消費社会と消費者運動の成立・変遷過程，近現代の農村社会の変容に関する研究，日本とハワイ・北米との間の人の移動に関する歴史的研究【所属学会】同時代史学会，歴史学研究会，日本村落研究学会，地域農林経済学会，関東社会学会，日本移民学会

●主要業績

1．【単著】『消費者の戦後史：闇市から主婦の時代へ』324頁，日本経済評論社，2011年６月
2．【共編著】（共編著／朝日祥之・原山浩介）『アメリカ・ハワイ日系社会の歴史と言語文化』290頁，東京堂出版，2015年３月（執筆担当部分：「「日本語」から出発する移民史」pp.5-15（朝日祥之と共著），「労働者向け新聞『ハワイスター』の時代：太平洋戦争後のハワイにおける思想状況の断面」pp.89-126）
3．【共編著】（共編著／池上甲一・原山浩介）『食と農のいま』383頁，ナカニシヤ出版，2011年６月（執筆担当部分：「国民経済と農業」pp.185-204，コラム16「農地は誰が耕すのか」pp.285-288，「農業を支える土地と労働」pp.289-310，「おわりに」（池上甲一と共著）pp.360-365）
4．【共編著】（共編著／安田常雄・大串潤児・高岡裕之・西野 肇・原山浩介）『シリーズ 戦後日本社会の歴史 社会を消費する人びと―大衆消費社会の編成と変容』225頁，岩波書店，2013年１月（執筆担当部分：「戦時から戦後へ」pp.1-11，「出発としての焼け跡・闇市」pp.14-39，「現在からの問い」pp.217-225）
5．【論文】「消費者運動イメージの時代性：1970年前後の「きしみ」から考える」（『国民生活研究』51（４），pp.30-45，2012年３月）（査読有）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書

分担執筆「歴史研究のなかの「記録」」『方法としての〈語り〉：民俗学をこえて』pp.297-331，ミネルヴァ書房，2020年４月10日

2　論文

地域に構造化される「人の移動」：村落研究をめぐるパースペクティブの再考にむけて」『年報　村落社会研究』56，pp.235-254，日本村落研究学会，2020年11月15日（査読有）

「市民運動の世代交代と前衛／後衛を考える：新たな消費者運動論の構築に向けて」『生協総研レポートNo.93（第３期）生協論レビュー研究会（中）』93，pp.12-18，生協総合研究所，2021年２月

5　学会・外部研究会発表

「食をめぐる「消費者問題」の変転と主体性の行方」政治経済学・経済史学会秋季学術大会，オンライン，2020年10月25日

「日本の高度経済成長期の消費者運動 / Japanese Consumer Movements in the Rapid Economic Growth Era」The 6thAnnual Hasekura International Japanese Studies SymposiumYonaoshi: Envisioning a Better World，オンライン，2020年３月12日

7　その他

「「移民展示」の可能性と課題」『千葉史学』千葉歴史学会，2020年５月17日

「シュトレーク『資本主義はどう終わるのか』：ペシミスティックに未来と希望を語ること」『現代思想　９月臨時増刊号』48-11，pp.34-37，青土社，2020年８月20日

「「差別」と多様性をどう展示するか」『REKIHAKU』１，pp.50-52，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日

「「多様性」の問い方：素朴さの意義とその向こう側」『REKIHAKU』２，pp.27-29，国立歴史民俗博物館，2021年２月26日

「ハワイの人種的多様性と日本人移民・日系人」『ハワイ移民の「もう一つの歴史を考える」』pp.37-46，国立歴史民俗博物館，2021年３月25日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

①　歴博

機構基幹研究プロジェクト「北米における日本関連在外資料調査研究・活用―言語生活史研究に基づいた近現代の在外資料論の構築―」（歴博ブランチ代表）（研究代表：国立国語研究所　朝日祥之）2016～2021年度

2　外部資金による研究

科学研究費基盤研究C「1970年代～80年代の消費者運動の再編成過程に関する実証的研究」研究代表者

科学研究費基盤研究C「20世紀後半の日本における社会運動の記憶の構造把握および継承に向けた資料学的研究」（代表 相川陽一）研究分担者

4　主な展示・資料活動

総合展示第５室　展示プロジェクト委員総合展示第６室　展示プロジェクト委員
５　教育
敬愛大学非常勤講師（2007～現在に至る），白梅学園大学非常勤講師（2008～2010，2013～現在に至る）

三　社会活動等
１　館外における各種委員
長崎市国指定史跡長崎原爆遺跡保存・整備委員会委員長代理，長崎原爆遺跡調査検討委員会委員長代理，滋賀県平和祈念館展示等監修委員，日本村落研究学会『村落研究ジャーナル』編集委員（編集委員長），同時代史学会理事（事務局長），特定非営利活動法人市民環境研究所理事，公益財団法人生協総合研究所　常設研究会座長
２　講演　カルチャーセンターなど「ハワイ：多様性の島々から考える」
（公財）長崎市平和推進協議会　平和推進事業，オンライン，2020年８月15日
３　マスコミ
ダークサイドミステリー「東京・昭和の闇　姿なき爆弾魔“草加次郎事件”」（NHK BSプレミアム），2020年７月２日

四　活動報告

樋浦　郷子　HIURA Satoko　准教授（2016～）

【学歴】神戸大学大学院国際協力研究科博士前期課程（1998年修了），京都大学大学院教育学研究科修士課程（2006年修了），京都大学大学院教育学研究科博士課程（2011年修了）
【職歴】帝京大学専任講師（総合基礎科目・教職課程）（～2016年３月），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2016～）
【学位】博士（教育学・京都大学）（2011年取得）【専門分野】教育史【主な研究テーマ】朝鮮と台湾における日本植民地期の教育と宗教の関係に関わる歴史【所属学会】教育史学会，朝鮮史研究会，歴史学研究会，日本教育史研究会

●主要業績
１．【著書】『신사・학교・식민지 지배를 위한 종교-교육
（神社・学校・植民地　支配のための宗教―教育）』高麗大学出版文化院（韓国），387頁，2016年２月
２．【著書】『神社・学校・植民地―逆機能する朝鮮支配―』京都大学学術出版会，373頁，2013年３月
３．【論文】「학교의식에 나타난 식민지 교육：현대일본의“국가신도”논쟁과 관련하여」
（学校儀式に見る植民地の教育：現代日本の「国家神道」論争と関連して）『翰林日本学』25号，翰林大学（韓国）日本学研究所，pp.59-71，2014年12月
４．【論文】「植民地朝鮮の『御真影』：初等教育機関の場合」『日本の教育史学』57号，教育史学会，pp.84-96，2014年10月
５．【学会・外部研究会発表】
「台湾の天皇崇敬教育―新化の学校をめぐるモノ資料を手がかりに―」，“上學去―近代教育與臺灣社會”臺灣教育史國際學術研討會，文化部・国立台湾歴史博物館，2019年１月19日
「未完の朝鮮扶余神宮が果たした役割と意味」“The Role and the Meaning of Unfinished Buyeo Sin Gung（Fuyo Jingu）Imperial Shrine in the Wartime Korea”（英語・日本語による），History of education and language in late Chosôn and Colonial-era Korea Workshop，九州大学，2016年２月20日

●2020年度の研究教育活動
一　研究業績
２　論文
「書評　広瀬玲子『帝国に生きた少女たち：京城第一公立高等女学校生の植民地経験』」『歴史学研究』1001号，2020年10月．（査読なし）

「（遺跡を訪ねて　Ⅱ）八重山島蔵元跡から」『學士會会報』947号，学士会，2021年３月．（査読なし）
「書評「「江戸しぐさ」の現在と未来―原田実氏著作を読んで―」『史苑』，立教大学史学会，2021年３月．（査読なし）

４　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
特集展示（国際展示）図録『東アジアを駆け抜けた身体（からだ）―スポーツの近代』

５　学会・外部研究会発表
「意図した断絶と意図せざる継承について―1945年の台湾と朝鮮における学校文書から」2020レクチャーシリーズ 第２回 公開特別講演，京都大学（オンライン），2020年８月28日
「韓国併合直後の公立普通学校―『草渓公立普通学校沿革誌』を手がかりとして―」教育史学会第64回大会（オンライン開催）2020年９月27日て―，武蔵野美術大学（オンライン），2020年９月27日

７　その他
「特集展示（国際展示）『東アジアを駆け抜けた身体（からだ）―スポーツの近代』１月26日～３月14日」『歴博友の会』213，2021年２月．

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況
①　歴博
基幹研究「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」（代表：樋口雄彦）副代表，2018-2020年度
山川出版社との共同研究
花王との共同研究

２　外部資金による研究
科研　19K02493　基盤（C）「帝国日本における学校儀礼教育の歴史：声・音の検討を中心に」

４　主な展示・資料活動
第５展示室展示リニューアル委員
2020年度特集展示「東アジアを駆け抜けた身体（からだ）―スポーツの近代」展示プロジェクト代表

５　教育
歴博・千葉大学留学生プロジェクト

三　社会活動等

１　館外における各種委員
日本教育史研究会世話人（2013年４月から現在）

３　マスコミ
「「日本代表」として五輪に出場した台湾人アスリート　陸上選手・張星賢　近代日本とアジアの激動映す足跡」日本経済新聞社，2021年２月１日

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告
新型コロナウィルス拡大の影響により，海外での調査が困難となったために，十分な研究ができなかった。しかし国内でできることを遂行し本プロジェクト経費を下記のように生かすことができた。
＊発表
「韓国併合直後の公立普通学校 ―『草渓公立普通学校沿革誌』を手がかりとして―」教育史学会第64回大会（オンライン開催），2020年９月27日
＊講演
「意図した断絶と意図せざる継承について―1945年の台湾と朝鮮における学校文書から」2020レクチャーシリーズ 第２回 公開特別講演，京都大学教育学研究科（オンライン開催），2020年８月28日

樋口　雄彦　HIGUCHI Takehiko　教授（2011～），専攻長（2020～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2011～），生年：1961

【学歴】静岡大学人文学部人文学科日本史学専攻（1984年卒業）
【職歴】沼津市明治史料館学芸員（1984），同主任学芸員（1997），国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授（2001），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2003），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2011），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2011），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長併任（2020）
【学位】博士（文学）（大阪大学）（2007年取得）【専門分野】日本近代史【主な研究テーマ】明治期の社会・文化と旧幕臣の動向【所属学会】明治維新史学会，洋学史学会，全国歴史資料保存利用機関連絡協議会，静岡県近代史研究会，静岡県地域史研究会

●主要業績

1．【著書】『旧幕臣の明治維新　沼津兵学校とその群像』吉川弘文館，206頁，2005年11月
2．【著書】『沼津兵学校の研究』吉川弘文館，661頁，2007年10月
3．【著書】『敗者の日本史17　箱館戦争と榎本武揚』吉川弘文館，288頁，2012年11月
4．【著書】『幕末の農兵』現代書館，206頁，2017年12月
5．【著書】『幕末維新期の洋学と幕臣』岩田書院，404頁，2019年８月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

２　論文
「勝海舟と静岡藩の御貸人」明治維新史学会編『明治維新史論集２　明治国家形成期の政と官』pp.116-144，有志舎，2020年10月25日（査読有）
「復禄請願運動にみる旧幕臣の身分をめぐる諸問題」『国立歴史民俗博物館研究報告』228，pp.559-589，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日（査読有）

７　その他
「日記」松永昌三他編『郷土史大系　情報文化』pp.161-163，朝倉書店，2020年８月１日
「近代における歴史史料の整備 」松永昌三他編『郷土史大系　情報文化』pp.175-181，朝倉書店，2020年８月１日
「遺跡を尋ねて　第Ⅴ期　総論　日本の遺跡～近現代編～」『學士會会報』946, pp.92-93，一般社団法人学士会，2021年１月１日
「沼津兵学校跡　幕府が遺した明治初年の先進教育機関」『學士會会報』946, pp.94-100，一般社団法人学士会，2021年１月１日

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況
①　歴博
基幹研究「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」（2018～2020年度）研究代表者

２　外部資金による研究
科研費・基盤研究（C）「幕府瓦解後の旗本土着をめぐる研究」（2019～2021年度）研究代表者

４　主な展示・資料活動
総合展示第５室・第６室リニューアル委員会代表
2021年度企画展示「学びの歴史像―わたりあう近代―」展示プロジェクト委員会代表

三　社会活動等

１　館外における各種委員
静岡市文化財保護審議会委員

千葉県文化財保護審議会委員

3　マスコミ

ＮＨＫ・総合テレビ　ファミリーヒストリー「鶴見辰吾」（2020年７月20日放送，23日再放送）

時代劇専門チャンネル　歴史科学捜査班「解明！五稜郭　土方歳三命を懸けて箱館へ」（再放送，2020年12月26日）

4　社会連携

①　刊行物

「代戯館の教師　亀里樗翁と築山章造」『沼津市明治史料館通信』141，pp.1-3，沼津市明治史料，2020年４月25日

「勝海舟と龍馬をめぐる幕臣たち」『令和元年度高知県立坂本龍馬記念館連続講演会　幕末キーパーソン―龍馬をめぐる人々―講演録』，pp.81-102，高知県立坂本龍馬記念館，2020年４月30日

「静岡藩の苗字帯刀」『静岡県近代史研究会会報』500，pp.19-20，静岡県近代史研究会，2020年５月10日

「加藤重成と荒畑岩次郎―ある旧幕臣の兄弟―」『沼津市明治史料館通信』142，pp.2-3，沼津市明治史料館，2020年７月25日

「小栗上野介と大久保一翁をむすぶ姻戚関係」『たつなみ』45，pp.30-41，小栗上野介顕彰会，2020年８月19日

「新刊紹介　『クレットマン日記』」『静岡県近代史研究会会報』505，pp.1-3，静岡県近代史研究会，2020年10月10日

「孫文と会った加藤定吉」『沼津市明治史料館通信』143，pp.1-2，沼津市明治史料館，2020年10月25日

「江原素六と東照宮三百年記念事業」『沼津市明治史料館通信』143，p.3，沼津市明治史料館，2020年10月25日

「渋沢栄一と江原素六」『沼津市明治史料館通信』144，pp.2-3，沼津市明治史料館，2021年１月25日

「刺青師彫千代と静岡の旧幕臣宮崎立元・駿児」『静岡県近代史研究会会報』504，pp.2-4，静岡県近代史研究会，2021年２月10日

「震災体験を記録したサムライたち」『新世』75-3，pp.21-23，一般社団法人倫理研究所，2021年３月１日

「沼津兵学校資業生成澤知行とその資料」『沼津市博物館紀要』45，pp.1-40，沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館，2021年３月31日

「沼津商社会所に関する新史料」『沼津市博物館紀要』45，pp.41-48，沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館，2021年３月31日

「葉舟の父水野勝興と旧幕臣としての水野家」『成田市史研究』45，pp.1-11，成田市教育委員会，2021年３月

「民権ネットワーク　旧幕臣」『自由民権』34，pp.96，町田市立自由民権資料館，2021年３月31日

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告

公益財団法人江川文庫（伊豆の国市）での資料調査を実施し，同文庫が保管する柏木家文書の整理・目録作成をめざし，整理保存用封筒への収納作業を行った。また，沼津市明治史料館での資料調査も実施し，関係する文献・資料の調査・収集につとめた。ただし，新型コロナウイルス感染症の拡大のため，調査回数は大幅に少なくなった。

日高　薫　HIDAKA Kaori　教授（2010～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2010～）

【学歴】東京大学文学部第二類（史学）美術史学専修課程（1985年卒業），東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程（1987年修了），東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻博士課程（1990年単位取得退学）

【職歴】杉野女子大学非常勤講師（1988），東京大学文学部美術史研究室助手（1990），共立女子大学国際文化学部日本文化研究研究助手（1992），国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（1994），同助教授（2002），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），文部科学省研究振興局学術調査官併任（2004～2006），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2010），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2010），広報連携センター

長併任（2011～2012）
【学位】博士（文学）（東京大学2008年）【専門分野】漆工芸史【主な研究テーマ】蒔絵を中心とする漆工芸史および日本の装飾芸術の特質に関する研究，交易品としての漆器をめぐる文化交流に関する研究【所属学会】美術史学会，漆工史学会

●主要業績

1．【著書】『異国の表象―近世輸出漆器の創造力―』475頁，ブリュッケ，2008年３月
2．【概説書】編著『海を渡った日本漆器Ⅱ―18・19世紀―』（『日本の美術』427号，98頁，至文堂，2001年12月
3．【論文】Maritime Trade in Asia and the Circulation of Lacquerware（「アジアの海と漆器流通」），Rupert Faulkner，Shayne Rivers 編，East Asian Lacquer：Material Culture, Science and Conservation（東洋漆器―その文化史，科学と保存修復），pp.5-9，London，2011年２月
4．【論文】「蒔絵の「色」―絵画と工芸のはざまで」（玉蟲敏子編『講座　日本美術史５　<かざり>と<つくり>の領分』pp.165-197，東大出版会，2005年10月）
5．【資料図録】編著『紀州徳川家伝来楽器コレクション』国立歴史民俗博物館資料図録3,414頁，国立歴史民俗博物館，2004年３月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
Hidaka Kaori･Bettina Zorn（共編著）『異文化を伝えた人々Ⅱ ハインリッヒ･フォン･シーボルトの蒐集資料』152頁，国立歴史民俗博物館，2021年3月（査読あり）
「シーボルト兄弟による日本コレクションの形成と拡散　―蜷川式胤との関係を中心に―」pp.41-56（査読あり）
「The Formation and Dispersion of the Siebold Brothers' Japan Collections: Their Relationship with Ninagawa Noritane」pp189-206（査読あり）
日高　薫・工藤　雄一郎（共編著）『国立歴史民俗博物館研究報告　第225集　［共同研究］学際的研究による漆文化史の新構』，371頁，国立歴史民俗博物館，2021年３月

2　論文
「風景図蒔絵プラークの原図と技法について」『国立歴史民俗博物館研究報告』225，pp.243-273，国立歴史民俗博物館，2021年３月（査読あり）
福岡　万里子・日高　薫・澤田和人「スミソニアン研究機構所蔵の幕末日本関係コレクション」『国立歴史民俗博物館研究報告』228，pp.101-165，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日（査読あり）

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
Bettina Zorn・Hidaka Kaori（共編著）展示図録『Japan zur Meiji-Zeit ― Die Sammlung Heinrich von Siebold（Japan in the Meiji era: The collection of Heinrich von Siebold）』272頁，Weltmuseum Wien，オーストリア，2020年８月
分担執筆「Musikinstrumente」pp.84-87,「Die Kultur der Lackkunst und ihre Diversität 」pp.66-69，資料解説　図版番号12・14・28・29・30・31・32・36・38・51・52・53・54・55・56・57・58・59・60・61・62・63・64・78，p.114・115・118・119・150-159・166・167・170・171・198-225・252・253
国立歴史民俗博物館（編）『Japan in the Meiji Era: The Collection of Heinrich von Siebold（Essay Part）』64頁，国立歴史民俗博物館，2020年10月８日
「Instruments Collected by Heinrich von Siebold at Weltmuseum Wien」pp.62-64
「Sharing the Diversity of Lacquer Culture: Pieces Collected by Heinrich von Siebold at Weltmuseum Wien」pp.47-49
国立歴史民俗博物館（編）『明治の日本―ハインリッヒ・フォン・シーボルトの収集品から（論考編）』59頁，国立歴史民俗博物館，2020年10月8日
「ウィーン世界博物館所蔵，ハインリッヒ・コレクションの楽器について」pp.57-59
「漆文化の多様性を伝える　―ウィーン世界博物館所蔵，ハインリッヒ収集の漆工品―」pp.44-46
シーボルト父子関係資料データベース（更新）

5　学会・外部研究会発表
「開催趣旨」国際シンポジウム「海外で《日本》を展示すること　海外のコンテクストと日本のコンテクスト」，

オンライン，2021年３月29日

７　その他

「共同研究の経過と概要　基盤研究『学際的研究による漆文化史の新構築』」『国立歴史民俗博物館研究報告』225，pp.1-10，国立歴史民俗博物館，2021年３月

日高　薫・福岡　万里子「国際共同研究のいま　シーボルト父子と一五〇年前の日本」『REKIHAKU』1，pp.44-49，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日

「海を渡った漆器Ⅲ―輸出漆器の技法」友の会ニュース，国立歴史民俗博物館，2020年12月15日

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況

③　機構

人間文化研究機構基幹研究プロジェクト 日本関連在外資料調査・活用事業

「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用―日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築―」（2016年度～）研究代表者

２　外部資金による研究

科学研究費補助金･基盤研究（B）（一般）「17～19世紀の在外日本コレクション形成に関する基礎的研究」（2017～2020年度）研究代表者

４　主な展示・資料活動

国際連携展示「Collecting Japan. Philipp Franz von Siebolds Vision vom Fernen Osten」（邦題：「日本を集める―シーボルトが紹介した遠い東の国」），ミュンヘン五大陸博物館，2019年10月11日～2020 年９月13日，展示代表

国際連携展示「Japan zur Meiji-Zeit. Die Sammlung Heinrich von Siebold」（邦題：「明治の日本―ハインリッヒ・フォン・シーボルトの収集品から」），ウィーン世界博物館，2020年２月13日～８月11日，展示代表

総合展示第３室「ものから見る近世」特集展示「海を渡った漆器Ⅲ―輸出漆器の技法」展示代表

三　社会活動等

１　館外における各種委員

漆工史学会理事，千葉市美術品等収集審査委員，千葉県伝統工芸品産業振興協議会委員，静岡県富士山世界遺産センター専門委員，文化庁文化審議会文化財分科会第一専門調査会専門委員（工芸品部門）

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告

新型コロナウイルス感染拡大のため，予定していた長崎髷甲細工および漆工に関する調査（昨年度からの継続研究）はおこなえなかったため，関東における地場産業としての人形制作，家具製作，近代染織技術等に関する資料調査および制作工程・要具に関する情報収集をおこなった。

また，南蛮漆器の技法および海外輸出による技術伝播に関する研究を進めた。

４　その他

研究代表者をつとめるネットワーク型基幹研究プロジェクト日本関連在外資料調査研究・活用「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用―日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築―」および科学研究費補助金・基盤研究（B）（一般）「17～19世紀の在外日本コレクション形成に関する基礎的研究」については，それぞれのページを参照されたい。

福岡　万里子　FUKUOKA Mariko，准教授（2014.4～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2014.10～）

【学歴】東京大学教養学部（2003年３月卒業）東京大学大学院総合文化研究科（修士）（2005年３月修了）東京大学大学院総合文化研究科（博士）（2011年２月修了）【職歴】日本学術振興会特別研究員DC２（2007-09），日本学術振興会特別研究員PD（2011-14），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2014-），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2014-）

【学位】博士（学術）（東京大学）（2011年取得）【専門分野】19世紀日本外交史，東アジア国際関係史【主な研究テーマ】19世紀日本・東アジアをめぐる外交史・国際関係史，タウンゼント・ハリスの伝記的研究，19世紀アジアで活動したドイツ・スイス系外交官及び商人に関する研究【所属学会】史学会，日本国際政治学会，明治維新史学会，洋学史学会，日本ドイツ学会【研究目的・研究状況】近世近代転換期の日本・東アジアを取り巻く国際関係の変動過程を，マルチアーカイヴァルな手法を基に，東アジア比較・世界史の視点から考察していければと考えている。現在ハリスの伝記をまとめるべく準備中。

●主要業績

1．【単著】福岡万里子『プロイセン東アジア遠征と幕末外交』448頁，東京大学出版会，2013年３月
2．【論文】福岡万里子「ドイツ公使から見た戊辰戦争―蝦夷地と内戦の行方をめぐるブラントの思惑」（奈倉哲三・保谷徹・箱石大編『戊辰戦争の新視点（上）世界・政治』吉川弘文館，2018年１月，pp.61-81）
3．【論文】Mariko Fukuoka, “Prussia or North Germany? The Image of “Germany” during the Prusso- Japanese Treaty Negotiations in 1860-1861.” In : Sven Saaler, Kudō Akira, Tajima Nobuo（eds.），*Mutual Perceptions and Images in Japanese German Relations, 1860-2010*. Brill’s Japanese Studies Library Nr.59, Leiden : Brill, June 2017, pp.65-88
4．【論文】Mariko Fukuoka, “German Merchants in the Indian Ocean World : From Early Modern Paralysis to Modern Animation.” In : Angela Schottenhammer（ed.），*Early Global Interconnectivity across the Indian Ocean World, vol.I : Commercial Structures and Exchanges*. Palgrave Mcmillan, February 2019, pp.259-292
5．【調査研究活動報告】福岡万里子・日高薫・澤田和人「スミソニアン研究機構所蔵の幕末日本関係コレクション―ペリー・ハリス・遣米使節団」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第228集，2021年３月，pp.101-165）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書

日高　薫・福岡　万里子「シーボルト父子と150年前の日本」共編著『REKIHAKU』１，pp.44-49，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日

福岡万里子「ハリスの素顔―対日交渉を成功させた米国外交官の苦い体験」共編著『REKIHAKU』２，pp.30-36，国立歴史民俗博物館，2021年２月26日

2　論文

福岡　万里子・日高　薫・澤田　和人「スミソニアン研究機構所蔵の幕末日本関係コレクション―ペリー・ハリス・遣米使節団」『国立歴史民俗博物館研究報告』第228集（調査研究活動報告），pp.101-165，国立歴史民俗博物館，2021年３月（査読有）

5　学会・外部研究会発表

「日独関係史（外交史）研究の現在と課題」史学会　日本近世史部会シンポジウム「幕末維新外交研究の成果と課題」，オンライン，2020年11月８日

7　その他

福岡万里子「横山百合子先生を送る」『国立歴史民俗博物館研究報告』第228集，pp.189-192，国立歴史民俗博物館，2021年３月

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

①　歴博

歴博基盤研究「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」（研究代表者：樋口雄彦）共同研究員，2018～2020年度

- 口頭発表「幕末・明治初期，日本の地理情報をめぐる「学び」の相互作用」2020年12月研究会，オンライン，2020年12月14日

歴博基盤研究「番方旗本家に関する総合的研究―大番士・儒者杉原家文書を中心に―」（研究代表者：三野行徳）副代表

- 口頭発表「儒学者杉原平助関係史料中の外交関係文書の背景について」2021年３月研究会，オンライン，2021年３月21日

③　機構
機構基幹研究プロジェクト「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用―日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築―」（研究代表者：日高薫）共同研究員
- 口頭発表「万延元（1860）年遣米使節団が見せようとした「日本」」機構機関研究プロジェクト「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用」主催国際シンポジウム「Exhibiting "Japan" Overseas　海外で《日本》を展示すること―海外のコンテクストと日本のコンテクスト」，オンライン，2021年３月29日

２　外部資金による研究
基盤研究（C）「日本開国史の再構築―「開国のかたち」をめぐる国際的相克の解明」（研究代表者　福岡万里子）2020～2023年度
基盤研究（B）「明治政治外交史の完成を目指して：極東の国際関係と薩長交代」（研究代表者：五百旗頭薫）2020～2023年度
基盤研究（B）「17～19世紀の在外日本コレクション形成に関する基礎的研究」（研究代表者　日高薫）2017～2020年度：研究分担者

３　国際交流事業
・国際交流協定先のルツェルン応用科学芸術大学アート・デザイン学部（スイス）教授アレクシス・シュヴァルツェンバッハ氏と英語による共著論文の刊行準備（生糸貿易商社シーベル・ブレンワルト社の幕末明治初期の貿易活動について）
- Mariko Fukuoka and Alexis Schwarzenbach, Between Trade and Diplomacy: The Commercial Activities of the Swiss Silk Merchants Siber & Brennwald in late Edo and early Mejij Japan. In: Robert Fletcher and Robert Hellyer（eds.），Documenting Westerners in Nineteenth-Century China and Japan, London: Bloomsbury, forthcoming.

４　主な展示・資料活動
総合展示第５室・第６室リニューアル委員

５　教育
総研大大学院生・間瀬久美子氏の博士論文「近世朝廷の権威と神社・民衆」の学位審査主査（2021年１月15日）

三　社会活動等

１　館外における各種委員
横浜開港資料館ブレンワルド・ダイアリー翻訳プロジェクト委員，東京大学史料編纂所日蘭交渉史研究会メンバー

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告
令和２年度の研究・調査プロジェクト経費は，研究課題に関する文献や研究遂行上必要なパソコン備品の購入，及び研究遂行上不可欠な有料データベースへの登録料などのために支出した。

藤尾　慎一郎　FUJIO Shin'ichiro　教授（2008.11～）

併任：総合研究大学院大学日本歴史研究専攻教授（2009～）　生年：1959

【学歴】広島大学文学部卒（1981），九州大学大学院修士課程修了（1983），九州大学大学院博士課程後期単位取得退学（1986）
【職歴】九州大学文学部助手（1986），国立歴史民俗博物館考古研究部助手（1988），同助教授（1999），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2003），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2009）【役職】研究推進センター長併任（2011～2012），副館長・研究総主幹併任（2013～2016）【学位】博士（文学）（広島大学文学部2002）【専門分野】日本考古学【主な研究テーマ】弥生文化，鉄，農耕のはじまり，年代研究【所属学会】日本考古学協会，考古学研究会，九州考古学会，たたら研究会【受賞歴】なし

●主要業績

1．【単著】『弥生文化像の新構築』275頁，東京：吉川弘文館，2013年５月
2．【単著】『弥生時代の歴史』250頁，講談社現代新書2330，東京：講談社，2015年８月
3．【編著】設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦『弥生文化誕生』弥生時代の考古学2，226頁，2009年１月
4．【原著論文】「弥生文化の輪郭」（『開館30周年記念論文集１』国立歴史民俗博物館研究報告第178集，pp.85-120，2013年３月）（査読有）
5．【編著】『弥生ってなに?!』2014年度歴博企画展示図録，128頁，2014年７月15日

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書

藤尾・松木武彦編著『ここが変わる！日本の考古学』 p 193，吉川弘文館，2021.4.1，第４刷

2　論文

FUJIO. S. Early Grain Cultivation and Starting Processes in the Japanese Archipelago. *Quaternary*, 4-3, pp.1-15（査読有），USA

小林謙一・藤尾慎一郎・松木武彦「先史時代（縄文・弥生・古墳）の年代と時代区分 三　弥生時代の年代」中塚武他編『先史・古代の気候と社会変化　気候変動から読みなおす古代史３』pp.45-50，臨川書店，2020年９月30日（査読なし）

藤尾慎一郎「水田稲作の伝播―人々の移動と気候変動―弥生早期～中期末」中塚武他編『先史・古代の気候と社会変化　気候変動から読みなおす古代史３』pp.67-97，臨川書店，2020年９月30日（査読なし）

藤尾慎一郎「気候変動と水田稲作のはじまり」中塚武他編『先史・古代の気候と社会変化　気候変動から読みなおす古代史１』pp.73-79，臨川書店，2021年１月30日（査読なし）

3　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など

藤尾慎一郎・木下尚子・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一・神澤秀明・角田恒雄・竹中正巳「九州南部～奄美群島出土人骨の年代学的調査と DNA分析―新学術領域「ヤポネシアゲノム」」『鹿児島考古』50，pp.37-41，鹿児島考古学会，2021年３月（査読有）

藤尾慎一郎・木下尚子・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」2019年度の調査１―」『国立歴史民俗博物館研究報告』228，pp.247-265，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日（査読有）

藤尾慎一郎・坂本稔・瀧上舞「愛知県清須市朝日遺跡出土弥生人骨の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』228，pp.267-275，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日（査読有）

藤尾慎一郎･坂本稔･瀧上舞「佐賀県唐津市大友遺跡出土人骨の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』228，pp.375-384，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日（査読有）

瀧上舞・坂本稔・藤尾「福岡市博多区博多遺跡群第203次調査出土弥生中期人骨の年代学的調査につ いて」『博多170―博多遺跡群第203次調査報告―』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1405集，pp.316-332，2021年３月31日（査読なし）

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発

総合展示第１展示室「水田稲作のはじまり」西のまつり　デジタルコンテンツ

5　学会・外部研究会発表

藤尾慎一郎・木下尚子・清家章・濵田竜彦・坂本稔・瀧川舞・篠田謙一「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明―2019年度活動報告―」第86回日本考古学協会総会研究発表要旨，pp.24-25，2020年５月17日，コロナ禍のため誌上発表のみ。

藤尾慎一郎・坂本稔・瀧上舞・篠田謙一・神澤秀明・角田恒雄・宮本一夫「佐賀県大友遺跡８号支石墓出土人骨のDNA調査」令和２年度九州考古学会総会研究発表，2020年11月28日，オンライン発表

藤尾慎一郎「炭素14年代測定によって明らかになった縄文・弥生時代の歴史」2020年度　第29回放射線利用総合シンポジウム，2021年度１月18日，大阪，対面＋オンライン

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

②　他の機関

国立民族学博物館・五木村共催「佐々木高明の見た焼畑―五木村から世界へ―」関連企画
公開セミナー「なぜ，いま，焼畑なのか」第３回「焼畑は，いつ，どのようにはじまったのか？―稲作以前の農民像を探る―」2020.10.25，熊本県五木村

③　機構
ネットワーク型基幹研究プロジェクト 地域研究推進事業 北東アジア地域研究（国立民族学博物館拠点）

２　外部資金による研究
日本学術振興会平成30年度科学研究費補助金新学術領域「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」研究代表者，2018～2022年度
日本学術振興会科学研究費基盤研究Ｓ「年輪酸素同位体比を用いた日本列島における先史暦年代体系の再構築と気候変動影響調査」研究分担者，（研究代表者　中塚武）2017～2021年度

３　国際交流事業
国立釜山大学校博物館学術交流（研究代表者　藤尾慎一郎）
国立ソウル大学校学術交流（研究代表者　藤尾慎一郎）

４　主な展示・資料活動
総合展示第１室「先史・古代」解説ビデオ「環壕集落」「弥生のまつり」
資料調査研究プロジェクト代表「青森県槻ノ木遺跡出土縄文晩期資料の整理」

三　社会活動等

１　館外における各種委員
考古学研究会全国委員，たたら研究会関東委員，日本学術会議連携会員（史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会）

２　講演・カルチャーセンターなど
「考古学・DNA・言語学からみた最新の研究成果」オンライン「日本列島人の起源と歴史―考古学・ＤＮＡ・言語学からのアプローチー」スズケン市民講座・オンライン教養シリーズ，2020年４月
「弥生人骨のゲノム研究が意味すること」オンライン「日本列島人の起源と歴史―考古学・ＤＮＡ・言語学からのアプローチー」スズケン市民講座・オンライン教養シリーズ，2020年７月
「500年古くなる論拠―弥生時代の実年代―」「水田稲作の実態」「縄文人と弥生人」「戦う縄文人」
講座『弥生時代　それはどのような時代だったのか』令和アカデミー倶楽部，2020年10月24日・11月12日・12月13日・2021年３月13日
「戦い・格差・環境汚染―すべては弥生時代に始まった」『東アジアの古代文化』2020年12月５日，池袋

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告
昨年９月にサンプリングを行った韓国慶尚北道完山洞古墳群出土人骨（５～７世紀）の年代測定結果が出たが，数点，近現代の骨が見られた。発掘現場での取り上げの際のコンタミは考えにくいが，近現代の骨はDNAの遺りも非常によいことから時代が新しいこととつじつまが合う。したがって三国時代の年代が出た３点のみ，報告書用のレポートを作成し，韓国のウリ文化財研究院に提出した。

４　その他
1989～90年にかけて歴博の特定研究で発掘調査が行われた千葉県成田市荒海貝塚の発掘調査報告を，外部の関係者のご尽力により，30年ぶりに『国立歴史民俗博物館研究報告』第227集として刊行することができた。また鹿児島県十島村宝島大池遺跡Ｃ地点のレポートも発掘担当者により歴博研究報告第228集に報告できた。あとは旧考古研究部時代の発掘調査で本報告が未完の宝島大池遺跡Ａ地点を，2023年度までに刊行する予定で作業を始めたところである。

松尾　恒一　MATSUO Koichi　教授（2010～）

生年：1963

【学歴】國學院大學文学部日本文学科（1985年卒業），國學院大學大学院文学研究科博士前期課程（1987年修了），國學院大學大学院文学研究科博士後期課程（1995年修了）

【職歴】國學院大學文学部専任講師（1996），大倉山精神文化研究所非常勤研究員（1997），國學院大學文学部助教授（1999），同大學日本文化研究所兼担助教授（1999），国立歴史民俗博物館民俗研究部助教授（2002），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2010），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2010～2019）
【学位】文学博士（國學院大學）【専門分野】民俗宗教，儀礼・芸能史【主な研究テーマ】民俗宗教・民間信仰，権門寺院の儀礼・芸能，寺院に奉仕する職能者の研究，東アジアにおける宗教・信仰の交流史と民俗【所属学会】日本民俗学会，民俗芸能学会，芸能史研究会，儀礼文化学会，説話・伝承学会【研究目的・研究状況】中国大陸・台湾・アメリカ等，海外の民俗・歴史学研究者・研究機関とも交流を推進しつつ，フィールドワークと歴史資料を中心とする調査，研究を進めている。

●主要業績

1．【著書】『日本の民俗宗教』288頁，筑摩書房，2019年11月
2．【著書】『物部の民俗といざなぎ流』250頁，吉川弘文館，2011年６月
3．【著書】『儀礼から芸能へ　狂騒・憑依・道化』237頁，角川学芸出版，2011年９月
4．【著書】『延年の芸能史的研究』（学位論文），612頁，岩田書院，1997年２月
5．【編著】『東アジア世界の民俗　変容する社会・生活・文化』（『アジア遊学』215，272頁，勉誠出版），2017年10月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
分担執筆「媽祖・観音・マリア―近世長崎における清国海商とかくれキリシタン―」吉田一彦編『神仏融合の東アジア』pp.411-452，名古屋大学出版会，2021年２月（査読有）
「民俗から問い直す日本の宗教・信仰―世界のなかの日本，日本のなかの世界」，吉田一彦・上島享編『日本宗教史１　日本宗教史を問い直す』pp.299-326，吉川弘文館，2020年８月24日
「年迎えと祖霊祭祀―古代からの伝承，歴史と現代」，ハルオ・シラネ編『東アジア文化講座４　東アジアの自然観「東アジアの環境と風俗」』pp.359-370，文学通信，2021年３月12日
「南シナ海の海盗―張保仔と女海賊鄭一嫂」，染谷友幸編『東アジア文化講座１　はじめに交流ありき「東アジアの文学と異文化交流」』pp.349-353，文学通信，2021年３月12日

2　論文
「船と女神―ヨーロッパ大航海時代の媽祖・観音・マリア」（年刊『藝能』27号，pp.72-92，藝能学会，2021年３月）
松尾　恒一・阮　将軍「「民具的研究与展示」（民具研究と展示），中国民間文芸協会編『民藝 Folk Art』，17-5，pp.79-83，中華人民共和国，2020年９月（査読有）
「明代，南シナ海の海盗の活動と記憶―日本・中国大陸・東南アジアの宗教史跡をめぐって」，荒見泰史編「仏教の東漸と西漸」『アジア遊学』251，pp.69-95，勉誠出版，2020年８月（査読有）
「清代前期，媽祖信仰・祭祀の日本伝播とその伝承―ヨーロッパの東アジア進出を視野に入れて」，荒見泰史編「仏教の東漸と西漸」『アジア遊学』251，pp.226-244，勉誠出版，2020年８月（査読有）

3　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
「開展日本藏中日貿易相関民俗資料的收集与研究工作」，王霄冰教授代表“海外藏珍稀中国民俗文献与文物资料整理，研究暨数据库建设”（編号：16ZDA163）『中山工作簡報』８号，pp.4-5，中山大学（中国）2021年１月

5　学会・外部研究会発表
「日本的二十四节气－自然中孕育的生活・信仰・艺术―」（日本の二十四節気―自然の中の暮らしの中で育まれた生活・信仰・芸術―），『二十四節気国際学術研討会』主催，中国非物质文化遗产保护中心，共催・中国民俗学会・中国農業歴史学会，中国農業博物館（北京），2020年９月22日
「日本民具・民艺的发现与国立民俗博物馆的设立」（日本における民具・民藝の発見と国立民俗博物館の設立），華東師範大学主催『2020年非物質文化遺産論壇―民俗博物馆―物象，景観与文化伝承学術研討会暨第八届海上

風都市民俗学論壇』（上海），2020年10月16日

7　その他

「稲作・狩猟の祈願・祈禱としての神楽」『九州の神楽 シンポジウム2020』宮崎県，2020年12月４日

「【悪疫退散】長崎歴史文化博物館蔵「大天使ミカエル像」解説」（年刊『藝能』27号，pp.5，藝能学会，2021年３月）

「【船と女性】アムステルダム国立美術館蔵「清代ジャンク船と女神媽祖」解説」（年刊『藝能』27号，pp.3，藝能学会，2021年３月）

二　主な研究教育活動

2　外部資金による研究

科研基盤Ｃ「日本仏教と東南アジア仏教との比較研究―政治と権力の視点を中心として」（研究代表者，2019～2021年度）

共同研究会口頭発表「国家儀礼としての放生会・殺生禁断」京都大学，2021年３月14日

科研基盤Ｂ「９，10世紀敦煌仏教，道教，民間信仰融合資料の総合的研究」（広島大学　荒見泰史教授代表）研究分担者，2016～2020年度

“研究集会：敦煌と東アジアの信仰”口頭発表「孤魂和面然祭祀的历史性展开―聚焦宗教仪礼的传播与面然像的变化（孤魂と面然祭祀の歴史的展開―宗教儀礼の伝播と面然像の変化に注目して）大谷大学，2020年８月１日，中国語

中国中山大学国家社会科学基金項目「海外藏珍稀中国民俗文物与文献整理研究暨数据库建设（在外中国民俗関係資料の整理・研究とデータベースの構築）」（研究代表者：中国中山大学　王霄冰教授）研究分担者，2016～2021年度

科研「神楽の中世的展開とその変容」（代表：斎藤英喜）

研究会口頭発表「神楽はどのようにして男性宗教者による仮面の祈禱・芸能になったか―古代仏教儀礼の中世的展開としての神楽の可能性を考える―」佛教大学，2020年11月８日

5　教育

千葉大学大学院客員教授（人工物デザイン史論）

國學院大學非常勤講師（伝承文学演習）・國學院大學大学院非常勤講師（儀礼文化論）

上智大学非常勤講師（フィールドワーク入門）

法政大学沖縄文化研究所研究員

三　社会活動等

1　館外における各種委員

儀礼文化学会専門委員，國學院大學國文學會役員，国立劇場民俗芸能・琉球舞踊公演専門委員（代表）

2　講演・カルチャーセンターなど

レクチャー「ひろしま神楽の受容過程Ⅱ：神楽の始まりと比婆荒神神楽」，さくらぴあ平和の舞＜神楽の学校＞特別公演，ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト廿日市市教育委員会，2020年12月６日

3　マスコミ

NHK「疫病退散!にっぽんの祭りの知られざる力」制作協力・出演，2020年８月９日放映

NHK「闇と炎の秘儀 お水取り～奈良・東大寺修二会～」制作協力，BSプレミアム，2021年３月13日放映

4　社会連携

②　共同研究

三菱財団研究助成「日本列島の山村における環境・生業と，信仰・民俗宗教の研究―中国・四国地方の山村を中心に」，研究代表者，2020年～2021年

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告

国内の仏教，神道，キリスト教関係の民俗調査と，歴史文献の収集，解読により，下記の口頭発表を行い，学術論文を発表した。

〔論文〕

・単著「観音・媽祖・マリア―近世，長崎における清国海商とかくれキリシタン―」（吉田一彦編『神仏融合

の東アジア』，名古屋大学出版会，2021年２月）（査読有）
・単著「仮面の呪術，祭祀，芸能としての神楽の生成―東アジアの視角より中世の神楽を考える」（松尾恒一他編『神楽の中世』，三弥井書店，2021年１月）（査読有）
・単著「稲作・狩猟の祈願・祈禱としての神楽」（『九州の神楽 シンポジウム2020』，pp.1-7，宮崎県，2020年12月）（査読無）
・共著，松尾恒一･阮将軍「民具的研究与展示」（中国民間文芸家協会編『民藝 Folk Art』第17期５号,《民艺》雑志社，pp.79-83，2020年９月）（査読有）。
・単著「明代，南シナ海の海盗の活動と記憶―日本・中国大陸・東南アジアの宗教史跡をめぐって」（荒見泰史編「仏教の東漸と西漸」『アジア遊学』251号，pp.69-95，勉誠出版，2020年８月）（査読無）。
・単著「清代前期，媽祖信仰・祭祀の日本伝播とその伝承―ヨーロッパの東アジア進出を視野に入れて」（荒見泰史編「仏教の東漸と西漸」『アジア遊学』251号，pp.226-244，勉誠出版，2020年８月）（査読無）。
〔口頭発表〕
・単独（招待）「神楽はどのようにして男性宗教者による仮面の祈禱・芸能になったか―古代仏教儀礼の中世的展開としての神楽の可能性を考える―」（科研「神楽の中世的展開とその変容」（19K00092，代表：斎藤英喜）研究会，2020年11月８日）
・単独（招待）「日本的二十四節気―自然中孕育的生活・信仰・芸術―」（「日本の二十四節気―自然の中の暮らしの中で育まれた生活・信仰・芸術―」），2020年９月22日，中国農業博物館主催，中国非物质文化遺産保護中心・中国民俗学会・中国農業歴史学会共催『二十四節気国際学術研討会』（北京）
・松尾恒一，基調講演（招待）「日本民具・民艺的发现与国立民俗博物馆的设立」（「日本における民具・民藝の発見と国立民俗博物館の設立」），2020年10月16日，華東師範大学主催『2020年非物質文化遺産論壇―民俗博物馆―物象，景观与文化伝承学術研討会暨第八届海上風都市民俗学論壇』（上海）
・単独「孤魂と面然祭祀の歴史的展開―宗教儀礼の伝播と面然像の変化に注目して」，科研「９，10世紀敦煌仏教，道教，民間信仰融合資料の総合的研究」（代表：広島大学荒見泰史教授代表），研究集会”敦煌と東アジアの信仰”，大阪大谷大学ハルカスキャンパス，2020年８月１日

４　その他
日本列島のコロナ禍が２年目に入り収束しない状況下で，古代以来の日本列島の開発―農地の開墾や，列島各地での城下町，宿場町など都市の形成や，物流の高速化や海外を含む人々の移動による不特定多数の人々の交流・接触の増大，人口増等々，自然・社会環境と疫病の頻発，その対処の歴史について強い関心を向けるようになった。疫病の要因として，前近代においては，人間や動物・植物の霊が病気の原因として考えられたが，その対処としての宗教儀礼，呪術や，動物殺生の禁忌・戒律等，社会と宗教・信仰との関わりについて具体的に考察を進めてゆきたい。

松木　武彦　MATSUGI Takehiko　教授（2014～）

生年：1961

【学歴】大阪大学文学部（国史学）（1984年卒業），大阪大学大学院文学研究科修士課程修了（1987），大阪大学大学院文学研究科博士課程（考古学）（1990年単位取得退学）【職歴】岡山大学助手（1990～），岡山大学准教授（助教授）（1995～）岡山大学教授（2011～）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2014～）【学位】博士（文学）（大阪大学2005年３月）【専門分野】日本考古学【主な研究テーマ】日本列島の古墳研究，戦争の考古学的研究，考古学による国家形成論，進化・認知科学を用いた考古学理論の再構築，ブリテン島を中心とするヨーロッパと日本列島の先史時代に関する比較考古学的研究【所属学会】日本考古学協会，考古学研究会【研究目的・研究状況】日本列島の先史時代を，国家形成理論，進化・認知科学，比較考古学，人口および古気候の復元などをもとに，人類史の中に位置づける試みを進めている。

●主要業績

１．【著書】『日本列島の戦争と初期国家形成』363頁，東京大学出版会，2007年１月
２．【著書】『列島創世記』全集日本の歴史１―旧石器・縄文・弥生―，366頁，小学館，2007年11月
３．【著書】『進化考古学の大冒険』255頁，新潮社，2009年12月
４．【著書】『美の考古学』220頁，新潮社，2016年１月

５．【著書】『縄文とケルト』247頁，筑摩書房，2017年５月10日

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

２　論文

「グローバル・ヒストリーと日本考古学 弥生・古墳時代の世界史的位置」『季刊考古学』151，pp.101-105，雄山閣，2020年５月１日

「吉備と出雲の前方後方墳」『柳本照男さん古稀記念論集―忘年之交の考古学―』pp.65-74，柳本照男さん古稀記念事業会，2020年12月

「「内なる戦争」：表象でとらえる考古学」『科学』91-2，pp.182-185，岩波書店，2021年２月

「Warfare, art, and monuments in the process of social complexity within the prehistoric Japanese archipelago」Landscape, Monuments, Arts, and Rituals: Out of Eurasia in Bio-Cultural Perspectives, pp.112-122，新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」，2021年３月31日

７　その他

「日本列島の国家形成論」『気候変動から読みなおす日本史３ 先史・古代の気候と社会変化』pp.149-153，臨川書店，2020年９月30日

「時代全体の概観」『気候変動から読みなおす日本史１ 新しい気候観と日本史の新たな可能性』pp.55-61，臨川書店，2021年１月30日

「集落立地の変動と社会構造」『気候変動から読みなおす日本史１ 新しい気候観と日本史の新たな可能性』pp.91-95，臨川書店，2021年１月30日

「岡山平野における居住高度の通時的推移と気候変動―弥生・古墳時代を対象に―」『気候変動から読みなおす日本史３ 先史・古代の気候と社会変化』pp.131-48，臨川書店，2020年９月30日（近藤康久と共著）

「先史時代（縄文・弥生・古墳時代）の年代と時代区分」『気候変動から読みなおす日本史３ 先史・古代の気候と社会変化』pp.35-59，臨川書店，2020年９月30日

書評「谷澤亜里 著『玉からみた古墳時代の開始と社会変革』」『考古学研究』67-2，pp.61-64，考古学研究会，2020年９月30日

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況

①　歴博

基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化の形成」研究代表者，2019年度～

２　外部資金による研究

新学術領域研究「集団の複合化と戦争」研究代表者，2019年度～2023年度

新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学（総括班）」2019～2023年度

５　教育

駒澤大学非常勤講師

三　社会活動等

１　館外における各種委員

和歌山県文化財審議委員

和歌山県立紀伊風土記の丘協議会委員

３　マスコミ

NHK総合　「ミステリアス古墳スペシャル」（初回放映：2021年９月22日）制作関与・監修・出演

NHK総合　英雄たちの選択スペシャル「古代人のこころを発掘せよ!!」（初回放映：2021年１月３日）制作関与・監修・出演

NHK教育　ETV特集「誕生 ヤマト王権～いま前方後円墳が語り出す～」（初回放映：2021年３月27日）制作関与・監修・出演

「書評 宇宙考古学の冒険　サラ・パーカック著」日本経済新聞，2020年11月７日

「書評 顔の考古学　設楽博己著」日本経済新聞，2021年２月20日

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告

日本列島の古墳を含めた先史モニュメントおよびそれと関連する国内外の調査は新型コロナウィルスの蔓延によりできなかったが，主として図書の購入によるデータ収集を行い，最新の国際的歴史理論を用いて分析・考察を実施し，その成果を４本の論考にまとめた。

松田　睦彦　MATSUDA Mutsuhiko　准教授（2014.4～）

生年：1977

【学歴】早稲田大学第一文学部文学科日本文学専修（1999年卒業），成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程前期（2002年修了），成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程後期（2007年修了）【職歴】成城大学民俗学研究所研究員（2007），成城大学非常勤講師（2008），荒川区教育委員会事務局社会教育課文学館調査担当学芸員（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2009），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2014），ソウル大学校社会科学研究院比較文化研究所客員研究員（2016～2017），韓国国立民俗博物館客員研究者（2017），神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員（2019～2020）【学位】博士（文学）（成城大学）（2007年取得）【専門分野】民俗学【主な研究テーマ】生業の技術および生業をとりまく信仰・儀礼・社会組織等の生活文化に関する総合的研究【所属学会】日本民俗学会・日本民具学会・日本文化人類学会【研究目的・研究状況】さまざまな生業の技術や，信仰・儀礼をはじめとする生業にともなう生活文化について総合的視点から明らかにする。また，生業にともなう人の移動に注目し，定住を前提とする従来の民俗学的研究に対し，移動の日常性を前提とする研究を提唱している。現在は日本と韓国との海をめぐる生活文化の比較研究も行っている。

●主要業績

１．【単著】『人の移動の民俗学―タビ〈旅〉から見る生業と故郷』311頁，慶友社，2010年
２．【編著】『人の移動とその動態に関する民俗学的研究』（『国立歴史民俗博物館研究報告』第199集），261頁，2015年
３．【共編著】『柳田國男と考古学―なぜ柳田は考古資料を収集したのか』158頁，新泉社，2016年
４．【編著】『徳川林政史研究所所蔵「駿州・豆州・相州　御石場絵図」の研究』（2014～2016年度　科学研究費補助金若手研究（B）（課題番号2670299）「安山岩に関する歴史・民俗学的研究」成果報告書），175頁，2017年
５．【映像】民俗研究映像『石を切る―花崗岩採掘の伝統と革新』DVD，200分，国立歴史民俗博物館，2012年度

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

１　著書

編著『国立歴史民俗博物館研究報告221［共同研究］海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較文化研究』141頁，国立歴史民俗博物館，2020年10月20日

２　論文

「明治16年「貿易規則」以前の朝鮮海出漁―前史としての対馬出漁とその意味」『国立歴史民俗博物館研究報告』221，pp.11-24，国立歴史民俗博物館，2020年10月20日（査読有）

４　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発

「Die von Heinrich von Siebold hinterlassenen Fischereiutensilien」「Angelmontagen」「Angelrute inkl. Montage, Kescher, Harpunenspitzen」「Laufgewichtswaage」展示図録『Japan zur Meiji-Zeit Die Sammlung Heinrich von Siebold』Welt Museum Wien，オーストリア，ドイツ語，2020年

「八重山のツカサとオン」展示図録『海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世』国立歴史民俗博物館，2021年３月16日

５　学会・外部研究会発表

「石丁場―技術の進歩と景観の変化」第24回常民文化研究講座　景観の総合資料学―漁場図を読む２，神奈川大学，2020年12月12日

７　その他

「名もなき人々の小さな日朝関係史―瀬戸内漁民の朝鮮海出漁」『REKIHAKU』国立歴史民俗博物館，2021年２月26日
「朝鮮の軽便鉄道」「瀬戸内少年の朝鮮行旅」『「小さな鉄道」の記憶』七月社，2020年11月16日
「国際企画展示「昆布とミヨク―潮香るくらしの日韓比較文化誌」を終えて」『民具マンスリー』53-7，pp.13-22，神奈川大学日本常民文化研究所，2020年10月10日
「自然」『民俗学の思考法』慶応義塾大学出版会，2021年３月30日
「書評　白水智『中近世山村の生業と社会』」『史学雑誌』130-1，史学会，2021年１月20日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

②　他の機関

神奈川大学日本常民文化研究所基盤共同研究「海域・海村の景観史に関する総合的研究」（研究代表者：安室知〔神奈川大学〕）共同研究員，（2019年度～）

③　機構

総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築（西谷 大）（2016～2021年度）
日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築（主導機関：国立歴史民俗博物館，国立国語研究所）地域における歴史文化研究拠点の構築（小池 淳一）（2016～2021年度）
在外日本資料調査･活用による日本研究と日本文化理解の促進（主導機関:国際日本文化研究センター）ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究･活用―日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築―（日高　薫）（2016～2021年度）

2　外部資金による研究

科学研究費基盤研究Ｂ「朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究―イワシをめぐる韓国の民俗変化」（研究代表者：松田睦彦），2017～2020年度
科学研究費基盤研究A「琉球帝国からみた東アジア海域世界の流動的様態と国家」（研究代表者:村木二郎［国立歴史民俗博物館］），研究分担者，2018～2021年度
科学研究費基盤研究Ｂ「西遷･北遷東国武士の社会的権力化」（研究代表者:田中大喜［国立歴史民俗博物館］），研究分担者，2019～2022年度
科学研究費基盤研究C「ポスト専業化時代における経験知のマネジメントとその限界性―農山漁業の事例から」（研究代表者：石本敏也［聖徳大学］），研究分担者，2019～2021年度

4　主な展示・資料活動

2019年度企画展示「昆布とミヨク―潮香るくらしの日韓比較文化誌」展示プロジェクト代表
2020年度特集展示「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世」展示プロジェクト委員
2021年度企画展示「中世武士団展（仮称）」展示プロジェクト委員
総合展示第５室（近代）展示リニューアル委員

三　社会活動等

1　館外における各種委員

【学会】一般社団法人日本民俗学会 理事，【市史】木更津市史編集部会 委員，【市史】府中市史編さん専門部会 委員【委員】熱海市教育委員会史跡江戸城石垣石丁場跡調査・整備委員会 委員，伊東市江戸城石垣石丁場跡保存活用委員会 委員

2　講演・カルチャーセンターなど

「民俗学から見た石丁場遺跡の魅力」第５回　江戸城石垣石丁場跡セミナー，南熱海マリンホール，2020年９月27日

3　マスコミ

「民俗調査の流儀　１」「民俗調査の流儀　２」「民俗調査の流儀　３」「民俗調査の流儀　４」読売新聞夕刊，読売新聞社，2020年11月17日・11月24日・12月１日・12月８日
「日本と韓国の意外な共通点。塩辛を「調味料」として使う食文化」ハーバー･ビジネス･オンライン，扶桑社，2020年４月28日

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告

予定していた現地調査をおこなうことができなかったため，経費は主に，本プロジェクトに必要な書籍の購入にあてられた。

三上　喜孝　MIKAMI Yoshitaka　教授(2017.11～)，研究推進センター長(2020～)

生年：1969

【学歴】東京大学文学部国史学専修課程卒業(1992年)，東京大学大学院人文科学研究科日本史学修士課程修了(1994)，東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻課程（1998年単位取得退学）【職歴】山形県立米沢女子短期大学講師（2000.4～），山形大学人文学部助教授（2002.9～），同准教授（2007.4～），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2014），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2017.11）【学位】博士（文学）（東京大学文学部2001）【専門分野】日本古代史【主な研究テーマ】東アジア文字文化交流史，古代地域社会史，貨幣史【所属学会】木簡学会，史学会，日本史研究会，正倉院文書研究会，東北史学会，韓国木簡学会ほか

●主要業績

１．【単著】『日本古代の貨幣と社会』261頁，吉川弘文館，2005年７月
２．【単著】『日本古代の文字と地方社会』335頁，吉川弘文館，2013年８月
３．【単著】『落書きに歴史をよむ』232頁，吉川弘文館，2014年４月
４．【論文】「古代の辺要国と四天王法」（『山形大学歴史・地理・人類学論集』５，pp.115-126，2004年３月）
５．【論文】「韓国出土木簡と日本古代木簡―比較研究の可能性をめぐって―」（『韓国古代木簡の世界』pp.286-307，雄山閣，2007年３月）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

１　著書

編著訳：神野志隆光・金沢英之・福田武史・三上喜孝編『新釈全訳日本書紀　第一巻』講談社，2021年３月26日

２　論文

「日本出土の古代木簡―古代地域社会における農業経営と仏教活動―」『木簡と文字』24，pp.347-356，韓国木簡学会，大韓民国，2020年６月（査読有）

「韓国出土木簡にみえる海産物とその加工品」『国立歴史民俗博物館研究報告』221，pp.123-139，国立歴史民俗博物館，2020年10月（査読有）

「古代日本論語木簡の特質―韓半島出土論語木簡の比較を通して―」『木簡と文字』25，pp.173-189，韓国木簡学会，大韓民国，2020年12月（査読有）

「古代史はLGBTを語れるか」『恋する日本史』pp.63-75，吉川弘文館，2021年３月10日（査読有）

「韓国出土の文書木簡　～「牒」木簡と「前白」木簡を中心に～」『国立歴史民俗博物館研究報告』224，pp.149-159，国立歴史民俗博物館，2021年３月（査読有）

「平泉出土文字資料へのアプローチ（１）饗宴と文字」『平泉学研究年報』１，pp.48-67，岩手県教育委員会，2021年３月

「山形市千歳山所在「物部守屋大連之碑」に関する一史料」『山形大学歴史・地理・人類学論集』22，pp.77-83，山形大学，2021年３月

４　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発

「４．耕す　―男女の労働と経営」「高麗の結縁交名」企画展示図録『性差の日本史』，pp.61-66・p.108，国立歴史民俗博物館，2020年10月６日

５　学会・外部研究会発表

「日韓の木簡からみた古代東アジアの医薬文化」韓国・慶北大学校人文学術院HK+事業団 第１回国際学術大会

「古代東アジア文字資料研究の現在と未来―韓国・中国・日本出土木簡資料を中心に―」2020年11月５日

「古代日本における論語木簡の特質　―韓国出土の論語木簡との比較から―」韓国・桂陽山城博物館，慶北大学校HK＋事業団，韓国木簡学会主催国際学術大会「東アジア論語の伝播と桂陽山城」，2020年11月27日
「「百済と新羅の都城の考古学的研究」に対する討論文」東北学院大学アジア流域文化研究所・中国社会科学院考古研究所主催オンライン国際シンポジウム「中国都城考古の最前線　1―漢魏洛陽城・鄴城の考古最新知見および日韓古代都城の発掘と研究―」2020年12月20日
「平泉出土文字資料へのアプローチ（1）饗宴と文字」第1回平泉学フォーラム，一関文化センター，2021年2月7日
「観音信仰，百済から日本へ　―『観世音応験記』を出発点として―」日韓古代比較宗教史国際シンポジウム，東北大学文学研究科，2021年2月28日
「国民学校の「防人の歌」教育と「開戦の日」―戦時下の少女の日記　1941年12月8日条をめぐって―」「近代日本の日記文化と自己表象」第27回研究会，明治学院大学，21年3月6日

7　その他
「報告3　イ・ビョンホ「百済と新羅都城の考古学的研究」へのコメント，アジア流域文化研究，東北学院大学アジア流域文化研究所，2021年3月
「ジェンダー史研究事始」『REKIHAKU』1，pp.26-31，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

①　歴博
「総合資料学の創成と日本歴史に関する研究資源の共同利用基盤構築」（研究代表者：西谷 大）2016～2021年度

③　機構
「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」（研究代表者：小倉慈司）2016～2021年度
「地域における歴史文化研究拠点の構築」（研究代表者：小池淳一）2016～2021年度
「北東アジア地域研究 自然環境と文化・文明の構造」（研究代表者：池谷和信）2016～2021年度

2　外部資金による研究
科学研究費基盤研究（B）「古代日本と朝鮮の金石文にみる東アジア文字文化の地域的展開」研究代表者，2019～2022年度
科学研究費基盤研究（C）「古代の宮中宗教行事に関する日中韓比較研究」（研究代表者：堀裕）研究分担者，2018～2021年度
科学研究費基盤研究（B）「官衙機構の動態からみた古代日本における境域の特質」（研究代表者：林部均）研究分担者，2018～2020年度
科学研究費基盤研究（B）「文書群復元と歴史的景観復元の融合による栄山寺および栄山寺領の総合的研究」（研究代表者：下村周太郎）研究分担者，2020～2023年度
科学研究費基盤研究（B）「格・式研究を踏まえた日本古代社会史像の再構築」（研究代表者：小倉慈司）研究分担者，2020～2022年度
科学研究費基盤研究（C）「『日本書紀』の注釈的研究（研究代表者：金沢英之）研究分担者，2020～2022年度
岩手県受託研究「出土文字資料の集成的研究」（研究代表者：三上喜孝）2020～2024年度）

三　社会活動等

1　館外における各種委員
福島県立博物館収集展示委員会委員（福島県）
国史跡上人壇廃寺跡整備委員会委員（福島県須賀川市）
泉官衙遺跡保存整備指導委員会委員（福島県南相馬市）
秋田城跡環境整備指導委員会委員（秋田県秋田市）
郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会委員（宮城県仙台市）
府中市史編さん専門部会委員（東京都府中市）

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告

新型コロナウィルス感染拡大の影響で県外への調査出張が実現できなかったが，代替措置として，館蔵資料の『聆濤閣集古帖』とその関連資料の実見調査と，関連文献の収集につとめた。研究成果の公開については現在準備中である。

村木　二郎　MURAKI Jiro　准教授（2008.10～）

併任：総研大日本歴史研究専攻准教授（2008～），生年：1971

【学歴】京都大学文学部史学科（考古学専攻）（1995年卒業），京都大学大学院文学研究科歴史文化学専攻考古学専修修士課程（1997年修了），京都大学大学院文学研究科歴史文化学専攻考古学専修博士後期課程（1999年中退）
【職歴】国立歴史民俗博物館考古研究部助手（1999），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教併任（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2008），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008）
【学位】文学修士（京都大学）（1997年取得）【専門分野】日本考古学【主な研究テーマ】日本中世の考古学的研究【所属学会】史学研究会，日本考古学協会【研究目的・研究状況】信仰，都市，生産技術など，考古学の立場から中世史を総合的に研究する。

●主要業績

1．【新・特集展示】『海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―』令和２年度歴博新特集展示，展示代表，2021年
2．【企画展示】『時代を作った技―中世の生産革命―』平成25年度歴博企画展示，展示代表，2013年
3．【研究報告特集号】編著「特集号 中世東アジア海域世界における琉球の動態に関する総合的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第226集，305頁，2021年３月
4．【研究報告特集号】編著「特集号 中世の技術と職人に関する総合的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第210集，272頁，2018年３月
5．【編著】『中世のモノづくり』164頁，朝倉書店，2019年３月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
編著：『国立歴史民俗博物館研究報告特集号・中世東アジア海域における琉球の動態に関する総合的研究』第226集，305頁，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日
分担執筆：教科書『中学歴史 日本と世界』山川出版社，「氷河時代の終わりと縄文文化の誕生」「稲作の広まりと弥生文化」「古墳とヤマト政権」「中国の記録に見る日本列島」pp.28-29，pp.30-31，pp.34-35，pp.32-33，2021年３月５日

2　論文
佐々木健策・小出麻友美・池谷初恵・小野正敏・村木二郎「沖縄県竹富町波照間島ミシュク村跡遺跡の調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第226集，pp.13-42，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日（査読有）
池谷初恵・小野正敏・岩元康成・小出麻友美・佐々木健策・村木二郎「中世琉球における貿易陶磁調査Ⅰ」『国立歴史民俗博物館研究報告』第226集，pp.43-84，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日（査読有）
「先島の集落遺跡からみた琉球の帝国的様相」『国立歴史民俗博物館研究報告』第226集，pp.113-142，国立歴史民俗博物館，2021年３月31日（査読有）

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発
企画展示図録『海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―』122頁，国立歴史民俗博物館，2021年３月16日

7　その他
「中世考古学の方法」『増補改訂新版 日本中世史入門』pp.555-573，勉誠出版，2021年３月１日
「碧い海に引かれた国境線―大航海時代と琉球帝国―」『REKIHAKU』２，pp.44-46，国立歴史民俗博物館，2020年２月26日

「特集展示「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―」紹介」『REKUHAKU』２，pp.86-87，国立歴史民俗博物館，2021年２月26日
「特集展示 海の帝国琉球―八重山･宮古･奄美からみた中世―」『歴博友の会』No.213，歴史民俗博物館振興会，2021年２月５日

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況

②　他の機関

東京大学史料編纂所2020年度一般共同研究「14～17世紀における奄美・琉球関係史料の学際的研究」研究代表者

２　外部資金による研究

科学研究費基盤研究Ａ「琉球帝国からみた東アジア海域世界の流動的様態と国家」（研究代表者：村木二郎）研究代表者，2018～2021年度
科学研究費基盤研究Ｂ「西遷・北遷東国武士の社会的権力化」（研究代表者：田中大喜）研究分担者，2019～2022年度

４　主な展示・資料活動

総合展示第１室「古代国家と列島世界」，第２室「王朝文化」「東国と西国」「大名と一揆」「民衆の生活と文化」「大航海時代のなかの日本」展示プロジェクト委員
2019年度企画展示「昆布とミヨク」展示プロジェクト委員
2020年度新特集展示「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―」展示プロジェクト委員（代表）
2021年度企画展示「中世武士団―地域に生きた武家の領主―」展示プロジェクト委員

５　教育

千葉大学特別研究（文系）Ｄ（留学生プロジェクト）
琉球大学非常勤講師

三　社会活動等

１　館外における各種委員

中世学研究会世話人
日本学術振興会特別研究員等審査会委員
文化庁中世城館・近世城郭遺跡等の保存に関する検討会委員
熱海市史跡江戸城石垣石丁場跡調査・整備委員会委員
伊東市江戸城石垣石丁場跡保存活用委員会委員
岐阜県古代・中世寺院跡総合調査検討委員会委員
印旛郡市文化財センター理事

２　講演・カルチャーセンターなど

「考古学から見た江戸城石垣石丁場跡の価値について」第３回江戸城石垣石丁場跡セミナー，南熱海マリンホール，2020年７月26日
「博物館を楽しむ「国立歴史民俗博物館」」ちとせ橋コミュニティ塾，雑司が谷地域文化創造館，2020年10月７日
「考古学からみた中世人のくらし」「平安～桃山／今につながる日本文化の形成に迫る」，朝日カルチャーセンター千葉教室，2021年１月28日

３　マスコミ

「琉球帝国と八重山・宮古の中世」『しまたてぃ』92，pp.47-51，沖縄しまたて協会，2020年４月

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告

「中世の港と信仰」を念頭に，北陸，近畿，東北の中世遺跡を巡見した。北近江の塩津遺跡は流通の要であるとともに，在地社会の信仰の姿を考えるヒントを数多抱えており，大変示唆的であった。こうした調査成果に多くを学びながら，地域社会からみた中世日本について，引き続き検討していきたい。なお，必要に応じて関連書籍を購入した。

山田　慎也　YAMADA Shinya　教授（2019.7～），広報連携センター長（2020.4～）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2019.7～），生年：1968

【学歴】慶應義塾大学法学部法律学科（1992年卒業），慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程（1994年修了），慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程（1997年単位取得退学）
【職歴】国立民族学博物館講師（COE非常勤研究員）（1997），東京外国語大学非常勤講師（1997），国立歴史民俗博物館民俗研究部助手（1998），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2019.7～），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2019.7～）
【学位】社会学博士（慶應義塾大学）（2000年取得）【専門分野】民俗学・文化人類学【主な研究テーマ】葬制と死生観･儀礼研究【所属学会】日本民俗学会，日本文化人類学会，日本宗教学会，宗教と社会学会，葬送文化学会【研究目的・研究状況】http：//www.rekihaku.ac.jp/kenkyuu/kenkyuusya/yamada/index.html

●主要業績

1．【単著】『現代日本の死と葬儀―葬祭業の展開と死生観の変容』350頁，東京大学出版会，2007年９月
2．【編著】国立歴史民俗博物館･山田慎也･鈴木岩弓編『変容する死の文化―現代東アジアの葬送と墓制』226頁，東京大学出版会，2014年11月
3．【論文】「告別式の平準化と作法書」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第205集，pp.137-166，2017年３月）（査読有）
4．【研究報告特集号：編著】『民俗儀礼の変容に関する資料論的研究』国立歴史民俗博物館研究報告第205集，490頁，2017年３月
5．【資料図録：編著】『ライデン民族学博物館・国立歴史民俗博物館所蔵死絵』，2016年３月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
監修：『由来からわかる 日本と世界の行事図鑑』188頁，スタジオタッククリエイティブ，2020年12月３日
編著：国立歴史民俗博物館・山田慎也・内田順子・橋本雄太編『REKIHAKU』1 されど歴史，112頁，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日

2　論文
Carl B. Becker, Yuzo Taniyama, Megumi Kondo-Arita, Noriko Sasaki, Shinya Yamada, Kayoko Yamamoto「Unexplored Costs of Bereavement Grief in Japan: Patterns of Increased Use of Medical, Pharmaceutical, and Financial Services」『OMEGA - Journal of Death and Dying』83-1，SAGE Publications Inc. pp.142-156，2021年２月１日，英語（査読有）
「近親者なき人の死と社会とのつながりについて」『論文集（令和元年度版）』pp.41-45，冠婚葬祭総合研究所，2020年５月31日

3　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
「葬送儀礼における空間の移行と特徴」『葬送文化』22，pp.95-100，葬送文化学会，2021年２月５日

5　学会・外部研究会発表
「地方自治体の葬祭業務とその変容：千葉県習志野市の事例から」『日本宗教学会第79回学術大会』駒澤大学オンライン，2020年９月20日

7　その他
「記録,顕彰,供養から家族の情愛へ：日本の「遺影」発達史」『ソナエ』29，pp.60-62，産経新聞社，2020年７月９日
「墓地と地域性」『Consultant』288，pp.16-19，一社建設コンサルタンツ協会，2020年７月15日
「葬列を中心とした葬儀」『FUNERAL　BUSINESS』282，pp.56-58，綜合ユニコム，2020年４月25日
「江戸時代の葬具業」『FUNERAL　BUSINESS』283，pp.60-62，綜合ユニコム，2020年５月25日
「明治期における葬儀社の誕生」『FUNERAL　BUSINESS』284，pp.58-60，綜合ユニコム，2020年６月25日

「告別式の成立と展開」『FUNERAL　BUSINESS』285，pp.54-56，綜合ユニコム，2020年７月25日
「自宅告別式と祭壇の成立」『FUNERAL　BUSINESS』286，pp.64-66，綜合ユニコム，2020年８月25日
「高度経済成長と白木祭壇の形成」『FUNERAL　BUSINESS』287，pp.66-68，綜合ユニコム，2020年９月25日
「葬儀産業の発達と業界の形成」『FUNERAL　BUSINESS』288，pp.66-68，綜合ユニコム，2020年10月25日
「村落社会における葬儀産業の浸透」『FUNERAL　BUSINESS』289，pp.78-80，綜合ユニコム，2020年11月25日
「社葬の成立と特質」『FUNERAL　BUSINESS』290，pp.64-66，綜合ユニコム，2020年12月25日
「葬儀の均質化とサービス産業化」『FUNERAL　BUSINESS』291，pp.64-66，綜合ユニコム，2021年１月25日
「個々の葬送に寄り添う専門家として」『FUNERAL　BUSINESS』292，pp.66-68，綜合ユニコム，2021年２月25日
「葬儀になぜ会葬者に食事や酒が接待されるのか：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの12」『月刊住職』22-4，pp.129-133，興山舎，2020年４月１日
「香典返しが始まった訳と香典の辞退が始まった訳:葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの13」『月刊住職』22-5，pp.131-135，興山舎，2020年５月１日
「非業な死にはとりわけ手厚い葬儀や供養が必要だ:葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの14」『月刊住職』22-6，pp.125-129，興山舎，2020年６月１日
「葬儀式前に荼毘に付す行いとその後の追悼会を考える：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの15」『月刊住職』22-7，pp.139-143，興山舎，2020年７月１日
「写真が登場する前の葬儀における遺影とは何か：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの16」『月刊住職』22-8，pp.141-145，興山舎，2020年８月１日
「写真の登場で葬儀だけでなく変化した死の様相：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの17」『月刊住職』22-9，pp.135-139，興山舎，2020年９月１日
「お寺に奉納された写真を超えた供養絵額の役割：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの18」『月刊住職』22-10，pp.153-157，興山舎，2020年10月１日
「地方自治体が葬儀の全てを直営しえた事実と急展開：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの19」『月刊住職』22-11，pp.132-136，興山舎，2020年11月１日
「自治体による公共葬祭事業の利用者数が激減の訳:葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの20」『月刊住職』23-1，pp.143-147，興山舎，2021年１月１日
「葬儀ができなくなった人への助葬は民間から始まった：葬送の習俗が揺らいでいる深層にあるもの21」『月刊住職』23-2，pp.141-145，興山舎，2021年２月１日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

①　歴博

基盤研究「家内における死者祭祀・祭具の現在とその歴史的検討：変容するモノ・家族・社会」（研究代表者：土居浩）2020～2022年

共同利用型共同研究「昭和戦前期「生活改善」運動と葬儀の簡素化に関する理念と実態」（研究代表者：大場あや），2020年度

②　他の機関

国立民族学博物館共同研究「現代日本における「看取り文化」の再構築に関する人類学的研究」（研究代表者：浮ケ谷幸代）2016～2020年

2　外部資金による研究

科学研究費基盤研究（A）「死別悲嘆の医療福祉負荷とその要因解明：大規模日本追跡調査及び国際比較」（研究代表者：カール・ベッカー）2018年度～2021年度，研究分担者

4　主な展示・資料活動

総合展示第４室「『民俗』へのまなざし」展示プロジェクト委員

総合展示第４室「おそれと祈り」展示プロジェクト委員

三　社会活動等

1　館外における各種委員

日本宗教学会編集委員会委

日本葬送文化学会理事

冠婚葬祭総合研究所客員研究員

全国冠婚葬祭互助協会葬儀品質認定制度審査会委員

2　講演・カルチャーセンターなど

「日本におけるお墓の変遷」デザイン墓石「KIZUNA DESIGN」ROUND　TABLE，メモリアルアートの大野屋，2021年3月17日

4　社会連携

②　共同研究

受託研究「家族・地域を含めた新たな「つながり」への展望と葬送墓制―死の文化の変容と多元化する社会的紐帯の考察」（研究代表者　山田慎也）冠婚葬祭総合研究所

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告

儀礼の民俗について，当初計画していた九州などの調査はコロナ禍で困難であったが，関東近郊において調査を行った。とくに盆行事における墓のしつらえについては，竹などを使用したしつらえが次第に簡略化していく傾向が見られる。これは素材の入手が困難なることが背景にあるが，あえてプラスチック素材を使用していくなど，当事者の対応の多様性とその解釈の巾を捉える必要があることがわかった。

横山　百合子　YOKOYAMA Yuriko，教授（2014.11～2021.3）

併任：総研大日本歴史研究専攻教授（2014～），生年：1956

【学歴】東京大学文学部国史学科卒業（1979年），東京大学大学院人文社会系研究科修士課程日本文化研究専攻　修了（1998年），東京大学人文社会系研究科博士課程日本文化研究専攻　単位取得退学（2003年）【職歴】神奈川県立高等学校教諭（1979），千葉経済大学経済学部教授（2007），帝京大学文学部教授（2010），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2014），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2014），広報連携センター長併任（2016）【学位】博士（文学）（東京大学）（2003年取得）【専門分野】日本近世史，ジェンダー史【主な研究テーマ】幕末維新期の都市社会とジェンダー【所属学会】史学会，歴史学研究会，日本史研究会，ジェンダー史学会，総合女性史学会，明治維新史学会，歴史教育者協議会【研究目的・研究状況】近世身分研究・都市社会史研究をふまえつつ，近世の女性の実態とジェンダー，および近代移行期におけるその変容を明らかにしたいと考えている。近年は，特に遊廓の実証的研究に関心をもっている。

●主要業績

1．【単著】『明治維新と近世身分制の解体』333頁，山川出版社，2005年11月

2．【論文】「身分論の新展開」歴史学研究会編『第４次現代歴史学の成果と課題　第２巻　世界史像の再構成』績文堂出版，114-129頁，2017年５月

3．【科研】日本学術振興会科学研究費基盤研究（B）19H01314「「隠し売女」から「淫売女」へ―近世近代移行期における売春観の変容」（2019～2021年度）研究代表者

4．【共編著】明治維新史学会編（西澤直子･横山百合子編集）『講座明治維新９　明治維新と女性』有志舎，265頁，2015年２月

5．【学会】2011年度歴史学研究会大会全体会報告「19世紀都市社会における地域ヘゲモニーの再編―女髪結・遊女の生存と＜解放＞をめぐって―」（2011年５月）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書

Expanding and Multilayering Networks in Nineteenth-Century Japan: The Case of the Shin-Yoshiwara Red-

Light District, *Women and Networks in Nineteenth-Century Japan*（Bettina Gramlich-Oka, Noriko Sugano, Anne Walthall and Fumiko Miyazaki, ed.）, University of Michigan Press, 2020,10

2　論文

「遺跡を尋ねて 第Ⅳ期（第５回）新吉原 遊女小稲と幕末維新期の新吉原遊廓」学士会会報944，pp.68-76，学士会，2020年７月１日

「東京の明治維新―錦絵にみる町方住民の意識と維新政府の統治―」『経済史研究』24，pp.1-20，大阪経済大学日本経済史研究所，2021年１月31日，　査読無し

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発

共編著「歴史の中のジェンダー，第４章，第５章，第６章」展示図録「性差の日本史」319頁，国立歴史民俗博物館，2020年10月６日

5　学会・外部研究会発表

「今，博物館に求められているもの―企画展示「性差（ジェンダー）の日本史」を開催して―」青山学院女子短期大学　総合文化研究所　研究プロジェクト「大学におけるジェンダー教育と男女共生社会」2020年度　第８回講演会（オンライン），2021年１月14日

「性差／ジェンダーを通史でとらえるということ」岡山大学文学部プロジェクト研究「ジェンダーの多様性に関する領域横断的研究A」オンライン，2021年３月４日

7　その他

「ＥＸＨＩＢＩＴＩＯＮ 歴博への招待状　企画展示「性差（ジェンダー）の日本史」へようこそ！」『REKIHAKU』１，pp.85-86，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日

「ラッコと「夷酋列像」―19世紀の北太平洋世界とアイヌの人びと―」『「ともに学ぶ人間の歴史」授業ブックレット』７，pp.17-30，学び舎，2020年９月

「口絵「梅本記　参」（解説）」『日本歴史』870，吉川弘文館，2020年11月１日

「日常の“モヤモヤ”を見直してみると―「男/女」―区分は「あたりまえ」のもの？」『月刊We Learn』805，pp.18-19，公益財団法人日本女性学習財団，2021年３月１日

「企画展示「性差の日本史」」『歴博友の会』211，pp.1-2，一般財団法人歴史民俗博物館振興会，2020年10月５日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

①　歴博

基盤研究「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成」2018～2020年度

基幹研究「近代日本における産業・労働の展開とジェンダー」2019～2021年度研究代表者

③　機構

ネットワーク型基幹研究プロジェクト日本関連在外資料調査研究・活用「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用 ―日本文化発信にむけた国際連携のモデル構築―」2016～2021年度

2　外部資金による研究

科研基盤研究（B）「「隠し売女」から「淫売女」へ―近世近代移行期における売春観の変容」2019～2021年度研究代表者

科研基盤研究（B）「一次史料に基づく近世～近代日本の「遊廓社会」に関する総合的研究」2019～2023年度研究分担者

4　主な展示・資料活動

2020年度企画展示「性差（ジェンダー）の日本史」展示プロジェクト代表

5　教育

総合研究大学院大学文化科学研究科 日本歴史研究専攻　講義　村落社会論「ジェンダーの視点からみた近世社会の特質」

「歴博横山さんと語る「性差の日本史」ワークショップ」日本財団学生ボランティアセンター，Gakuvoボランティア・シンポジウム（オンライン）2021年２月25日

総合研究大学院大学博士論文審査委員（間瀬久美子『近世朝廷の権威と神社・民衆』）

三　社会活動等

1　館外における各種委員

日本歴史学協会第30期常任委員（2018年７月～）

3　マスコミ

TBSラジオ『荻上チキ・Session』10月９日

「Topics 歴博で開催「性差の日本史」展　男女の区分 成立と変化　政治やくらしなどの視点で」毎日新聞（夕刊）10月19日

「歴史を通し変わる男女の規範」しんぶん赤旗，日本共産党，10月23日

「聞いてみたい！　ジュニアプレス　男女の立場 時代で変化」読売新聞，11月６日

「「性差（ジェンダー）の日本史」を見に行く」東京あけぼの（全日本同和会），11月10日

「国立歴史博物館初のジェンダー企画展が大反響　関係者も驚き」『NEWSポストセブン』11月８日・９日・10日・11日

「ジェンダーを考える　Think Gender　日本の「性差」歴史学で切り込む」朝日新聞，11月13日

「われらの時代にNo852 卑弥呼の時代から戦後まで　日本史でわかる「性差（ジェンダー）」」『女性セブン』11月19日号

「「性差（ジェンダー）の日本史」展はなぜ話題？　アラサー男性記者が潜入レポ」Hint-pot，11月21日

「日本の男女不平等はなぜ続く？『性差（ジェンダー）の日本史』展の企画者がひも解く“女の生きづらさ”の正体」『Womantype』11月25日

ニコニコ美術館「国立歴史民俗博物館の「性差（ジェンダー）の日本史」を巡ろう」11月28日

「揺れ動く「性差（ジェンダー）の日本史」歴博展に大きな反響 その理由とは」産経新聞，11月29日

「性売買から社会が見える」『AERA』11月30日号

「吉原遊廓は「金融ネットワーク」だった!?　国立歴史民俗博物館『性差の日本史』が示すジェンダーの変遷」ガジェット通信，11月30日

「驚きの連続「性差の日本史」展　歴博，売買春にも切り込む」47NEWS（共同通信），12月４日

「「性差（ジェンダー）の日本史」展ができるまで」『週刊文春WOMAN』12月21日

「企画展「性差（ジェンダー）の日本史」研究者に聞く」河北新報，2021年２月６日

「ジェンダーを考える　Think Gender　性差の価値観 更新できれば」朝日新聞，2021年３月１日

「横山百合子氏が語る「日本でジェンダーギャップが生まれた理由」」毎日新聞，2021年３月２日

「国際女性デー2021「性差不変」の意識変えて　国立歴史民俗博物館教授・横山百合子さん」毎日新聞，2021年３月９日，等

4　社会連携

①　刊行物

「006坂本康之家文書・068坂本家関係文書（目録と解題）」11，pp.1-383，『須坂市域の史料目録』須坂市域の史料目録，須坂市文書館　2021年３月31日

四　活動報告

吉井　文美　YOSHII Fumi，准教授（2018.4～）

【学歴】東京大学文学部卒業（2008年），東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了（2010年），同博士課程修了（2014年）

【職歴】東京大学史料編纂所リサーチ･アシスタント（2013～2014年），山形大学人文学部専任講師（2014～2017年），国立台湾師範大学兼任助理教授（2016～2017年），山形大学人文社会科学部専任講師（2017～2018年）

【学位】博士（文学，東京大学）【専門分野】日本近代史，東アジア国際関係史【主な研究テーマ】近代日本の対中政策とその国際的影響，日本の帝国支配をめぐる外交史的研究【所属学会】史学会

●主要業績

1．【論文】「日本の中国支配と海関政策の展開：人事問題を中心として」『日本歴史』865号（2020年）

2．【論文】「日中戦争下における揚子江航行問題―日本の華中支配と対英米協調路線の蹉跌―」『史学雑誌』第127

編第３号（2018年）
３.【共著】『日中戦争の国際共同研究５　中国の戦時経済と変容する社会』（担当範囲：日本の華北支配と開灤炭鉱）（慶應義塾大学出版会，2014年）
４.【論文】「一九三五年の『新生』不敬記事事件」『日本歴史』789号（2014年）
５.【論文】「「満洲国」創出と門戸開放原則の変容―「条約上の権利」をめぐる攻防―」『史学雑誌』第122編第７号（2013年）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

１　著書
「個人を通して見る近代東アジア」国立歴史民俗博物館編『REKIHAKU』２ 特集・いまこそ，東アジア交流史，pp.18-26，人間文化研究機構国立歴史民俗博物館，2021年２月26日，共著

２　論文
「日本の中国支配と海関政策の展開：人事問題を中心として」『日本歴史』865号，pp.56-73，吉川弘文館，2020年６月，査読あり

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況
①　歴博
基幹研究「近代日本における産業・労働の展開とジェンダー」（代表：横山百合子）副代表，2019年度～
③　機構
ネットワーク型基幹研究プロジェクト「北米における日本関連在外資料調査研究・活用 ― 言語生活史研究に基づいた近現代の在外資料論の構築」（代表：朝日祥之）2018年度～

２　外部資金による研究
科研 若手研究（代表）「日中戦争期華中における占領地統治の進展と現地秩序の改変過程」2018～2020年度

４　主な展示・資料活動
総合展示第５室・第６室リニューアル委員

５　教育
東京大学文学部非常勤講師（日本史特殊講義XVI，2020年４月～８月）

三　社会活動等

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告
日中戦争期に日本が広東―香港を結ぶ珠江を封鎖したことが，現地経済や日英関係に与えた影響について考察した。国会図書館などで『南支日報』などの資料を収集・分析したほか，前年度に収集していたイギリスの外交文書の分析などを行った。研究内容については，2021年度に研究会で報告予定である。

吉村　郊子　YOSHIMURA Satoko　助教（2007～）

【学歴】奈良女子大学理学部生物学科（1992年卒業），京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程人間・環境学専攻（1994年修了），ナミビア大学学際研究センター社会科学部門（共同研究生：1995～1998年），京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程人間・環境学専攻（2000年研究指導認定退学）【職歴】国立歴史民俗博物館歴史研究部助手（2000），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）【学位】人間・環境学修士（京都大学）（1994年取得）【専門分野】生態人類学，文化人類学【主な研究テーマ】日本の山間地域における人・生業・自然に関する人類学的研究，アフリカ南部の牧畜民に関する人類学的研究，自然と信仰・音に関する研究【所属学会】日本文化人類学会，日本アフリカ学会，生態人類学会

●主要業績

1．【分担執筆】「ヒンバの人々の暮らし―「伝統」と現在を生きる」水野一晴・永原陽子編『ナミビアを知るための53章』（2016年）pp.279-283
2．【論文】「遺された／生きる者にとっての墓―牧畜民ヒンバの事例から」『国立歴史民俗博物館研究報告』第181集（2014年，査読有）pp.81-109
3．【論文】「ナミビアの牧畜民ヒンバと土地のかかわり―その歴史と現在」『国立歴史民俗博物館研究報告』第145集（2008年，査読有）pp.145-229
4．【分担執筆】「第７章　土地と人をつなぐもの―ナミビアの牧畜民ヒンバにとっての墓」田中二郎他編『遊動民（ノマッド）―アフリカの原野に生きる』（明石書店，2004年）pp.439-464
5．【分担執筆】「第４章　炭焼きとして現代を生きぬく」篠原 徹編『現代民俗誌の地平１．越境』（2003年，朝倉書店）pp.70-96

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

二　主な研究教育活動

5　教育

早稲田大学非常勤講師（教育学部「文化人類学研究Ⅰ」「文化人類学研究Ⅱ」），法政大学兼任講師（文学部「世界地誌（５）」），立教大学兼任講師（文学部「超域文化学講義17」）

三　社会活動等

四　活動報告

3　研究・調査プロジェクト報告

今年度は，とくに居住形態の変化と土地資源利用の変遷に関する調査を実施しつつ，それらと合わせて，過去の調査で得られた資料の整理・検討を進める予定であった。しかし，コロナ禍の影響が続くなかで，前者の調査についてはほとんど行うことができず，昨年度までの調査資料の整理・データ化と検討を中心に進めた。現時点では，まだすべての資料をデータ化できたわけではないが，1990年代当時と2020年現在との居住形態と調査地をとりまく諸環境を比較することで，地域集団の変遷と再構成に影響を与えうる要因として，成員個々のライフステージの変化の他に，植民地統治時代の法のや制度のなごりと，それに影響を受けて変化し，培われて今に至るローカルな慣習の影響や，現在の国家が進める開発と法や制度の整備・改革との兼ね合いのなかで選択がなされていることとがわかった。そうした考察を確かなものとして進めるためには，昨年度末に実施した現地調査で得た個別の資料の整理・検討と，それらの理解の背景となるであろう文研資料の収集・分析を今後，進めていきたいと考えている。

［テニュアトラック助教］

橋本　雄太　HASHIMOTO Yuta　テニュアトラック助教（2017.4～）

【学歴】京都大学文学部（2004-2008），京都大学文学研究科修士課程（2008-2010），京都大学文学研究科博士課程課程（2013-2017）
【職歴】株式会社内田洋行社員（2010-2012），大阪大学特任研究員（2015-2017），国立国会図書館委嘱研究員（2015-），国立歴史民俗博物館テニュアトラック助教
【学位】博士（文学）（京都大学文学研究科2018年取得）【専門分野】人文情報学，科学史【主な研究テーマ】人文学資料を対象にしたクラウドソーシング，歴史研究に関わる教育ソフトウェア開発，近代西洋数学史
【所属学会】情報処理学会，Japanese Association of Digital Humanities，日本科学史学会【研究目的・研究状況】クラウドソーシング技術を駆使した歴史資料の活用をテーマに研究をおこなっている．前近代日本語史料の市民参加型翻刻プラットフォーム「みんなで翻刻」や，くずし字解読の学習用アプリケーション「KuLA」の開発にあたっている．「みんなで翻刻」では2021年４月時点で1400万文字の近世史料が翻刻され，KuLAは2016年の公開後17万

回以上ダウンロードされている.
【メールアドレス】yhashimoto@rekihaku.ac.jp

●主要業績

1．【著書】共著：「歴史情報学の教科書」文学通信，2019年３月
2．【著書】共著：『アプリで学ぶくずし字 くずし字学習支援アプリKuLAの使い方』笠間書院，2017年２月
3．【論文】「音声読み上げとフォーラム機能を備えた中世文書オンライン展示システムの開発」国立歴史民俗博物館研究報告，224号，pp.311-328，2021年３月（査読あり）
4．【論文】共著：「『みんなで翻刻』の運用成果と参加動向の報告」，人文科学とコンピュータシンポジウム2020論文集，pp.39-46，2020年12月（査読あり）
5．【論文】「AI 文字認識とクラウドソーシングを組み合わせた歴史資料の大規模テキスト化」，人工知能学会誌，Vol. 35，No. 6，pp.754-760，2020年11月

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
共編著：『REKIHAKU特集：されど歴史』，国立歴史民俗博物館，文学通信，2020年10月30日
共編著：『REKIHAKU特集：いまこそ，東アジア交流史』，国立歴史民俗博物館，文学通信，2021年２月26日

2　論文
「Rethinking the Digital Presentation of Historical Japanese Documents in the Age of Online Multimedia」，Japanese and Asian Historical Research in the Digital Age, pp.99-120, March 2021
「音声読み上げとフォーラム機能を備えた中世文書オンライン展示システムの開発」国立歴史民俗博物館研究報告，224号，pp.311-328，2021年３月（査読有）
共著論文：橋本雄太，加納靖之，一方井 祐子，小野英理「『みんなで翻刻』の運用成果と参加動向の報告」人文科学とコンピュータシンポジウム2020論文集，情報処理学会，pp.39-46，2020年12月（査読有）
「AI文字認識とクラウドソーシングを組み合わせた歴史資料の大規模テキスト化」人工知能学会誌　35-６，pp.754-770，人工知能学会，2020年11月（査読無）

4　展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
日本の中世文書WEBのコンテンツ更新

5　学会・外部研究会発表
Transcription project “Tackling Pandemics in Early Modern Japan” Pedagogical reflections, American Association of Teachers of Japanese, Classical Japanese Special Interest Group Meeting, March 2020
「大学教育におけるデジタル人文学：個人的経験から」京都大学文学研究科・文学部シンポジウム「デジタル人文学の世界へ」オンライン，2020年12月５日
「みんなで翻刻」Code４Lib Japanカンファレンス2020，2020年６月20日

7　その他
橋本雄太・カラーヌワット・タリン共著：「AIで歴史・文化を解明する」『REKIHAKU』１，pp.53-58，国立歴史民俗博物館，文学通信，2020年10月26日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況
①　歴博
「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」（2017年度～）
開発型共同研究「歴史災害のオープンサイエンス化に向けた研究」

5　教育

三　社会活動等

2　講演・カルチャーセンターなど
「デジタル技術で見る植物の世界」くらしの植物苑　第259回講演会，国立歴史民俗博物館，2020年10月24日
「Digital Scholarship in the Study of Historical Japanese Earthquakes」，Tateuchi Research Methods

Workshop Series: Digital Scholarship for East Asian Studies，オンライン，2020年10月21日，アメリカ

3　マスコミ

「巣ごもり勉強術」，読売新聞，p.9，2020年４月28日

四　活動報告

1　受賞歴

IRI知的資源イニシアチブLibrary of the year（LoY）2020大賞

3　研究・調査プロジェクト報告

生命科学分野でテキスト構造化に広く利用されているツールPubAnnotationおよびTextAEを利用した災害史料の構造化を試験的に実施した。残念ながら期待した効果は得られなかったため，独自のテキスト構造化ツールの開発に着手し，すでに稼働状態にある（https://ansei-ce002.web.app/）

［特任教授・准教授・助教］

天野　真志　AMANO Masashi　特任准教授（2017.7～）

【学歴】富山大学人文学部人文学科（2004年卒業），東北大学大学院文学研究科博士前期課程（2006年修了），東北大学大学院文学研究科博士後期課程（2010年単位取得退学）

【職歴】東北大学東北アジア研究センター教育研究支援者（2010-2012），東北大学災害科学国際研究所助教（2012-2017），人間文化研究機構研究推進センター研究員（2017.7～），併任国立歴史民俗博物館特任准教授（2017.7）

【学位】博士（文学，東北大学），【専門分野】日本近世・近代史，資料保存，【主な研究テーマ】日本近世近代移行期における政治・社会史研究，近世・近代社会における地域の由緒に関する研究，地域歴史文化の保全・継承に関する研究，地域歴史文化資料の災害対策に関する研究，【所属学会】文化財保存修復学会，明治維新史学会，歴史学研究会，東北史学会，日本古文書学会，日本アーカイブズ学会，歴史科学協議会

●主要業績

1．【著書】『記憶が歴史資料になるとき　遠藤家文書と歴史資料保全』，78頁，蕃山房，2016年３月31日

2．【論文】「歴史文化資料の保存・継承に向けた課題と可能性」，Integrated Studies of Cultural and Research Resourcesミシガン大学出版局fulcrum，pp.151-161，202109年３月

3．【論文】「出羽国秋田藩の文書調査と由緒管理」，『常陸大宮市史研究』3，pp.13-32，2020年３月

4．【論文】「災害経験をめぐる記憶の行方」，『歴史学研究』1005，pp.28-33，2021年２月

5．【学会・外部研究会発表】“The Dilemma and the Developing Challenge for Preserving Historical Materials since 2011”，“EMERGENCY! Preparing for Disastes and Confronting the Unexpected in Conservation”American Institute for Conservation of Historic and Artistic Works 44th Annual Meeting & Canadian Association for Conservation of Cultural Property 42th Annual Conference 2016年５月16日 Montreal，Canada

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

2　論文

渋谷　綾子・野村　朋弘・高島　晶彦・天野　真志・山田　太造「考古学・植物学を活用した松尾大社社蔵史料の料紙の構成物分析」『東京大学史料編纂所研究紀要』31，東京大学史料編纂所，2021年３月31日（査読有）

4　展示図録・資料図録・映像・ＤＢ・デジタル・コンテンツ開発

西村慎太郎・天野　真志「歴史と地域文化―福島県浜通りの歴史―」国立民族学博物館特別展『復興を支える地域の文化―３．11から10年』pp.119-121，国立民族学博物館，2021年３月２日

5　学会・外部研究会発表

天野　真志・松下　正和「被災資料救済ワークショップの考え方」第42回文化財保存修復学会大会，一般社団法人文化財保存修復学会，2020年７月10日

甲斐　由香里・天野　真志・河瀬　裕子・橋本　竜輝・迫本　繭子・杉村　かおり「くまもと森都心プラザ図

書館における熊本地震震災資料収集活動について」第42回文化財保存修復学会大会，一般社団法人文化財保存修復学会，2020年７月10日
「出羽国佐竹家の由緒と歴史意識」第８回災害文化と地域社会形成史研究会，オンライン，2020年11月23 日
「災害対策としての資料保存―現状と課題・展望―」第68回全国博物館大会 分科会３「身近に迫る危機への備え」，横浜市開港記念館，2020年11月26日
天野　真志・後藤　真「Constructing international university network to preserve local historical resources.」Association for Asian Studies 2021 Virtual Annual Conference，オンライン，アメリカ，2021年３月26日（査読有）

７　その他
「書評：宮下和幸著『加賀藩の明治維新―新しい藩研究の視座　政治意思決定と「藩公議」』」『歴史評論』846，pp.83-87，一般財団法人歴史科学協議会，2020年10月１日
「書評：白井哲哉著『災害アーカイブ―資料の救出から地域への還元まで―』」『アーカイブズ学研究』32，pp.74-80，日本アーカイブズ学会，2020年６月30日
「資料保存と災害」『会報　明治維新史学会だより』24，pp.4-6，明治維新史学会，2020年７月１日
「史料論（近世，日本，2019年の歴史学界―回顧と展望―）」『史学雑誌』129-5，pp.143-144，史学会，2020年５月15日
「災害経験をめぐる記憶の行方―災害資料の収集と保存から考える―」『歴史学研究』1005，pp.28-33，歴史学研究会，2021年２月15日
「資料保存をとりまくネットワーク―災害対策と地域社会をめぐる動向―」『カレントアウェアネス』347，国立国会図書館，2021年３月20日
「資料を残し伝えることの意味」『REKIHAKU』１　されど歴史，pp.35-40，国立歴史民俗博物館，2020年10月26日

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況
③　機構
広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」ユニット「日本列島における地域文化の再発見とその表象システムの構築」（代表者：日高真吾）
「自然災害と向きあう資料保存」令和２年度市町文書保存担当者講習会，栃木県立文書館，2020年10月28日
「災害から考える資料保存」令和２年度被災文化財研修会，埼玉県立歴史と民俗の博物館，2020年11月16日

２　外部資金による研究
科学研究費若手研究「幕末維新期の角館城下を中核とした知的関係と政治意識の形成」（代表者：天野真志）（2018～2021年度）

三　社会活動等

１　館外における各種委員
福島県相馬市史編さん室調査執筆員
宮城県岩沼市史編纂室編集専門部会 震災部会調査執筆員
茨城県常陸大宮市史編さん委員会専門部会協力員
福島県富岡町アーカイブ施設整備有識者検討部会委員

四　活動報告

亀田　尭宙　KAMEDA Akihiro　特任助教（2019.10～）

生年：1984

【学歴】東京大学工学部システム創成学科（2007年卒業）東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻（2009年９月修了）東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻（2012年９月単位取得退学）
【職歴】情報処理推進機構 未踏IT 人材発掘・育成事業 未踏本体 クリエータ（2009.７～2010.３），情報・システム

研究機構 技術補佐員（2012.10～2013.３），同 特任研究員（2013.４～2014.９），湘南工科大学　コンピュータ応用学科 非常勤講師（2013.４～2014.９），京都大学地域研究統合情報センター　助教（2014.10～2016.12），京都大学東南アジア地域研究研究所 助教（2017.１～2019.９）
【学位】修士（環境学）（東京大学）（2009年取得）
【専門分野】情報知識学（Linked Dataの構築と活用，自然言語処理による知識抽出，デジタル知識の保存と継承），人文社会情報学
【主な研究テーマ】地域に関わる知識の共有と継承のための情報技術研究
【所属学会】情報処理学会，人工知能学会，言語処理学会，デジタルアーカイブ学会

●主要業績

1．Akihiro Kameda, Kiyoko Uchiyama, Hideaki Takeda, Akiko Aizawa：Extraction of Semantic Relationships from Academic Papers using Syntactic Patterns, The Fifth International Conference on Information, Process, and Knowledge Management, (2013).
2．Akihiro Kameda, Fumihiro Kato, Utsugi Jinbo, Ikki Ohmukai, Hideaki Takeda : Integrate Japanese Red List into LOD of Species, PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013 (2013).
3．亀田　尭宙，後藤　真「地域歴史資料情報基盤のデータモデル構築：保存・発見・活用の高度化にむけて」じんもんこん2020，情報処理学会，オンライン，2020年12月13日.

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

３　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など
川邊 咲子・亀田 尭宙・後藤 真：「AHA専門職行動基準書」（2019年改定版）翻訳と公開 2021年３月12日

５　学会・外部研究会発表
Sakiko Kawabe, Akihiro Kameda and Makoto Goto: “Documentation of Ethnographical Object Biography using CIDOC CRM”. 2020.12.10. in CIDOC 2020, Geneva and online, 2020年12月７-10日
亀田　尭宙・後藤　真「地域歴史資料情報基盤のデータモデル構築：保存・発見・活用の高度化にむけて」じんもんこん2020，情報処理学会，オンライン，2020年12月13日（査読有）
Yuta Hashimoto・Akihiro Kameda・Makoto Goto: “Citizen Collaboration for the Preservation and Transcription of Historical Materials in the National Museum of Japanese History”, Making History Together: Public Participation in Museums. online. 2020年12月18日
「Wikidata と連携する Linked Data の構築」，NDLデジタルライブラリーカフェ，国立国会図書館，2020年度第２回，オンライン，2021年１月15日
亀田 尭宙「アクセスされるジャーナルを目指す！ Google Analyticsの使い方―書誌情報と引用情報のオープン化―」，KURA「研究者の歩きかた」セミナー；L-INSIGHT/KURA連携プログラム パブリッシングセミナー「ジャーナルを可視化する」．オンライン．2021年１月28日
Kameda Akihiro・Wahyu Prasetyawan（corresponding）：“Big Data and Local Government Policies in Indonesia”, in “Data-Oriented Approaches to the Social Sciences and Humanities”, online and Inamori Hall in Kyoto University, 2021年２月12-13日
Sakiko Kawabe・Akihiro Kameda・Makoto Goto: Documentation of Ethnographical Object Biography using CIDOC CRM, in 49th CIDOC CRM and 42nd FRBR CRM. online. 2021年３月８-11日
Shoichiro Hara, Shigeo Sugimoto, Akihiro Kameda: “Trial for long-term preservation and utilization of data in Asia”, in the panel "P019: Towards Data Sharing, Integration, and Multi-proxy Collaboration in Historical Studies: New Insights and Future Challenges in Japan" on 2021年３月26日, in AAS2021 annual conference, オンライン, 2021年３月24-27日

二　主な研究教育活動

２　外部資金による研究
「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」（研究代表者：奥村弘），研究協力者，2019～2023年度
「インドネシアにおける土地所有権と泥炭地回復」（研究代表者：水野 広祐）分担者，2019～2022年度

「インドネシア熱帯泥炭地における災害および水文・気象情報管理システムの構築」（研究代表者：甲山 治）分担者，2019年10月～2022年度
「データベースをつうじた地域と科学の知の統合による気候応答型居住環境の創出」（研究代表者：山田 協太）分担者，2018～2021年度
「紀要を見直す―被引用分析を通じた紀要の重要性の実証と紀要発展のための具体的提言」（研究代表者：設樂成実），分担者，2017～2020年度

三　社会活動等

1　館外における各種委員
セマンティックウェブとオントロジー研究会専門委員（2020-2021年度）

四　活動報告

河合　佐知子　KAWAI Sachiko　特任助教（2020.1～）

【学歴】都留文科大学文学部初等教育学科（1993年卒業），カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校大学院他言語話者に対する英語教授法研究科修士課程（California State University, Los Angeles, MA in Teaching English to Speakers of Other Languages［TESOL］）（2000年修了），南カリフォルニア大学大学院東アジア言語・文化研究科修士課程（University of Southern California, MA in East Asian Languages and Cultures）（2007年修了），南カリフォルニア大学大学院歴史学科博士課程（University of Southern California, Ph.D. in History）（2015年修了）
【職歴】
ハーバード大学東アジア言語・文化学科カレッジ・フェロー（2015年７月～2016年６月），ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所ポスドク研究員（2016年８月～2017年６月），南カリフォルニア大学歴史学部博士研究員及び漢文ワークショップ アシスタント・ディレクター（2018年７月～2019年12月）
【学位】博士（歴史）（南カリフォルニア大学）（2015年取得），【専門分野】日本中世史，女性史・ジェンダー史
【主な研究テーマ】１）中世女院研究；２）前近代温泉文化史，【所属学会】総合女性史研究会，鎌倉遺文研究会，The Association for Asian Studies（AAS），The Asian Studies Association of Australia（ASAA），【研究目的・研究状況】平安･鎌倉期女院所領経営の分析を通して,「権利」（authority）と「力」（power）のギャップに注目し，女院やその周辺の人々が土地における「権利」をどのように使い，政治・経済・宗教・文化・軍事的な影響力を得たのかについて分析した。また，女院と男院のジェンダー的格差に伴う様々な要素が女院荘園経営におけるストラテジーに与えた影響を検討した。現在は，女性史・ジェンダー史の視点を取り入れつつ，前近代温泉文化史研究に取り組んでいる。

●主要業績

1．「院政期女院の土地における『権利』とそこから産みだされる『力』の考察― 不婚内親王宣陽門院（1181-1152）を中心に―」（『比較日本学教育研究センター研究年報』10号，151～157頁，お茶の水女子大学，2014年３月）
2．【博士学位論文：単著】『*Power of the Purse : Estates and the Religio-Political Influence of Japanese Royal Women, 1100-1300*（日本中世の経済力―天皇家女性の荘園経営と政治・宗教的影響力から探る）』〔博士学位論文〕（南カリフォルニア大学，320頁，2015年５月）
Link: http://digitallibrary.usc.edu/cdm/ref/collection/p15799coll３/id/558872（Harvard Univeristy Asia Center Publiscations から出版予定）
3．【論文：単著】「Talking to a Deity : The Royal Lady Hachijō-in at Prayer（八条院告文から見る女院の人生）」（査読済）（『*The Medieval History Journa*（*1*　中世史研究）』18巻２号，278～304頁，Sage Publications, 2015年10月）
4．【論文：共著】原始・古代の家族とジェンダー（Gender and Family in the Ancient and Classical Ages）」（『ラウトレッジ版―前近代史（*Routledge Handbook for Premodern Japanese History*）』，202～215頁，with Ijūin Yōko［伊集院葉子］，Routledge，2017年６月）
5．【論文：単著】「Nyoin　Power, Estates, and the Taira Influence : Trading Networks within and beyond the Archipelago（女院の「力」の再検討―中世荘園・平氏政権・列島を巡る貿易ネットワーク）」（『*Land, Power,*

and the Sacred : The Estate System in Medieval Japan（土地・力・聖―荘園制と中世日本）』281～318頁，Janet R. Goodwin and Joan R. Piggott, University of Hawai‘i Press, 2018年）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

２　論文

河合　佐知子・遠藤　基郎「建長二年十月宣陽門院領六条殿分公事注進状の成立：「建久二年十月日長講堂領目録」の再検討」『鎌倉遺文研究』45，pp.24-47，鎌倉遺文研究会，2020年４月20日（査読有）

５　学会・外部研究会発表

「『神』に関わる女院の役割について―宣陽門院の例を中心に」第52回女院研究会，東京（オンライン），2020年９月29日

「"Onsen" as a Kaleidoscope: Multifaceted Uses of Japanese Natural Springs Across Time 万華鏡としての「温泉」―日本温泉文化史から湯の多様性を考える」69th Midwest Conference on Asian Affairs，アメリカ合衆国ミシガン州（オンライン）2020年10月17日

「前近代日本温泉文化史―ジェンダー的視点と人文情報学的アプローチを取り入れるために」2000年度大学共同利用機関法人（I-URIC）フロンティアコロキウム勉強会，東京（オンライン），2020年11月29日

「Working as a Communications Specialist at the National Institutes for the Humanities and Rekihaku in Japan during the Pandemic（パンデミック下において人文知コミュニケーターとして大学共同利用機関人間文化研究機構・国立歴史民俗博で活動することの意義）」，The Project for Premodern Japan Studies（PPJS）Fridays Conversations on Premodern Japanese History，ロサンゼルス（オンライン），2020年12月４日

「「多様な研究分野における「ジェンダーの課題」を共に考える共創の場の創出」勉強会報告」2000年度I-URICフロンティアコロキウム総括シンポジウム，東京（オンライン），2021年１月27日

７　その他

「大変な今だから―「食」や「レシピ」を見つめてみよう Survive this Challenging Time Together―Rethinking Food, Drink, and the Recipe!」『くらしに人文知―コロナ時代を生き抜く』人間文化研究機構／https://www.nihu.jp/jinbunchi/kurashi/index.html，2021年３月

活動報告「The “Royal Family Roster and Payroll Office Protocols” and Exploring Gender Power Relations at the Heian Court『延喜式』第39巻「正親司」の史料的価値を英語圏に伝えるために―ジェンダー的視点を取り入れて」『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.41-54，国立歴史民俗博物館, 2021年３月31日（査読有）

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況

①　歴博

基盤研究（B）「格・式研究をふまえた日本古代 社会像の再構築」（代表：小倉滋司）共同研究員，2020～2022年度

②　他の機関

南カリフォルニア大学前近代日本学プロジェクト（USC Project for Premodern Studies）定例研究会・ワークショップ 2020年度～

③　機構

くらしと人文知（他の参加メンバー：金セッピョル［総合地球環境学研究所］，条汐里［国文学研究資料館］，大石侑香（2020年９月まで），神野知恵（2021年２月～）［国立民族学博物館］，光平有希［国際日本文化研究センター］，堀田あゆみ［人間文化研究機構総合情報発信］），2020年度～

定例人文知コミュニケーター研究会（青山宏夫理事及び同上の参加メンバー），2020年度～

５　教育

筑波大学筑波大学大学院共通科目「人文知コミュニケーション：人文社会科学と自然科学の壁を超える」ティーム・ティーチング 2020年10～11月

三　社会活動等

３　マスコミ

『ドクターあゆみの英語で科学』インタビュー　#53「Rethinking women’s history」2021年３月15日

https://voicy.jp/channel/836/134864

四　活動報告

清武　雄二　KIYOTAKE Yuji　特任助教（2015.2～）

【学歴】上智大学文学部史学科卒業（1989），國學院大學大学院文学研究科修士課程修了（1995），國學院大學大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学（1999）【職歴】関東学院大学法学部非常勤講師（2001.4～），國學院大學文学部兼任講師（2004.4～），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部特任助教（2015.2～），人間文化研究機構推進センター研究員（2018.2～），併任国立歴史民俗博物館研究部特任助教【学位】修士（歴史学）（國學院大學1995）【専門分野】日本古代史【主な研究テーマ】律令国家の形成と地域社会【所属学会】国史学会【研究目的・研究状況】律令期の食資源に関する貢納体制を加工・調理技術・労働力編成・運搬・保管という視点から検証し，古代国家と地域社会の歴史的関係性の究明を試みる。

●主要業績

1．【論文】「律令法上の園地規定と班田制」（『國學院雑誌』第114巻５号，pp.35-50，2013年５月）（査読有）
2．【論文】「井上薬師堂遺跡出土木簡の再検討」（『上岩田遺跡調査概報』小郡市文化財調査報告書第142集，pp.62-77，2000年３月）（共著者：平川南・三上喜孝・田中史生）
3．【論文】「藤原部の研究」（『史学研究集録』第22号，pp.5-28，1997年３月）
4．【研究ノート】「古代における長鰒（熨斗鰒）製造法の研究―加工実験・成分分析による実態的考察―」（『国立歴史民俗博物館研究報告』209，pp.19-41，2018年３月）（査読有）
5．【科研】科研基盤研究（C）「古代日本の食材加工にみる律令国家税制の実態的研究」，2017～2019年度

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
『アワビと古代国家『延喜式』にみる食材の生産と管理』平凡社，100頁，2021年３月15日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況
③　機構
広領域連携型基幹研究プロジェクト「異分野融合による「総合書物学」の構築」（主導機関：国文学研究資料館），「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」（研究代表者：小倉慈司）共同研究員・推進センター研究員，2016～2021年度

4　主な展示・資料活動
企画展示「昆布とミヨク―潮かおるくらしの日韓比較文化誌―」展示プロジェクト委員（展示は2020年３月17日～５月17日。COVID-19感染拡大により一般観覧中止）

5　教育
関東学院大学法学部非常勤講師（日本史１，日本史２）
國學院大学文学部兼任講師（史学専門講義（日本史）：６・７世紀の王権と社会，史学基礎演習Ⅰ：出土文字資料からみた日本の古代）
総研大文化科学研究科共通科目「総合書物論」授業担当講師（第11回「『延喜式』と諸国の物産」，第12回「『延喜式』にみえる水産加工食品」）

三　社会活動等

2　講演・カルチャーセンターなど
「昔の人は何を食べていたの？『延喜式』研究の最前線（“What kind of food were eaten in the past? Introducing the Research of Engi-Shiki”）」広島市立大学国際学部（オンライン開催），12月18日（金）

3　マスコミ

「生鮭　塩蔵で鮮度保つ（北陸歴史よもやま話）」読売新聞石川面・富山面，p.28，読売新聞北陸支社，2020年11月14日

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告

人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「異分野融合による「総合書物学」の構築」の国立歴史民俗博物館ユニット「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」の活動の一環として,『延喜式』（縫殿式・典薬式・内膳式・弾正式）の現代語訳作成と検討をメンバーとともに随時行った。同じく，国内在住のアメリカの若手研究者とともに，『延喜式』（内膳式・典薬式）の英訳を目的としたワークショップを2021年３月４～８日・25日に開催した。また，原文データの整備・活用をはかるため，ＴＥＩの方式によるデータ整理体制を構築し，３月より作業を開始している。

上記「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」に関して，食品･水産品分野では，鮨鰒（アワビなれ鮨）についての製造実験・成分分析による調査を実施した。製造実験は税物生産を前提とした長期間発酵（2020年２月26日～９月６日）と大嘗祭式記載の短期間発酵（10月20日～12月15日）に分けて行ない，発酵の時期・期間・材料比等を検証し，加工法や成分変化等の検証と延喜式記載の貢納量等についての検討を行なった。成分分析は製造実験毎に各種成分の変化や生菌数・pH値の把握を行なった。実験にはRAや補助業務を依頼している院生も参加した。以上の実験・分析の経緯とその結果の報告・考察については、2021年３月６日にオンラインで開催された「古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究」第12回全体研究会にて､「アワビのなれ鮨（鮨鰒）復元実験」と題した口頭報告を行っている。また，味の素食品研究所との来年度からの本格的な協力体制を構築すべく，学術協力にかかる契約の締結を進め，次年度以降より具体的な活動に入る予定となっている。この他，株式会社にんべん研究開発部の協力を得て，古代のカツオ製品の加工法を検証するため，加工実験に関する意見交換を行った。

これまでのアワビ製品に関する税物生産・加工法の研究成果をとりまとめ，『アワビと古代国家『延喜式』にみる食材の生産と管理』と題したブックレットを執筆し，2021年３月に平凡社より刊行した。

久留島　浩　KURUSHIMA Hiroshi　特任教授（2020.4～）

生年：1954

【学歴】東京大学文学部第二類（国史学）国史学科（1977年卒業），東京大学大学院人文科学研究科国史学専門課程修士課程（1980年修了），東京大学大学院人文科学研究科国史学専門課程博士課程（1983年単位取得退学）
【職歴】東京大学文学部助手（1983），千葉大学教育学部講師（1985），千葉大学教育学部助教授（1987），国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授（1998），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（1999），国立歴史民俗博物館歴史研究部教授(2003),総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任(2003),大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2004），国立大学法人総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2004～2019），歴史資料センター長併任（2006～2007），博物館資源センター長併任（2007～2009），副館長（館外担当）併任（2010～2012），館長（2014～2019）
【学位】文学博士（東京大学・2002年取得）【専門分野】日本近世史【主な研究テーマ】日本近世後期の地域社会の歴史的性格についての研究，近世社会における儀式・儀礼・祭礼の研究，歴史系博物館の教育プログラムに関する研究【所属学会】歴史学研究会，史学会，日本史研究会，地方史研究会【メールアドレス】kurushima@rekihaku. ac.jp

●主要業績

１.【編著】久留島浩編『シリーズ近世の身分的周縁５　支配をささえる人々』272頁，吉川弘文館，2000年９月
２.【単著】久留島浩著『近世幕領の行政と組合村』416頁，東京大学出版会，2002年８月
３.【編著】久留島浩編『描かれた行列　武士・異国・祭礼』392頁，東京大学出版会，2015年10月
４.【企画展示】平成24年度国立歴史民俗博物館企画展『行列にみる近世―武士と異国と祭礼と―』2012年10月～12月
５.【学会・外部研究会報告】国際シンポジウム　久留島浩「国立歴史民俗博物館における博物館教育の試み」（歴博国際シンポジウム『歴史展示を考える―民族・戦争・教育』354頁　※同名の報告書刊行：UM BOOKS,

2004年12月）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

７　その他

「遺跡を尋ねて　《第Ⅳ期》第四回　〈出島と長崎奉行所跡〉長崎の遺跡歩き」『學士會会報』943，一般社団法人　学士会，2020年７月

「たかが歴史されど歴史　江戸の高札から明治の「五榜の掲示」へ」『REKIHAKU』２，pp.60-61，国立歴史民俗博物館，2021年２月26日

コメント，2020年度歴史文化大学フォーラム「資料ネット活動を取り巻くネットワーク構築」，オンライン，2021年３月28日

二　主な研究教育活動

２　外部資金による研究

科学研究費基盤C「近代北海道におけるアイヌ民族と地域社会―有珠郡・幌別郡を中心に―」（研究代表者：千葉大学　檜皮瑞樹）研究分担者，2018～2022年度

科学研究費基盤B「「熊本藩関係貴重資料群」の総合的解析による日本近世の意思決定構造の実証的研究」（研究代表者：熊本大学　今村直樹）研究分担者，2019～2022年度

科学研究費基盤B「日韓の歴史教科書及び博物館歴史展示における日本による植民地期関係記述の比較研究」（研究代表：学習院大学　梅野正信）研究分担者，2019～2022年度

三　社会活動等

１　館外における各種委員

千葉市史編集委員，日本銀行金融研究所貨幣博物館諮問委員，江戸東京博物館運営委員会委員，八千代市立郷土博物館協議会委員，千葉県生涯学習審議会委員，長野県立歴史館協議会委員

２　講演・カルチャーセンターなど

「歴博を100倍楽しむ方法―「歴史」と対話する楽しさ―」自民党勉強会「火曜会」，自民党本部　７階　701号室，2020年６月２日

「下総の村から幕末維新期の社会状況を考える―稲干場をめぐる村方騒動を事例として―」，令和２年度千葉市史研究講座，千葉市生涯学習センター２階ホール，2020年10月11日

「地域の歴史資料をのこすために―自治体史編さんの経験から」地域史研究講座2021　第１回　学術野営2020in奥州市スピンオフ（市民向け成果報告会），オンライン，えさし郷土文化館，2021年１月24日

「国立民俗博物館で学ぼう！　屏風でめぐる「江戸」バーチャルツアー」『久留島特任教授・鈴木教授とめぐる博物館オンライン体験ツアー ～屏風でめぐる「江戸」バーチャルツアー～』，国立歴史民俗博物館，オンライン，2021年２月８日

四　活動報告

高科　真紀　TAKASHINA Maki　特任助教（2020.7～）

【学歴】東京学芸大学教育学部（2004-2008），東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程（2008-2010），学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程（2020年６月満期取得退学）

【職歴】国文学研究資料館機関研究員（2013-2015），国文学研究資料館プロジェクト研究員（2016-2017），学習院大学科研費研究員（2017），東京学芸大学非常勤講師（2017），日本学術振興会特別研究員DC２（2018-2019），人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員併任国立歴史民俗博物館研究部特任助教（2020.7）

【学位】修士（教育学）【専門分野】資料保存論，アーカイブズ学【主な研究テーマ】資料の保存環境管理，民間所在資料の保全と活用【所属学会】文化財保存修復学会，日本アーカイブズ学会，デジタルアーカイブ学会，アート・ドキュメンテーション学会

●主要業績

1．【著書（分担執筆)】“Preservation and Conservation of Japanese Archival Documents in the Vatican Library”, Mutsumi Aoki・Núñez Gaitán, Ángela編,（担当：分担執筆，範囲：pp.111-131：Introducing the Newest Salvage and Conservation Techniques Used after the 2011 Tohoku Earthquake and Tsunami), 2019年12月，バチカン図書館
2．【論文】「収蔵庫を対象としたアーカイブズの照明管理―ISO・アメリカ・イギリス・日本の事例」，2019年２月，GCAS Report vol.8，pp.35-55
3．【論文】「和書の展示技法と保存環境制御の実践―「和書のさまざま」展を素材として―」，2015年３月，国文学研究資料館紀要 文学研究篇第41号，pp.111-134
4．【研究発表】“Case verification of the LED illumination at the museum in Japan”，2018年，LED Museum Lighting and Conservation Science 2018（LMLCS2018)，Gyeongju Hwabaek International Convention Center（大韓民国）
5．【研究発表】“The latest Restoration Techniques in Japan”，2016年，International Council on Archives Congress 2016，COEX（大韓民国）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

5　学会・外部研究会発表

高科　真紀・阿久津　美紀「写真メディアを軸とした沖縄祭祀アーカイブズ―写真家・比嘉康雄資料の目録記述と権利処理―」アート・ドキュメンテーション学会2020年度年次大会，オンライン開催，2020年６月28日

「アーカイブズ照明管理の適性化に向けて―国内107機関の現状分析から―」日本アーカイブズ学会2020年度大会，オンライン開催，2020年11月８日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況

③　機構

広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」（主導機関：国立歴史民俗博物館，国立国語研究所)，「地域における歴史文化研究拠点の構築」（研（2020年度～）

2　外部資金による研究

「民間所在アーカイブズにおける写真の公開・活用体制の構築―女性・子どもを記録した写真家を対象に―」（研究代表者：阿久津美紀)，DNP文化振興財団グラフィック文化に関する学術研究助成（2019年11月～2022年12月)，共同研究者

「沖縄祭祀アーカイブズの活用に関する基礎的研究―写真家・比嘉康雄の写真と記録を対象に―」，公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団助成（2020年４月～2021年３月)，研究代表者

「〈沖縄経験〉を軸とした戦後沖縄写真に関する表象文化の発展的研究」（研究代表者：小屋敷琢己）日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）（2020年４月～2024年３月)，研究分担者

三　社会活動等

1　館外における各種委員

日本アーカイブズ学会 委員（研究部会）

2　講演・カルチャーセンターなど

「久高島・まつりの記憶と記録―比嘉康雄アーカイブズ整理の現場から―」，イザイホーの魂／久高のニガイ 比嘉康雄・上井幸子写真展シンポジウム，琉球新報ホール，2020年11月27日

四　活動報告

［プロジェクト研究員］

青柳　正俊　AOYAGI Masatoshi　プロジェクト研究員（2019.4～）

【学歴】東京外国語大学外国語学部ドイツ語学科（1984年卒業）【職歴】新潟県庁（1984-1991，1994-2019），外務省（1991-1994）【最終学位】博士（文学）【専門分野】近代史【主な研究テーマ】明治初期の対外関係史･経済史，開港地としての新潟【所属学会】明治維新史学会，新潟史学会【研究目的・研究状況】

●主要業績

1．【著書】単著：青柳正俊『川港の岸辺で―新潟ドイツ領事ライスナーの軌跡』（152頁，2019年，新潟開港150周年記念「みなとまち新潟」研究助成対象事業）
2．【論文】青柳正俊「雑居地新潟に関する一考察―「外国人の居留地外居留問題」をめぐる展開」（『東北アジア研究』19号，pp.1-25，2016年，査読有）
3．【論文】青柳正俊「井上条約改正交渉期における新潟での外国人借地問題」（『新潟県立歴史博物館研究紀要』第17号，pp.120-99，2016年）
4．【論文】青柳正俊「「外圧」が捉えた新潟における通商司政策」（『東北アジア研究』20号，pp.1-44，2017年，査読有）
5．【論文】青柳正俊「明治三年・新潟通商司をめぐる騒動」（『新潟史学』第76号，pp.1-22，2018年，査読有）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書
『明治三年　欧州視察団周遊記～新潟から会津・米沢への旅～』224頁，歴史春秋社，2020年12月12日

2　論文
「大阪通商司と「外圧」の実相―新潟との比較的観点から―」国立歴史民俗博物館研究報告第228集，国立歴史民俗博物館，（査読有）

5　学会・外部研究会発表
「県知事日記にみる明治初期の新潟　三条西公允『御用備忘』を中心に」新潟史学会第70回研究大会（オンライン開催），2020年11月１日

7　その他
【コラム】「明治初期の新潟の外国人」『大学的新潟ガイド―こだわりの歩き方』新潟大学人文学部付置地域文化連携センター，昭和堂，2021年３月30日

二　主な研究教育活動

1　主な共同研究等参加状況
③　機構
ネットワーク型基幹研究プロジェクト 日本関連在外資料調査研究・活用事業「ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究･活用―日本文化発信に向けた国際連携のモデル構築―」（研究代表:日高　薫），研究分担者

三　社会活動等

四　活動報告

賀　申杰　GA Shiketsu　プロジェクト研究員（2020.4～）

生年：1989

【学歴】中国人民大学歴史学部卒（2011），東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本史学修士課程修了（2015），東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本史学博士課程修了（2020）

【職歴】国立歴史民俗博物館プロジェクト研究員（2020）
【学位】文学博士（東京大学，2020年取得）
【専門分野】日本近代史
【主な研究テーマ】日本近代の造船業
【所属学会】史学会，軍事史学会，東アジア史学会
【研究目的・研究状況】メールアドレス：heshenjie@rekihaku.ac.jp

●主要業績

・　論文
「明治後期の川崎造船所における外国発注艦建造問題に関する一考察」，『史学雑誌』126編７号，2017年７月
「大正九年以降における臣籍降下基準の沿革に関する一考察：降下した皇族の待遇問題を中心に」，『東京大学日本史学研究室紀要』22巻，2018年３月
「明治末期日本企業的艦船輸出」（李福鐘，若林正丈，川島真等編『跨域青年學者台灣與東亞近代史研究論集第二輯』稲鄉出版社（台灣）2017年）
「日清戦争以前の外国船修理問題：東京石川島造船所を中心に」，『東京大学日本史学研究室紀要』24巻，2020年３月
・　学会・外部研究会発表
「明治終期における民間造船企業の艦艇輸出活動」，2015年第113回史学会大会報告

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

２　論文
「横須賀造船所の外国船修理事業――明治一六年海軍軍拡以前を中心に――」『史学雑誌』130（編）－2，pp.1-36，山川出版社，2021年３月20日（査読有）
「日露戦争前の「揚武艦」輸出をめぐる対韓外交の一側面――在韓公使館の対応を中心に――」『軍事史学』56-4，pp.100-119，錦正社，2021年３月１日（査読有）
５　学会・外部研究会発表
「明治时代的日本造船业与外需」第三回山東大学日本史研討大会，山東大学（中国），2021年３月20日
７　その他
「近代的早稻田大学与中国留学生」『旅日』17，pp.53-55，中国語，2020年６月１日
「鲁迅与周作人――近代饱受歧视的留学生缩影」『旅日』18，pp.70-73，中国語，2020年９月１日
「郭沫若与近代日本」『旅日』19，pp.68-72，2020年12月１日

二　主な研究教育活動

三　社会活動等

２　講演・カルチャーセンターなど
「『令和』改元与日本近代天皇制研究的潮流」上海師範大学光啓青年説講座，上海師範大学（中国），2021年６月12日

四　活動報告

川邊　咲子　KAWABE Sakiko　プロジェクト研究員（2019.5～）

生年1989

【学歴】金沢大学人間社会学域人文学類卒業（2013），金沢大学大学院人間社会環境研究科地域創造学専攻（博士前期課程）修了（2016），金沢大学大学院人間社会環境研究科人間社会環境学専攻（博士後期課程）修了（2021）
【職歴】日本学術振興会特別研究員DC２（2018.4～2019.5）
【学位】博士（学術）【専門分野】文化資源学，物質文化学【主な研究テーマ】地域民具コレクションに見る人とモ

ノとの関係性【所属学会】民具学会，日本エコミュージアム研究会【研究目的・研究状況】石川県能登半島とフィリピン・イフガオ州をフィールドに，地域の民具コレクションについての調査・研究を行ってきた。民具そのものというよりも，人々がそうした過去から残されたモノを集めて残そうとするその活動自体に注目し，背景にあるモノと人，記憶との関係について研究・調査を行っている。
地域においてこれまで収集・保存された民具は，物だけが残り情報が残されていないために学術資料や地域文化資源としての価値が低く，資料館等の収蔵庫や廃校舎等に死蔵され，消失の危機にあるものも少なくない。そうした現状において，民具が研究や博物館活動だけでなく地域活動や日常生活の営みにも役立つようなパブリックヒストリー・リソースとなるには，どのような情報を記録・蓄積し，いかなる方法で活用・共有していくのが望ましいかを考えていく必要がある。基幹研究プロジェクト「総合資料学の創生と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」の取り組みと連携し，そうしたモノと情報の蓄積・共有の在り方について考察を行っている。

●主要業績

論文

1．Kawabe, S.「Everyday Object Collections Formed by Collectors and Contributors in the Local Living Context: An investigation on background of the collecting and functions of collected objects in the Noto Peninsula, Japan and Ifugao Province, Philippines」（博士学位論文）金沢大学大学院人間社会環境研究科，2021年３月22日
2．川邊咲子（2018）「「集合的記憶」を支える民具：民具の来歴の記録データが残されない原因についての一考」『月刊考古学ジャーナル』ニューサイエンス社 718号：pp50-53，（査読なし）2018年10月
3．川邊咲子，香坂玲，松岡光，内山愉太(2017)「能登半島の事例にみる農具の再利用とストック～静的な「遺物」から動的な「生きた遺産」へ～」『エコミュージアム研究』日本エコミュージアム研究会 21号：pp40-48（査読あり）2016年12月

学会・外部研究会発表

4．Kawabe, S.「Why Do We Need to Collect Everyday Life Heritage? : Case Studies of Local Collections in Japan『」RAI2018 : Art, Materiality and Representation』P021 at SOAS, University of London, UK（June 2018）
5．川邊咲子「近代化・グローバル以降の社会における生活財の象徴的機能とレジリエンス的機能：フィリピン・イフガオ州にみられる生活財の収集･保存活動の考察より」『平成29年度みんぱく若手研究者奨励セミナー「グローバル現象を人類学はどのように捉えるか」』セッション① 国立民族学博物館，大阪（2017年12月）

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

2　論文

博士学位論文「Everyday Object Collections Formed by Collectors and Contributors in the Local Living Context: An investigation on background of the collecting and functions of collected objects in the Noto Peninsula, Japan and Ifugao Province, Philippines」金沢大学大学院人間社会環境研究科，2021年３月22日

5　学会・外部研究会発表

Sakiko Kawabe, Akihiro Kameda, Makoto Goto「Documentation of Ethnographical Object Biography using CIDOC CRM」CIDOC 2020，オンライン，スイス，2020年12月10日（査読有）

「コロナ禍における歴史文化資料の保存･活用のための新しいスタイルの模索」第25回情報知識学フォーラム「アフターコロナの学術研究分野におけるオープンサイエンスを考える」オンライン，2021年１月９日

英語発表：博士学位論文「Everyday Object Collections Formed by Collectors and Contributors in the Local Living Context: An investigation on background of the collecting and functions of collected objects in the Noto Peninsula, Japan and Ifugao Province, Philippines」金沢大学大学院人間社会環境研究科博士学位論文口頭発表会，オンライン，2021年１月28日

博士学位論文「地域生活の文脈において収集者と貢献者により形成される生活用具コレクション：石川県能登半島とフィリピン・イフガオ州にみられる収集活動と収集されたモノの機能についての研究」第161回北陸地区研究懇談会北陸人類学研究会 2020年度学位論文合同発表会，オンライン，2021年２月14日

7　その他

「未来に向けた地域民具コレクションン保存と活用」友の会ニュースNo.211，2020年10月５日

「地域民具コレクションを未来へつなぐ～新たな資料保存と記録の方法の探求～」REKIHAKU，国立歴史民俗博物館編，2021年２月26日

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況

①　歴博

基幹研究プロジェクト「総合資料学の創生と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」(研究代表：後藤真)

３　国際交流事業

「49th joint meeting of the CIDOC CRM SIG and ISO/TC46/SC４/WG９」への参加，2021年３月８－11日，オンライン

8-11 March 2021

国際シンポジウム「CRM Symposium 2021: Challenges to manage cultural resources during crises」の開催，2021年３月23日，オンライン（包括連携協定のもとバンドン工科大学と共催）

三　社会活動等

四　活動報告

３　研究・調査プロジェクト報告

本年度は新型コロナウイルスの影響からフィールド調査やイベントの中止・延期が相次いだ一方で，コロナ禍における歴史文化資料の保存・活用の新しいスタイルについて考えるイベントをオンラインで開催し議論を行った。また，感染対策を行いつつ石川県珠洲市や輪島市，岩手県奥州市等にて地域の民具コレクションをはじめとした地域歴史文化資料の実態調査，データ収集を進めた。歴史文化資料（特に民俗資料）のデータ公開に向け，歴民カード（民俗）を対象に，CIDOCの概念参照モデル（CRM）を用いた資料情報の記録方法の検討を進め，その成果を国際学会や研究集会において発表した。昨年度から進められていたバンドン工科大学との包括連携協定の締結を取りまとめ，同大学と共同で国際シンポジウムを開催した。

瀧上　舞　TAKIGAMI Mai　プロジェクト研究員（2018.11～）

【学歴】名古屋大学理学部卒業（2007年３月），東京大学新領域創成科学研究科先端生命科学専攻修士課程修了（2009年３月），東京大学新領域創成科学研究科先端生命科学専攻博士課程単位取得退学（2012年３月），同上修了（2015年３月）
【職歴】日本学術振興会特別研究員（DC１）（2009年４月－2012年３月），日本学術振興会特別研究員（PD）（2011年４月-2015年３月），山形大学学術研究員（2015年４月－現在），山形大学プロジェクト教員（講師）（2018年７月－現在），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部プロジェクト研究員（2018.11月－現在）
【学位】博士（生命科学）（東京大学）（2015年３月取得）【専門分野】生物考古学，文化財科学，同位体生態学，人類学【主な研究テーマ】アンデス地域におけるラクダ科動物飼育とトウモロコシ栽培の伝播と利用変遷の研究，先史日本における古人骨の年代学的研究【所属学会】文化財科学会，古代アメリカ学会，人類学会，Society for American Archaeology【研究目的・研究状況・メールアドレス】人類の多様な環境への適応と社会発展との関連性について探求している。特に，生物考古学資料を用いた同位体生態学的調査により食物資源の獲得戦略の変遷に注目している。

●主要業績

１.【論文】Mai Takigami, Kazuhiro Uzawa, Yuji Seki, Daniel Morales Chocano & Minoru Yoneda, “Isotopic Evidence for Camelid Husbandry During the Formative Period at the Pacopampa Site, Peru.”, Environmental Archaeology, 25（３），pp.262-278，2020. DOI : 10.1080/14614103.2019.1586091.（査読有）

２.【論文】瀧上舞，“アンデス文明における食性変化―ナスカ地域の事例より―”，古代文化，公益財団法人古代学協会，第69巻第１号，pp.73-83，2017年（査読有）

３.【論文】Mai Takigami, Izumi Shimada, Rafael Segura, Hiroyuki Matsuzaki, Fuyuki Tokanai, Kazuhiro Kato,

Hitoshi Mukai, Omori Takayuki and Minoru Yoneda, “Assessing the Chronology and Rewrapping of Funerary Bundles at the pre-Hispanic Religious Center of Pachacamac, Peru.”, Latin American Antiquity, vol. 25（３）, pp.322-343, 2014.（査読有）

４.【著書（分担・共著）】瀧上舞・米田穣,「食料へのアクセスと権力生成」, 関雄二（編）『アンデス文明―神殿から読み取る権力の世界』, 臨川書店, pp.291-317, 2017年

５.【著書（分担・共著）】瀧上舞・米田穣,「ナスカ砂漠に生たる人々と食性の変化」, 青山和夫・米延仁志・坂井正人・高宮広土（編）『文明の盛衰と環境変動 ―マヤ・アステカ・ナスカ・琉球の新しい歴史像―』, 岩波書店, pp.157-171, 2014年

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

１　著書

分担Mai Takigami and Minoru Yoneda「Stable isotope analysis」, In: Shin, Dong Hoon, Bianucci, Raffaella (eds.),『The Handbook of Mummy Studies: New Frontiers in Scientific and Cultural Perspectives』, Springer Singapore, 2020年10月18日（査読有）

２　論文

Norma Ratto, Leandro Luna, Claudia Aranda, Juan Pablo Miyano, Irene Lantos, Mai Takigami, Minoru Yoneda, Hiroyuki Matsuzaki, Fuyuki Tokanai, Adolfo Gil「First results on diet and mobility of the agropastoral societies of western Catamarca, Argentina」『Quaternary International』548, pp.95-108, Elsevier 2020年５月（査読有）

７　その他

コラム㉝「同位体分析による古食性推定」伊藤伸幸：監修・嘉幡茂・村上達也：編『メソアメリカ文明ゼミナール』勉誠出版, 2021年１月

藤尾慎一郎, 木下尚子, 坂本稔, 瀧上舞, 篠田謙一「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.247-265, 2021年３月（査読有）

藤尾慎一郎, 坂本稔, 瀧上舞「愛知県清須市朝日遺跡出土弥生人骨の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.267-275, 2021年３月（査読有）

竹中正巳, 坂本稔, 瀧上舞「鹿児島県奄美群所在遺跡出土人骨の年代学的調査」国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.459-471, 2021年３月（査読有）

竹中正巳, 坂本稔, 瀧上舞「鹿児島県徳之島所在遺跡出土人骨の年代学的調査」国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.441-448, 2021年３月（査読有）

竹中正巳, 坂本稔, 瀧上舞「鹿児島県南種子島町広田遺跡出土人骨の年代学的調査」国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.427-432, 2021年３月（査読有）

竹中正巳, 坂本稔, 瀧上舞「宮崎県えびの市島内地下式横穴墓群出土人骨の年代学的調査」国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.411-416, 2021年３月（査読有）

竹中正巳, 坂本稔, 瀧上舞「鹿児島県内出土人骨の年代学的調査」国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.395-401, 2021年３月（査読有）

濵田竜彦, 坂本稔, 瀧上舞「島根県出雲市猪目洞窟遺跡出土人骨の年代学的調査」国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.321-327, 2021年３月（査読有）

清家章, 坂本稔, 瀧上舞「岡山県内古墳出土人骨の年代学的調査」国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.345-359, 2021年３月（査読有）

清家章, 坂本稔, 瀧上舞「香川県高松市高松茶臼山古墳第I主体部E地区出土古墳人骨の年代学的調査」国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.361-367, 2021年３月（査読有）

清家章, 坂本稔, 瀧上舞「岡山県倉敷市中津貝塚出土経文人骨の年代学的調査」国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.341-344, 2021年３月（査読有）

瀧上舞, 坂本稔, 藤尾慎一郎「佐賀県唐津市大友遺跡第５・６次調査出土弥生人骨の補正年代について」国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告』228, pp.375-384, 2021年３月（査読有）

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況

③　機構
大学共同利用機関法人機構間連携研究「日本列島における人間･文化の起源とその発展に関する総合的研究」（研究代表者：斎藤成也，2018年度～2021年度）

２　外部資金による研究
科学研究費補助金（新学術）「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」（研究代表者：藤尾慎一郎，2018～2022年度）研究協力者
科学研究費補助金（若手）「古代アンデスの大型家畜利用の変遷とその社会的背景に関する生物考古学研究」（研究代表者：瀧上舞，2019～2022年度）
科学研究費補助金（基盤A）「社会的記憶の観点からみたアンデス文明史の再構築」（研究代表者：關雄二，2020～2023年度）研究分担者
科学研究費補助金（基盤B）「総合資料学にもとづく古代アンデス文明の社会統合の解明」（研究代表者：鵜澤和宏，2020～2023年度）研究分担者

三　社会活動等

四　活動報告

箱﨑　真隆　HAKOZAKI Masataka　プロジェクト研究員（2019.7～）

生年：1982

【学歴】福島大学教育学部生涯教育課程環境化学教育コース（2005年卒業），福島大学大学院教育学研究科教科教育専攻（2008年修了），東北大学大学院生命科学研究科生態システム生命科学専攻（2012年修了）
【職歴】国立大学法人名古屋大学年代測定総合研究センター研究員（2012），国立大学法人名古屋大学年代測定総合研究センター研究機関研究員（2014），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部特任助教（2019），同科研費支援研究員（2019.4～６），同プロジェクト研究員（2019.7～）
【学位】博士（生命科学）（東北大学）（2012年取得）
【専門分野】年輪年代学，放射性炭素年代学，文化財科学，古生態学
【主な研究テーマ】過去１万年を超える年輪幅および酸素同位体比標準年輪曲線を構築する研究，北半球および北東アジアにおける放射性炭素年代暦年較正の高精度化を目指す研究，完新世温帯性針葉樹埋没林の古生態を復元する研究
【所属学会】日本植生史学会，日本生態学会，日本文化財科学会，日本地球惑星科学連合，日本第四紀学会，日本AMS研究協会，日本樹木年輪研究会
【研究目的・研究状況】近年，日本で確立された酸素同位体比年輪年代法と炭素14スパイクマッチング法により，北東アジアの年輪年代測定の最大の障害となっていた「樹種の壁」が打ち破られた。これにより，様々な地域・時代の木質文化財，自然埋没木に誤差０年の年代情報の付与が可能となった。年輪酸素同位体比は気候（主に降水量）復元に，年輪炭素14濃度は太陽活動復元に応用できる。２つの新しい年輪年代法を駆使して，東北アジアの歴史事象と気候変動，太陽活動との関係を明らかにする。

●主要業績

１．【論文】Hakozaki M, Miyake F, Nakamura T, Kimura K, Masuda K, Okuno M, Verification of the annual dating of the 10th century Baitoushan Volcano eruption based on AD 774–775 carbon-14 spike, Radiocarbon, 60（１），pp.261–268. 2018.
２．【論文】Miyake F, Masuda K, Nakamura T, Kimura K, Hakozaki M, Jull T, Lange T, Cruz R, Panyushkina I, Baisan C, Salzer M, Search for annual carbon-14 excursions in the past, Radiocarbon, 59（２），pp.315–320, 2017.
３．【論文】Hakozaki M, Kimura K, Tsuji S, Suzuki M, Tree-ring study of a late Holocene forest buried in the Ubuka Basin, southwestern Japan, IAWA Journal, 33（３），pp.287–299, 2012.
４．【論文】箱﨑真隆，樹木年輪の酸素同位体比に基づく環境変動復元の現在，考古学ジャーナル，743，pp.5–8，ニューサイエンス社，2020.

5．【論文】箱﨑真隆，酸素同位体比年輪年代法による植生史学・考古学研究の新展開，季刊考古学，145，pp.77-82，2018.

●2020年度の研究教育活動

一　研究業績

1　著書

箱﨑真隆「第２章 年輪年代学の現在」坂本稔・横山操編『国立歴史民俗博物館研究叢書８　樹木・木材と年代研究』，pp.29-52，2021年３月１日

箱﨑真隆「第九章 酸素同位体比年輪年代法の開発 第一節 年輪年代法とは何か」中塚武監修『気候変動から読みなおす日本史』第２巻『古気候の復元と年代論の構築』，pp.203-212，2021年１月30日

箱﨑真隆「第九章 酸素同位体比年輪年代法の開発 第三節 従来法からみた酸素同位体比年輪年代法の長所と短所」中塚武監修『気候変動から読みなおす日本史』第２巻『古気候の復元と年代論の構築』，pp.220-228，2021年１月30日

中塚武，箱﨑真隆，木村勝彦「第十章 酸素同位体比クロノロジーの時空間的拡大と応用　第一節　マスタークロノロジーの構築」中塚武監修『気候変動から読みなおす日本史』第２巻『古気候の復元と年代論の構築』，pp.229-239，2021年１月30日

木村勝彦，箱﨑真隆「第十章 酸素同位体比クロノロジーの時空間的拡大と応用 第三節 年代決定への応用―東日本」中塚武監修『気候変動から読みなおす日本史』第２巻『古気候の復元と年代論の構築』，pp.247-258，2021年１月30日

箱﨑真隆「第十章 酸素同位体比クロノロジーの時空間的拡大と応用 コラム③ 東アジアへの展開」中塚武監修『気候変動から読みなおす日本史』第２巻『古気候の復元と年代論の構築』，pp.259-265，2021年１月30日

2　論文

En-Bi Choi, Masaki Sano, Jun-Hui Park, Yo-Jung Kim, Zhen Li, Takeshi Nakatsuka, Masataka Hakozaki, Katsuhiko Kimura, Hyun-Min Jeong, Jeong-Wook Seo「Synchronizations of tree-ring δ18O time series within and between tree species and provinces in Korea: a case study using dominant tree species in high elevations」『Journal of Wood Science』66-1, Springer Science and Business Media LLC，2020年12月（査読有）

箱﨑真隆「樹木年輪の酸素同位体比に基づく環境変動復元の現在」『考古学ジャーナル』743，pp.5-8，ニューサイエンス社，2020年７月

M. Hakozaki, F. Miyake, T. Nakamura「775 and 994 14C events in the tree-rings of northern Japanese trees」『Proceedings of EA-AMS ８ & JAMS-22』pp.89-90，Nagoya University，2020年６月

3　調査・発掘調査報告書，自治体史・史料集，辞典など

箱﨑真隆，木村勝彦，李貞，中塚武「酸素同位体比年輪年代法と炭素14年代法に基づく福井城跡出土材の年代測定」『福井県埋蔵文化財調査報告第173集 福井城跡―JR北陸線外２線連続立体交差事業に伴う調査―』pp.233-236，福井県教育庁埋蔵文化財調査センター，2021年３月15日

5　学会・外部研究会発表

箱﨑真隆「異常年輪の検出に向けた超高解像度画像簡易撮影技術の開発」JpGU 2020，オンライン，2020年７月12日

坂本稔，箱﨑真隆，横山操，門叶冬樹，光谷拓実「日本産樹木年輪の単年輪14C測定―AD1158～1436」日本文化財科学会第37回大会，オンライン，2020年９月５日

佐野雅規，李貞，箱﨑真隆，SEO Jeong-Wook, CHEN I-Ching，安江恒，木村勝彦，中塚武「東アジアにおける年輪酸素同位体比データの拡充とその利用による年代決定の可能性」日本文化財科学会第37回大会，オンライン，2020年９月５日

中尾七重，坂本稔，箱﨑真隆「利根川流域の17世紀民家のスダジイについて」日本文化財科学会第37回大会，オンライン，2020年９月５日

多田悠馬，三宅芙沙，菅澤佳世，中村俊夫，中塚武，門叶冬樹，坂本稔，箱﨑真隆「樹木年輪中炭素を用いたキャリントンSEP（Solar Energetic Particle）イベントの探査」第81回応用物理学会秋季学術講演会，2020年９月８日

Hiroko Miyahara, Toru Moriya, Fuyuki Tokanai, Mirei Takeyama, Hirohisa Sakurai, Motonari Ohyama, Masataka Hakozaki「Solar cycle around the onset of the Spoerer Minimum」AGU Fall Meeting 2020，アメ

リカ，オンライン，2020年12月１日

二　主な研究教育活動

１　主な共同研究等参加状況

①　歴博

機関拠点型基幹研究「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」(研究代表者：西谷大，2016～2021年度)

③　機構

人間文化研究機構・ネットワーク型基幹研究プロジェクト・地域研究推進事業「北東アジアにおける地域構造の変容：越境から考察する共生への道」(研究代表者：池谷和信，2016～2021年度)

２　外部資金による研究（科学研究費などの外部資金，各種補助金による研究，企業・自治体による研究）

科学研究費補助金（基盤A)「過去３万年の極端気候・極端災害史の精密編年に向けた新しい年輪年代法の基盤研究」(2020～2024年度）研究代表者

科学研究費補助金（基盤S)「過去１万年間の太陽活動」(研究代表者：三宅芙沙，2020～2024年度）研究分担者

科学研究費補助金（基盤A)「多核種分析による完新世の極端太陽現象の頻度と規模解明」(研究代表者：三宅芙沙，2020年度（上記基盤Sが採択されたため単年度で廃止)）研究分担者

科学研究費補助金（挑戦的研究（萌芽))「宇宙線生成核種を用いたシュワーベサイクル検出手法の確立」(研究代表者：三宅芙沙，2020～2022年度）研究分担者

科学研究費補助金（基盤B)「東アジア産木材の年代決定と産地判別を可能にする年輪酸素同位体比データベースの構築」(研究代表者：佐野雅規，2020～2022年度）研究分担者

科学研究費補助金（新学術)「考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明」(研究代表者：藤尾慎一郎，2018～2022年度）研究協力者

科学研究費補助金（基盤B)「東アジア新石器文化の実年代体系化による環境変動と生業･社会変化過程の解明」(研究代表者：小林謙一，2018～2022年度）研究分担者

科学研究費補助金（挑戦的研究（萌芽))「高精度年代測定法の開発と適用可能な考古・歴史資料の拡大」(研究代表者：小林謙一，2019～2021年度）研究分担者

科学研究費補助金（基盤A)「単年輪14C測定による較正曲線の地域効果・微細構造の解明」(研究代表者：坂本稔，2018～2021年度）研究分担者

科学研究費補助金（若手A)「東北日本における過去3400年間の酸素同位体比標準年輪曲線の確立」(2017年度～2020年度）研究代表者

科学研究費補助金（基盤S)「年輪酸素同位体比を用いた日本列島における先史暦年代体系の再構築と気候変動影響評価」(研究代表者：中塚武，2017年度～2021年度）研究分担者

三　社会活動等

１　館外における各種委員

日本第四紀学会2020年度論文賞選考委員

３　マスコミ

「倒れたご神木は若かった 樹齢1300年→670年 瑞浪・大湫」読売新聞（web版)，2021年３月25日

「樹齢1300年の大杉,実は670年だった 地元は驚愕」朝日新聞（web版)，2021年３月25日

「豪雨で倒木の大杉「樹齢1300年」多スギでした「学術的価値，依然高い」」岐阜新聞（web版)，2021年３月24日

「ご神木の樹齢は半分の670年でした 岐阜・瑞浪，豪雨で倒れ調査」中日新聞（web版)，2021年３月24日

「樹齢「1300年」のご神木 実は670年だった 豪雨で倒れた後に分析で判明 岐阜県瑞浪市」メーテレ，2021年３月24日

四　活動報告

１　受賞歴

日本文化財科学会第37回大会ポスター賞：佐野雅規，李貞，箱﨑真隆，SEO Jeong-Wook, CHEN I-Ching，安江恒，木村勝彦，中塚武「東アジアにおける年輪酸素同位体比データの拡充とその利用による年代決定の可能

性」

3　研究・調査プロジェクト報告

遺跡出土木材サンプリング調査 於 富士宮市埋蔵文化財センター．2020年６月19日．

遺跡出土木材サンプリング調査 於 三鷹市教育委員会．2020年６月24日．

遺跡出土木材サンプリング調査 於 宮城県教育庁文化財課．2020年７月10日．

遺跡出土木材サンプリング調査 於 群馬県埋蔵文化財調査事業団．2020年８月18日．

高樹齢現生木倒木状況調査 於 岐阜県瑞浪市大湫町大湫神明神社．2020年８月28日．

高樹齢現生木サンプリング調査 於 岐阜県瑞浪市大湫町大湫神明神社．2020年９月15日．

遺跡出土木材サンプリング調査 於 東京都埋蔵文化財センター染地三丁目分室．2020年９月25日．

高樹齢現生木サンプリング調査 於 岐阜県瑞浪市大湫町大湫神明神社．2020年９月30日．

遺跡出土木材サンプリング調査 於 福井県若狭町西塚古墳．2020年11月16日．

高樹齢現生木サンプリング調査 於 千葉県佐倉市佐倉城址公園夫婦モッコク．2021年３月18日．